

## 光格上皇主催御会和歌年表 — 文政期編

盛 田 帝 子

### 要 旨

本稿は「光格天皇主催御会和歌年表—享和期・文化期編」（『大手前大学論集』第19号）の続編として、文化15年（文政元年）（1818）～文政13年（天保元年）（1830）までに光格上皇が主催した仙洞御会での光格上皇の御製、および仁孝天皇が主催した内裏御会での光格上皇の御製・仁孝天皇の御製を年表形式で提示したものである。底本には、国立国会図書館所蔵『内裏和歌御会』（請求記号：124-202）・同所蔵『仙洞和歌御会』（124-202）を用いた。また代々御所伝受の保持者を輩出した有栖川宮家伝来の宮内庁書陵部所蔵『御会和歌留』（請求記号：有栖-5081）によって校訂した。文政期は、光格上皇の歌人としての面に光をあてれば、仙洞御会を営みながら、仁孝天皇の歌道教育に力を注いだ時期であり、対面しての和歌指導を行い、仁孝天皇歌壇を支える事になる廷臣達をも含め、次々に御所伝受を相伝している。また在位中に引き続き、中宮欣子内親王の重用や女房歌人達の活躍なども見られる。その他の文化面に光をあてれば、管絃に力を入れながら、修学院離宮への御幸の再興や、中務卿韶仁親王への入木道御伝受の相伝、また、前権大納言四辻公萬から蘇合香、箏を相伝されるなどの事がある。『光格天皇実録』（ゆまに書房、2006年）等から出典を示して事項を記し、それらの事柄と御会の運営状況との関係性、文政期の光格上皇の動向を立体的に提示することを試みた。

**キーワード：**光格天皇、宮廷歌会、欣子内親王、仁孝天皇、御所伝受

## 1、解説

### 一、文政期の光格上皇と和歌御会

本稿は、光格上皇が48歳であった文化15年（1818）1月（4月22日に文政に改元）～60歳であった天保元年（1831）12月（文政13年12月10日に天保に改元）の14年間の御会和歌を中心とする年譜を掲載する。底本には、国立国会図書館所蔵『内裏和歌御会』（請求記号：124-202）・同所蔵『仙洞和歌御会』（124-202）を用いた。また代々御所伝受の保持者を輩出した有栖川宮家伝来の宮内庁書陵部所蔵『御会和歌留』（有栖-5081）によって校訂した。

譲位後、最初の正月を仙洞で迎えた光格上皇は、文化15年1月18日に披講をとまった和歌御会始に出御し「静かなるやまのゆき消の色そへて霞むはこやのはるぞたのしき」（歌題「霞添春気色」）と詠進。中宮も「さは姫の霞のころもかさねてぞはるとは見ゆれ山のはのそら」（同題）と詠進している。光格上皇の御製からは「はこやのはる」（仙洞御所で迎える初めての春）が、精神的にも身体的にも満ち足りた「たのしき」状態であったことが知られる。その6日後の1月24日、内裏で行われた仁孝天皇主催の和歌御会始には「ことたがへにその品がらはかはれどもおなじ心よきみが代の春」（歌題「貴賤迎春」）と、仁孝天皇の治世に対するメッセージを含んだ御製を詠進している。

このように、仙洞御所・内裏御所で行われた和歌御会始を皮切りに、文政年間を通じて、仙洞御所では、年ごとに行われる七夕御会や柿本神影供、月ごとに行われる月次御会、また、水無瀬宮御法楽、聖廟御法楽、石清水社御法楽、賀茂社御法楽などの法楽和歌御会、選ばれし歌人が集い不定期に行われる当座御会、修学院離宮へ御幸した折に開催する修学院御幸御会・修学院御当座などを主催してみずからも詠進している。また、一年の初めに仁孝天皇が主催して内裏で催される当座御会始には、仙洞御所から内裏へ御幸して出御し、その場で御製を詠進。仁孝天皇の御製を添削してもいい。

文政元年（1818）10月には、光格天皇の即位以来、宮廷歌壇の中心人物の一人であり、歌壇運営の補佐的役割を果たした実兄の閑院宮一品美仁親王が六十二歳で薨去。また文政4年10月には頭瘡を病み俄かに浮腫を発するが年内には順快するなどの事が起こっているが、文政7年9月には修学院離宮への御幸を再興し、文政10年には中務卿韶仁親王に入木道御伝受を相伝。また、文政2年には前権大納言四辻公萬から蘇合香、箏を相伝されるなど文化的な活動も精力的に行っている。

## 二、宮内庁書陵部所蔵『御会和歌留』について

ところで、宮内庁書陵部所蔵『御会和歌留』（有栖-5081）の文政十二年九月十四日の当座御会の記録の巻末に以下のように注記されている。

十月廿九日冷泉為全ヨリ御到来。十一月二日同家被返。

この当座御会は、文政12年9月14日、59歳の光格上皇が、修学院離宮に御幸した折に、壽月観において行った当座和歌御会の記録で、題者・奉行ともに冷泉為全が務めている。つまり、注記は、修学院離宮の壽月観で催された当座御会から約1か月半後の10月29日に、当日、題者・奉行を務めた冷泉為全より有栖川宮家に、当日詠進された詠草の記録が届き、それを書写した有栖川宮家から、11月2日に冷泉家に対して記録が返却されたことが知られるのである。

また、文政12年10月7日、仙洞で行われた当座御会の記録の巻末にも「十一月廿九日奉行為脩ヨリ御到来。十二月二日同家へ被返」と注記があり、奉行を勤めていた藤谷為脩（右兵衛督）のもとより、11月29日に有栖川宮家へ、10月7日の仙洞での当座御会に詠進された詠草記録が届き、それを書写し終えた有栖川宮家から12月2日に藤谷家に、その記録が返却されていることが知られるのである。これらの例から、宮内庁書陵部所蔵『御会和歌留』（有栖-5081）は、和歌御会で奉行を務めていた家等からその記録を借りて書写したものということが言えそうである。

同じく、『御会和歌留』（有栖-5081）によれば、文政8年4月24日、内裏で催された月次御会の仁孝天皇御製には「後日被出」との注記があり、巻末には「後日被出御製、五月七日御到来、同八日御順達」と注記がある。つまり、月次御会は4月24日に催されているが、実際に仁孝天皇の御製が提出されたのは5月7日であり、遅れて提出された仁孝天皇御製は、5月8日に順次、有栖川宮家などの御会人数に加えられている歌人のもとへ送達されたことが知られるのである。

『御会和歌留』（有栖-5081）には、他にも、詠進した歌人達の上記のような詠進の遅れ等の注記がたびたび施されており、御会和歌記録の成立の過程をうかがうことができる。

## 三、仁孝天皇への歌道教育

年譜を俯瞰して注目されるのは、譲位後の仁孝天皇に対する和歌の指導である。東山御文庫マイクロフィルム「仁孝天皇御詠草並光格天皇御添削書」（111-1-4-1）等の一連の資料によれば、光格上皇は、仁孝天皇が和歌御会に提出する前の御製のほぼ全てに添削を施している。添削は、御会始、七夕御会、重陽御会、月次御会、水無瀬宮

御法楽、聖廟御法楽、女房月次御会などの定例の和歌御会に加え、当座和歌御会や内々の和歌御会の御製にも及んでおり、即位後の仁孝天皇の和歌教育をいかに懇切丁寧に行っていたかが知られる。

例えば、文政2年12月25日に内裏で行われた和歌当座御会では、仁孝天皇は組題30首の内「千鳥」の題で「あらいその浪のさはぎのむら千鳥いづこの浦になきわたるらむ」を清書提出していることが国立国会図書館所蔵『内裏和歌御会』（請求記号：124-202）・宮内庁書陵部『御会和歌留』（有栖-5081）から知られるのだが、仁孝天皇が光格上皇に添削を請うために「千鳥」の題で詠進した御製が最初は三首であったことや、光格天皇の添削・批言については、東山御文庫マイクロフィルム「仁孝天皇御詠草並光格天皇御添削書」（111-1-4-1）のうちの「文政二年十二月廿五日 当座」とウハ書された包紙に包まれた〔光格上皇添削仁孝天皇御製〕1枚、および添付された〔光格上皇批言〕1枚から明らかになる。以下に翻刻する。

（光格上皇添削仁孝天皇御製）

千鳥

立帰りむかしのあとを  
したひつゝ、和哥の浦はに  
千鳥鳴なり  
／あらいその浪にさわぎて（→光格上皇添削：あらいその浪のさはぎの）  
立ちどりいづことまりと（→光格上皇添削：むらちどりいづこのうらに）  
鳴わたるらん  
すまの浦や月のかげさへ  
寒きよにいそべの千鳥  
ともさそふ聲

（光格上皇批言）

千鳥

はしも一通りは御宜候えども  
御哥がら十分になく候  
中が御宜しく存上候て  
少々  
直し上申候事  
猶くわしくは書とり  
がたく候まゝ

参上のせつ

可申上候事

兼仁

仁孝天皇は「千鳥」の題で三首の御製を光格上皇に提出した。光格上皇は、端、中、奥の三首の御製のうち、端の「立帰りむかしのあとをしたひつゝ和哥の浦はに千鳥鳴なり」は、歌としていちおうはできているけれども、風格が十分ではないという理由で落とし、中の「あらいその浪にさわぎて立ちどりいづことまりと鳴わたるらん」という御製の二句から三句にかけて、また四句に添削を加え、「あらいその浪のさはぎのむらちどりいづこのうらに鳴わたるらん」として合点（合格点）を与えている。仁孝天皇は、添削を受けた中の御製を清書して提出したことになる。ここで、注目したいのは、光格上皇の批言の中に「猶くわしくは書とりがたく候まゝ参上のせつ可申上候事」とあることで、添削書のみではなく、対面でしか教示できない事柄を、口頭で詳細に伝えていたことが知られるのである。このように、文政年間を通して、光格上皇はたびたび内裏に御幸して対面して和歌を教え、仁孝天皇主催の当座御会始にも出座していたことが知られるのである。

#### 四、仁孝天皇および廷臣たちへの御所伝受

仁孝天皇への歌道教育に重きを置きながら、他の廷臣たちにも御所伝受を相伝している。以下に関係事項とともに掲げる。

- ・文政元年（1818）10月6日 閑院宮一品美仁親王、薨去
- ・文政2年（1819）9月21日 仁孝天皇に和歌天仁遠波伝受を相伝（禁裏に御幸）
- ・文政2年10月17日 参議飛鳥井雅光に和歌天仁遠波伝受を相伝（仙洞）
- ・文政2年11月24日 閑院宮孝仁親王に和歌天仁遠波伝受を相伝（仙洞の御賀宴間）
- ・文政2年12月2日 関白一条忠良に和歌三部抄伝受を相伝（仙洞の御賀宴間）
- ・文政3年（1820）2月10日 有栖川宮韶仁親王に和歌天仁遠波伝受を相伝（仙洞の御賀宴間）
- ・文政3年（1820）2月20日 有栖川宮織仁親王、薨去
- ・文政4年（1821）2月8日 関白一条忠良に伊勢物語伝受を相伝（仙洞の御賀宴間）
- ・文政4年5月2日 正三位高松公祐に和歌天仁遠波伝受を相伝（仙洞）
- ・文政5年（1822）4月22日 仁孝天皇に和歌三部抄伝受を相伝（禁裏に御幸）
- ・文政8年（1825）9月21日 一條忠良に古今伝受を相伝（仙洞）
- ・文政9年（1826）9月26日 一條忠良に和歌灌頂以後の御伝受（一事伝受）を相伝

(仙洞)

- ・文政9年12月11日 仁孝天皇に伊勢物語伝受を相伝（禁裏に御幸）
- ・文政10年（1827）4月7日 中務卿韶仁親王に三部抄伝受を相伝（仙洞）
- ・文政12年（1829）9月27日 権中納言飛鳥井雅光に三部抄伝受を相伝（仙洞）

仁孝天皇に御所伝受の第一段階である天仁遠波伝受を相伝した光格上皇は、文政2年9月30日に内裏で催された当座御会において、「四方のくにおさまる君が御代なれや野やまのたびも道ひろくして」（歌題「旅」）と仁孝天皇の御代を寿ぐ御製を詠んでおり、第二段階の三部抄伝受を相伝した年の文政5年9月13日に、仁孝天皇が主催した内裏の当座御会には、光格上皇も御幸して出御し「秋いく世君が御池にくもるなよみづの心も月の光りと」（歌題「池月」）と詠み、仁孝天皇は「あやうさも影に忘れて渡らむ月こそしるべ木曾のかけ橋」（歌題「橋月」）と詠んでいる。和歌の添削や対面しての教導を通じて仁孝天皇が光格上皇の教えを吸収してゆく様子がうかがわれる。

## 五、中宮欣子内親王と女房歌人たち

光格上皇は中宮欣子内親王の御歌を上皇の次に位置付けて和歌御会記録に掲載させた。在位時代より、中宮の御歌を重んじ、宮中の女房歌人に添削を施すなどの指導を行っている。御会始、七夕御会、重陽御会には必ず女房達が詠進しており、宮廷御会において中宮をはじめとする女性歌人の活動が目される。

仙洞御会においても、文政2年までは「中宮御歌」として、皇太后となった文政3年3月14日以降は「大宮御歌」として欣子内親王の御歌が見える。例えば、文政2年1月18日に仙洞で催された御会始では「天晴有鶴声」という題で「さし出る朝日のそらのつるのこゑをのが心もはれわたるらし」、同年5月2日に内裏で催された御会始では「寄世祝言」という題で「くにたみもおさまれるよのときなりといはふ心はつきせざるらし」という御歌が光格上皇の御製の次に掲載されている。

## 2、凡例

- 一 国立国会図書館所蔵『内裏和歌御会』（請求記号：124-202：国会本内裏と記載）・同所蔵『仙洞和歌御会』（124-202：国会本仙洞と記載）を底本とし、宮内庁書陵部『御会和歌留』（有栖-5081：有栖川宮本と記載）で校訂した。
- 一 御会名、歌題、諸役名、光格上皇の御製翻刻は、全て原文通りとした。ただし、光格上皇・仁孝天皇の御製については、読みやすさを考えて、濁点を付した。なお〔 〕内は割注である。
- 一 光格上皇が、仁孝天皇主催の内裏和歌御会に出詠している場合も漏らさずその御製を記録

- した。その際、「院御製」として記録されているため、御製の最後に〔院御製〕と翻刻した。
- 一 仁孝天皇が主催した内裏和歌御会のすべての記録も翻刻した。その際、仁孝天皇の御製は備考に翻刻した。
  - 一 底本の注記、および光格天皇の伝記的事項は出典を示して記載した。
  - 一 中宮や女房が出詠している場合には、備考にその旨を記した。
  - 一 その他、特記すべき事項は備考に記した。

### 3、使用した文献および参考文献

国立国会図書館所蔵『内裏和歌御会』（請求記号：124-202）

国立国会図書館所蔵『仙洞和歌御会』（請求記号：124-202）

宮内庁書陵部『御会和歌留』（有栖－5081）

監修 藤井譲治 吉岡眞之『光格天皇実録』第三巻・第四巻（ゆまに書房、2006年）

本稿は、JSPS 科研費「幕末維新时期における天皇歌壇を中心とする文芸ネットワークの研究」（17K02479）による研究成果の一部である。



光格天皇主催御会和歌資料 ― 文政期編

年月日	年齢	御会名	場所	歌題	光格上皇御製および事項	題者	奉行	その他の諸役	出典	備考
文化15年 1月4日	48		内裏		光格上皇、禁裏に御幸始				光格天皇実録	
文化15年 1月7日	48		内裏		光格上皇、禁裏に御幸				光格天皇実録	
文化15年 1月18日	48	和歌御会始	仙洞	露添香気色	静かなるやまのゆき消の色 そへて霞むはこやのはるぞ たのしき	民部卿 (冷泉 為則卿)	民部卿 (冷泉 為則卿)	読師：権大納言 (大 炊御門経久卿)、講 師：雅久朝臣 (飛鳥 井侍従)、発声：源 中納言 (庭田重能 卿)	国会本仙洞 有栖川宮本	中宮御歌「さほ姫の霞のころもかさねてぞではとは見ゆ れ山のはのそら」(光格天皇御製の次に記載)。女房達： しん大納言、権中納言、あやめの小路、勾当内侍、中將 のないし、命婦いせ、命婦伯耆、伊賀、紀伊 (巻末)。「和 歌御会始」ヲ行ハル、出御、御製アラセラル」(光格天皇 実録)
文化15年 1月24日	48	御会始	内裏	貴陸迎春	ことぶくにその品がらははか はれどもおなじ心よきみが 代の春 (院御製)	左衛門督 (飛 鳥井雅光卿)	左衛門督 (飛 鳥井雅光卿)	読師：中山大納言 (忠頼卿)、講師：光 成 (藤橋弁)、発声： 綾小路三位 (有長 卿)	国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製 (巻頭) の次に光格上皇御製 (院御製) が 掲載。中宮御歌、なし。仁孝天皇御製「しづのめがむ や雪まの若なにも霞あへだてぬはるはしられて」(巻 頭)。女御・女房達：女御御方、宰相典侍、権典侍、新 大納言、権中納言、勾当内侍、中將内侍、侍従内侍、命 婦伊豫、命婦伯耆、命婦大御乳、伊賀 (巻末)
文化15年 2月5日	48		内裏		光格上皇、禁裏に御幸				光格天皇実録	
文化15年 2月11日	48	当座御会始	内裏	組題30首 (1～3字 題) 光格：松	すべらぎの代々のためしも 縁ぞふ雲井の松の春の言の 葉 (院御製)	冷泉前大納言 (為章卿)	万里小路中納 言 (建房卿)	講師：雅久朝臣 (飛 鳥井侍従)	国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「立春：うちはへて春くる今朝は吹風の池 のこほりをまだとくらし」(巻頭)。
文化15年 2月11日	48		内裏		光格上皇、禁裏に御幸				光格天皇実録	
文化15年 2月20日	48	当座御会始	仙洞	組題30首 (2字題) 光格：朝鸞	朝附日かすみにてはふ影 と>>もにねぐらを出る鸞の こゑ	雅久朝臣 (飛 鳥井侍従)	源中納言 (庭 田重能卿)	講師：雅久朝臣 (飛 鳥井侍従)	国会本仙洞 有栖川宮本	「和歌当座御会始」ヲ行ハル、出御アラセラル」(光格天皇 実録)
文化15年 2月21日	48		内裏		光格上皇、禁裏に御幸				光格天皇実録	
文化15年 2月22日	48	水無瀬宮御 法楽	内裏	組題20首 (1～2字 題) 仁孝：河霞		冷泉前大納言 (為章卿)	左衛門督 (飛 鳥井雅光卿)	講師：経則 (勸修寺 弁)	国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「河霞：水無瀬河行せの水も今朝は先春を しらせて霞むのどけさ」
文化15年 2月22日	48	水無瀬宮御 法楽	仙洞	組題3首 (1字題) 光格：花	思ひねの夢の面影覚ぬらし まゆひにけたる今朝の初花	左衛門督 (飛 鳥井雅光卿)	雅久朝臣 (飛 鳥井侍従)	講師：光成 (広橋弁)	国会本仙洞 有栖川宮本	「小御所二於テ水無瀬宮御法楽和歌ノ披露アリ」(光格天 皇実録)
文化15年 2月24日	48	月次御会	内裏	組題100首 (1～2 字題) 仁孝：霞、逢 恋		左衛門督 (飛 鳥井雅光卿)	雅久朝臣 (飛 鳥井侍従)		国会本内裏	仁孝天皇御製「霞：この朝け舟漕出る浦のなみ塩路はる かにかすみとどけさ、逢恋：うき月すきし思ひのつれ なさもわすれてよこやはらずまくら」
文化15年 2月25日	48	聖廟御法楽	内裏	組題50首 (2～3字 題) 仁孝：早春梅		冷泉前大納言 (為章卿)	源中納言 (庭 田重能卿)	雅久朝臣 (飛鳥井侍 従)	国会本内裏	仁孝天皇御製「早春梅：のどけしなけいづこへだてぬ春風 に此神がきの梅ぞにほへる」
文化15年 2月25日	48	聖廟御法楽	仙洞	組題50首 (1～3字 題) 光格：霞春式	佐保姫の春の心のゆたけさ はよにみてる袖のかすみこ しる	冷泉前大納言 (為章卿)	万里小路中納 言 (建房卿)	基仲朝臣 (東園頭中 将)	国会本仙洞 有栖川宮本	「小御所二於テ聖廟御法楽和歌ノ披露アリ」(光格天皇実 録)
文化15年 2月28日	48	当座御会	内裏	組題20首 (2～3字 題) 仁孝：花映日		左衛門督 (飛 鳥井雅光卿)	左衛門督 (飛 鳥井雅光卿)		国会本内裏	仁孝天皇御製「花映日：久堅の天の戸出る朝日がけ梅の 花の色をそふらし」



光格上皇主催御会和歌年表 ― 文政期編

文化15年 3月1日	48		仙詞		光格上皇、鎮守社・柿本社 に参拜				光格天皇実録	
文化15年 3月2日	48		内裏		光格上皇、禁裏に御幸				光格天皇実録	
文化15年 3月7日	48	当座御会	仙詞	組題20首 (2字題) 光格：尋花	白雲の脚或色のそらめのみ いく重の峯に花をとひつゝ	冷泉前大納言 〔為章卿〕	万里小路中納言 〔建房卿〕		国会本仙洞 有栖川宮本	〔和歌当座御会ヲ行ハル、出御アラセラル〕 (光格天皇実録)
文化15年 3月24日	48	月次御会	内裏	桃花、秋冬、春恋		雅久朝臣 (飛鳥井侍従)	右衛門督 (鷹尾隆純卿)		国会本内裏	仁孝天皇御製「桃花：久かたの空もひとつにくれなるの色にうつるふちも」の花國、新冬：をしめどもくれ行はるのかは水に影ぞながるゝ岸のやまぶさ、春恋：おほろけにかすめる春の月よりも夜半の思ひのはれまなくして」
文化15年 3月26日	48		内裏		光格上皇、禁裏に御幸				光格天皇実録	
文化15年 3月28日	48		仙詞		管弦の御遊のため出御。第 ノ御所作				光格天皇実録	
文化15年 4月5日	48		内裏		光格上皇、禁裏に御幸				光格天皇実録	
文化15年 4月8日	48	和歌当座御会	内裏	組題20首 (1～2字題) 仁孝：祝		民部卿 (冷泉為則卿)	右兵衛督 (藤谷為脩卿)		国会本内裏	仁孝天皇御製「祝：昔いまさかゆる道は數嶋の大和もろ人いはふ言の葉」
文化15年 4月11日	48		仙詞		光格上皇、鎮守社・柿本社 に参拜				光格天皇実録	
文化15年 4月19日	48		仙詞		光格上皇、中宮御所に渡御				光格天皇実録	
文化15年 4月20日	48		内裏		光格上皇、禁裏に御幸				光格天皇実録	
文化15年 4月21日	48	神影供	仙詞	首夏藤	福とるうづきのさゝに咲か けて春をのこせるはなのふ ちなみ	冷泉前大納言 〔為章卿〕	源中納言 (庭田重能卿)	読師：花山院大納言 〔家厚卿〕、講師：光成 (広橋弁)、筑声：綾小路三位 (有長卿)	国会本仙洞 有栖川宮本	〔柿本神影供ヲ行ハル、出御アラセラル〕 (光格天皇実録)
文政1年 4月28日	48	月次御会	内裏	組題100首 (2～4字題) 仁孝：始聞郭公、翟姜露		民部卿 (冷泉為則卿)	万里小路中納言 (建房卿)		国会本内裏	仁孝天皇御製「始聞郭公：待ゆふべそれかかとばかりほとゝぎすまた里なれぬ初ねをぞぞく、翟姜露：しめゆひし底の簾の床夏は朝夏の露に色ぞふ」
文政1年 4月30日	48		仙詞		管弦の御遊のため出御。笛 の御所作				光格天皇実録	
文政1年 5月7日	48		内裏		内々に仕舞禰子御覧のため 禁裏に御幸				光格天皇実録	
文政1年 5月21日	48	当座御会	仙詞	組題30首 (2～3字題) 光格：峰照射	筑波山葉やましげ山峯つゝ さともしの影はさしもへた てず	民部卿 (冷泉為則卿)	右兵衛督 (藤谷為脩卿)		国会本仙洞 有栖川宮本	〔和歌当座御会ヲ行ハル、出御アラセラル〕 (光格天皇実録)
文政1年 5月24日	48	月次御会	内裏	夏草、螢、旅友		民部卿 (冷泉為則卿)	右衛門督 (鷹尾隆純卿)		国会本内裏	仁孝天皇御製「夏草：夏もはやいつしかふかくなりぬとやまがきにしげる露の草村、螢：月はまた木の間にみえぬ夕暮に影すゝしくも遊哉かふ、旅友：都をば出しし日より行つてかたからふ旅の友ぞ親しき」
文政1年 5月25日	48	和歌当座御会	内裏	組題30首 (2字題) 仁孝：夏藻		為全朝臣 (冷泉景侍従)	右衛門督 (鷹尾隆純卿)		国会本内裏	仁孝天皇御製「夏藻：夏の日にくるゝ川せの浪風に底の玉ものなびく涼しさ」
文政1年 5月26日	48		内裏		光格上皇、禁裏に御幸				光格天皇実録	

年月日	年齢	御会名	場所	歌題	光格天皇御製および事項	題者	奉行	その他の諸役	出典	備考
文政1年 5月27日	48		仙洞		寛政の御遊のため出御。第 の御所作				光格天皇実録	
文政1年 6月1日	48		仙洞		光格上皇、鎮守社に参拝				光格天皇実録	
文政1年 6月13日	48		仙洞		光格上皇、鎮守社に参拝				光格天皇実録	
文政1年 6月21日	48		仙洞		光格上皇、鎮守社・柿本社 に参拝				光格天皇実録	
文政1年 6月24日	48	月次御会	内裏	組題100首 (2~3字 題) 仁孝：蚊遣火、 山家		雅久朝臣 (飛 鳥井侍従)	左衛門督 (飛 鳥井雅光卿)		国会本内裏	仁孝天皇御製「蚊遣火：さらでだにいぶせき夏のしづが やに煙たてつゝかやりをぞなく、山家：よきはなれしづ かにしめるなるひととて人もとひこぬおく山のいほ」 (光格天皇実録)
文政1年 6月25日	48	聖廟御法楽	仙洞	組題50首 (2字題) 光格：納涼	手にならず雨もしばしわす れ水むすべばすゝし杜の下 かげ	民部卿 (冷泉 為則卿)	右兵衛督 (藤 谷為脩卿)	講師：為全朝臣 (冷 泉侍従)	国会本仙洞 有栖川宮本	
文政1年 6月25日	48	聖廟御法楽	内裏	組題50首 (2~3字 題) 仁孝：薩羅妻		民部卿 (冷泉 為則卿)	万里小路中納 言 (建房卿)	講師：俊明朝臣 (坊 城頭弁)	国会本内裏	仁孝天皇御製「薩羅妻：薩羅もいろにぞうつる夏草のし げる籬のなでこの花」
文政1年 7月1日	48		仙洞		光格上皇、鎮守社・柿本社 に参拝				光格天皇実録	
文政1年 7月7日	48	七夕御会	内裏	七夕喜晴	一年のくもきりはれし天の かはほしのこゝろも空に見 えつゝ (院御製)	民部卿	為脩		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製 (巻頭、光格上皇御製の順に掲載。中宮 御歌なし。仁孝天皇御製「雲きりははつあきかげに晴て けふちざりうれしくほしやあふらむ」。女御・女房達： 女御御方、大典侍、幸相典侍、権典侍、新大納言、権中 納言、勾当内侍、侍従内侍、命婦伊豫、命婦伯耆、命婦 大御乳、伊賀
文政1年 7月14日	48		内裏		光格上皇、禁裏に御幸				光格天皇実録	
文政1年 7月14日	48		仙洞		光格上皇、柿本社に参拝				光格天皇実録	
文政1年 7月18日	48		仙洞		光格上皇、鎮守社・柿本社 に参拝				光格天皇実録	
文政1年 7月20日	48		内裏		光格上皇、禁裏に御幸				光格天皇実録	
文政1年 7月24日	48	月次御会	内裏	女郎花、秋風、寄糸 恋		為全朝臣 (冷 泉侍従)	右衛門督 (驚 尾隆純卿)		国会本内裏	仁孝天皇御製「女郎花：をみなへしさげる野原にかりね して契りわすれぬ露のたまくら、秋風：今朝ははや庭の おき原そよぎつゝ決すゝしき秋かせぞふく、寄糸恋：う き中にかけてもあはぬかいたいとを玉の緒にとはなと思ひ けむ」
文政1年 8月24日	48	月次御会	内裏	組題100首 (2~4 字題) 仁孝：江月、 月前雁		民部卿 (冷泉 為則卿)	右衛門督 (驚 尾隆純卿)		国会本内裏	仁孝天皇御製「江月：秋ふかくまきみだるゝむらあしの 露の玉江にすめるつきかげ、月前雁：雲もなしきすめ るよの天のとにこゑをほにあげてわたる雁がね」
文政1年 8月28日	48	当座御会	内裏	組題20首 (2字題) 仁孝：河霧		民部卿 (冷泉 為則卿)	万里小路中納 言 (建房卿)		国会本内裏	仁孝天皇御製「河霧：大ぬ川くだす筏もみえみわす秋霧 深き浪の夕暮」
文政1年 9月1日	48		仙洞		光格上皇、鎮守社に参拝				光格天皇実録	

文政1年 9月9日	48	重陽御会	内裏	菊花久體		冷泉前大納言 (為章卿)	民部卿 (冷泉 為則卿)		国会本内裏	仁孝天皇御製「ふりせじなこゝのがさねににほへるもな ほなが月のしらぎくのはな」。女御・女房達：女御御方、 勾当内侍、侍従内侍、命婦伊豫、命婦伯耆、命婦大御乳
文政1年 9月15日	48		内裏		光格上皇、禁裏に御幸				光格天皇実録	
文政1年 9月24日	48	月次御会	内裏	秋時雨、紅葉、海辺 朝		為全朝臣 (冷 泉侍従)	雅久朝臣 (飛 鳥井侍従)		国会本内裏	仁孝天皇御製「秋時雨：さらでだに秋のゆふへは物うき にさびしさそへて時雨降なり、紅葉：露にそめ霜にぬれ つゝ紅葉ゝの色ふかくなる秋の此ごろ、海辺朝：沖つか せ朝ざりはるゝ浪の上にあらはれ出る浦の初しま」
文政1年 10月6日	48				閑院宮一品美仁親王薨去 (62歳)				光格天皇実録	
文政1年 10月19日	48		内裏		光格上皇、禁裏に御幸				光格天皇実録	
文政1年 10月24日	48	月次御会	内裏	組題16首 (1～4字 題) 寄名所恋		雅久朝臣 (飛 鳥井侍従)	左衛門督 (飛 鳥井雅光卿)		国会本内裏	仁孝天皇御製「寄名所恋：いつ返かあはでの社の夕時雨 袖のみぬれて年のへぬらん」
文政1年 10月27日	48		内裏		光格上皇、禁裏に御幸				光格天皇実録	
文政1年 11月5日	48		仙洞		光格上皇、鎮守社・柿本社 に参拜				光格天皇実録	
文政1年 11月7日	48		仙洞		上下御雲社に来たる十日よ り七日間、御祈禱を仰せつ く				光格天皇実録	
文政1年 11月10日	48		内裏		禁裏に御幸。仁孝天皇に大 嘗会神祇の御巫役を相伝				光格天皇実録	
文政1年 11月17日	48		内裏		禁裏に御幸。仁孝天皇、大 嘗会御習礼のため廻立殿に 出御のため、同殿に渡御				光格天皇実録	
文政1年 11月21日	48		内裏		大嘗会のため禁裏に御幸。 悠紀殿に渡御				光格天皇実録	
文政1年 11月22日	48		内裏		光格上皇、禁裏に御幸				光格天皇実録	
文政1年 11月23日	48		内裏		光格上皇、禁裏に御幸				光格天皇実録	
文政1年 11月24日	48		内裏		光格上皇、禁裏に御幸				光格天皇実録	
文政1年 12月1日	48		仙洞		光格上皇、鎮守社に参拜				光格天皇実録	
文政1年 12月2日	48		内裏		光格上皇、禁裏に御幸				光格天皇実録	
文政1年 12月5日	48		内裏		光格上皇、禁裏の内侍所臨 時御神楽に内々に御幸				光格天皇実録	
文政1年 12月10日	48		仙洞		光格上皇、中宮御所に渡御				光格天皇実録	
文政1年 12月18日	48		仙洞		光格上皇、中宮御所に渡御				光格天皇実録	
文政1年 12月24日	48		内裏		光格上皇、禁裏に御幸				光格天皇実録	

年月日	年齢	御会名 月次御会	場所	歌題	光格天皇御製および事項	題者	奉行	その他の諸役	出典	備考
文政1年 12月28日	48		内裏	組題100首 (かな題) 仁孝：すみがま、たけ		左衛門督 (飛鳥井雅光卿)	民部卿 (冷泉為則卿)		国会本内裏	仁孝天皇御製「すみがま：雪の色もかすむとみしは小野山にやく炭がまの煙なりけり、たけ：九重に千世万代を契りつゝつてなの竹のいやさかふ煙」
文政2年 1月1日	49		仙洞		四方拝のため出御、諸臣拝礼。朝餉において御園園				光格天皇実録	
文政2年 1月3日	49		仙洞		吉書御覧のため出御				光格天皇実録	
文政2年 1月4日	49				禁裏への御幸始を延引				光格天皇実録	
文政2年 1月7日	49		仙洞		白馬御覧のため出御				光格天皇実録	
文政2年 1月8日	49		仙洞		一月六日、皇女城宮養女により、一月八日より三日間、物音を停む				光格天皇実録	
文政2年 1月11日	49		仙洞		節分方連のため別殿 (呉服所) に渡御。豊岡三位、実久、久延、基延等を召す				光格天皇実録	
文政2年 1月13日	49		仙洞		諸礼のため牛刻前に小御所に出御、千秋万歳御覧。次に、太元御法・後七日御修法結願のため弘御所に出御、僧等に謁す				光格天皇実録	
文政2年 1月16日	49		内裏		禁裏に御幸始を迫行				光格天皇実録	
文政2年 1月18日	49	御会始	仙洞	天晴有鶴声	声たかみふりだけみれば天の原日影うらゝにたづぞまふなる	左衛門督 (明日香井雅光卿)	権中納言 (庭田重能卿)	読師：中山大納言 (虫通卿)、講師：光成 (広橋右中弁)、免声：左衛門督 (明日井雅光卿)	国会本仙洞有栖川宮本	中宮御歌「さし出る朝日のそちのつるのこゑおの心もはれわたるらし」(光格天皇御製の次に記載)。女房達：大すけ、新大納言、おやめの小路、勾当内侍、命婦伊与、命婦はつぎ、伊賀、紀伊 (巻末)。「和歌御会始づ行ハル、出御アラセラル」(光格天皇実録)
文政2年 1月19日	49		仙洞		皇子猪宮養女により、三日間、物音を停む				光格天皇実録	
文政2年 2月2日	49		仙洞		前右大臣徳大寺実祖の養女により、三日間、物音を停む				光格天皇実録	
文政2年 2月5日	49		内裏		仁孝天皇が痼疾を病まれたため禁裏に御幸				光格天皇実録	
文政2年 2月8日	49		内裏		禁裏に御幸				光格天皇実録	
文政2年 2月10日	49		仙洞		中宮御所に渡御				光格天皇実録	
文政2年 2月22日	49		仙洞		夜、別殿に渡御。男女を召さす				光格天皇実録	
文政2年 4月7日	49		仙洞		夜、別殿に渡御。男女を召さす				光格天皇実録	

文政2年 4月27日	49	内裏	石清水臨時祭が行われるた め禁裏に御幸	石清水臨時祭が行われるた め禁裏に御幸	民部卿(冷泉 為則卿)	鸛尾中納言 〔隆純卿〕	雅久朝臣(明日香井 侍従)	国会本仙洞 有栖川宮本 皇実録	光格天皇実録
文政2年 後4月13日	49	内裏	禁裏に御幸	禁裏に御幸				光格天皇実録	光格天皇実録
文政2年 後4月16日	49	仙洞	組題20首(2～4字 題) 光格：晩更春月	ならひととてわたりな ぎかげよ 春更しありあ けの月もかす みこめつゝ	民部卿(冷泉 為則卿)			国会本仙洞 有栖川宮本 皇実録	「小御所二於水無瀬宮御法楽和歌ノ披露アリ」(光格天 皇実録)
文政2年 後4月19日	49	仙洞		夜、別殿(呉服所)に渡御。 大原三位、恭光等を召す				光格天皇実録	
文政2年 後4月20日	49	仙洞	組題50首(3字題) 光格：花未開	雨そゝぎ春のひかりも つる ぶ枝といまいく日 あらは花に見てまし	為全朝臣(冷 泉侍従)	為全朝臣(冷 泉侍従)	講師：顕孝(葉室権 右中弁)	国会本仙洞 有栖川宮本 皇実録	
文政2年 後4月21日	49	仙洞	組題30首(2字題) 光格：若菜	雪まよりくさのはつか に見る 色も春をわかな のかすがのゝはら	左衛門督(明 日香井雅光卿)	為全朝臣(冷 泉侍従)	講師：顕孝(葉室権 右中弁)	国会本仙洞 有栖川宮本 皇実録	「和歌当座御会ヲ行ハル、出御アラセラル」(光格天皇実 録)
文政2年 後4月23日	49	内裏	光格上皇、禁裏に御幸し 内々に能御覧	光格上皇、禁裏に御幸し 内々に能御覧				光格天皇実録	
文政2年 5月2日	49	内裏	寄世祝言	すべらぎは神のまもりも 八百よろづ三種のたから 御代のひかりに〔院御覧〕	民部卿(冷泉 為則卿)	雅久(明日井 侍従)	読師：中山大納言 〔忠頼卿〕、講師：顕 孝(葉室権右中弁)、 発声：権中納言〔庭 田重能卿〕	国会本内裏 有栖川宮本 皇実録	仁孝天皇御製(巻頭)、光格上皇御製、中宮御歌の順に 記載。仁孝天皇御製「四方の海をさまる世とてくにつた みにぎはひうたふこゑもゆたげし」、中宮御歌「くにた らみもをさまれるよるときなりといはふ心はつきせざる し」。女御御方・女房達：女御、大興侍、幸相のすけ、 督のすけ、新大納言、権中納言、勾当内侍、侍従内侍、 命婦伊与、命婦伯耆、命婦大御乳、伊賀(巻末)
文政2年 5月2日	49	仙洞	鎮守社に参拝	鎮守社に参拝				光格天皇実録	
文政2年 5月7日	49	仙洞	壽山亭で揮秋を御覧	壽山亭で揮秋を御覧				光格天皇実録	
文政2年 5月8日	49	内裏	組題30首(3字題) 光格：秋花盛	立ならししかなく野辺は さもあらはあれ花ざかり なるはぎの戸の秋〔院御覧〕	民部卿(冷泉 為則卿)	左衛門督(明 日香井雅光卿)	講師：為全朝臣〔冷 泉侍従〕	国会本内裏 有栖川宮本 皇実録	仁孝天皇御製：「早春露：暮あさみぎりにふれる白ゆ きはまだ消なくにかすむ山のは」(巻頭)
文政2年 5月8日	49	内裏	禁裏に御幸	禁裏に御幸				光格天皇実録	
文政2年 5月18日	49	仙洞	鎮守社・柿本社に参拝	鎮守社・柿本社に参拝				光格天皇実録	
文政2年 5月21日	49	内裏	組題20首(2字題) 仁孝：郭公		左衛門督(明 日香井雅光卿)	為全朝臣〔冷 泉侍従〕		国会本内裏 有栖川宮本 皇実録	仁孝天皇御製「郭公：あしびきの山ほとゝぎすをちかへ りたえずかたらふ五五月雨のそら」。有栖川宮本には、仁 孝天皇御製に「後日被改」と注記あり
文政2年 5月22日	49	内裏	組題20首(1～2字 題) 仁孝：若菜		民部卿(冷泉 為則卿)	為全朝臣〔冷 泉侍従〕	講師：雅久朝臣(明 日香井侍従)	国会本内裏 有栖川宮本 皇実録	仁孝天皇御製「若菜：きえあへぬ雪まをわけてもえいつ る野へのわかなををつむものどけし」
文政2年 5月23日	49	内裏	禁裏に御幸	禁裏に御幸				光格天皇実録	

年月日	年齢	御会名	場所	歌題	光格天皇御製および事項	題者	奉行	その他の諸役	出典	備考
文政2年 5月24日	49	月次御会	内裏	組題100首(2字題) 仁孝：初春、田家		左衛門督(明日香井雅光卿)	権中納言(庭田重能卿)		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「初春：朝日かげにほへる山のかすむこそゆき消もよほすはるはたつらめ、田家：しづかすむ門田のさへなつたけて露吹ちらす風のすゝしさ」
文政2年 5月25日	49	聖廟御法楽 (芸二二分)	内裏	組題50首(1字題) 仁孝：霞		左衛門督(明日香井雅光卿)	右衛門督(万里小路建房卿)	讃孝(葉室権右中弁)	国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「霞：一よまつ春にあげゆく此朝けこの神がきのかすむのどけさ」(巻頭)
文政2年 6月2日	49		仙洞		夜、別殿(呉服所)に渡御。 権中納言、保石朝臣等を召す				光格天皇実録	
文政2年 6月11日	49		仙洞		鎮守社・柿本社に参拝				光格天皇実録	
文政2年 6月16日	49		仙洞		嘉祥の儀に出御				光格天皇実録	
文政2年 6月17日	49		内裏		禁裏に御幸				光格天皇実録	
文政2年 6月22日	49		仙洞		鎮守社・柿本社に参拝				光格天皇実録	
文政2年 6月24日	49	月次御会	内裏	夕立雲、松下水、後朝恋		民部卿(冷泉為朝卿)	右衛門督(万里小路建房卿)		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「夕立雲：風はやみーむらさきほふただちの雲にきこゆるなるかみのおと、松下水：あつさをむわすれてむすぶ山かげの松のしたゆく水ぞすゝしき、後朝恋：衣々のなごりつきせでおもかけのかへるあしたも身にそふはうし」
文政2年 6月25日	49	聖廟御法楽				雅久朝臣(明日香井侍従)	右兵衛督(藤谷為脩卿)	講師：光成(広橋右中弁)	国会本仙洞 有栖川宮本	「小御所二於テ聖廟御法楽ノ振講アリ」(光格天皇実録)
文政2年 6月25日	49	聖廟御法楽	内裏	組題10首(2字題) 仁孝：夏野		為全朝臣(為全朝臣)	雅久朝臣(飛鳥井侍従)	講師：為全朝臣(冷泉侍従)	国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「夏野：あづさ弓入のゝすゝきしげりあひて行かたたどる夏のこのごろ」
文政2年 6月30日	49		仙洞		六月祓に出御、茅輪あり。				光格天皇実録	
文政2年 7月7日	49	七夕御会	内裏	七夕草花	舟よするあまのかはらの花すゝまねきとめてよあけやすき夜も(院御製)	左衛門督(明日香井雅光卿)	為全朝臣(冷泉侍従)		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製(巻頭、光格天皇御製、中宮御歌の順に記載。仁孝天皇御製「ほしやなほあかずめつらんおりにあひてけふさきそめし花の千種を」。中宮御歌「ゆふ露をうちもはらばでたむけまほしはのいもせのこの夏の花」。女御・女房達：女御御方、幸相典侍、舊典侍、新大納言、権中納言、勾当内侍、侍従内侍、命婦伊与、命婦伯耆、命婦大御乳、伊賀(巻末)
文政2年 7月14日	49		内裏		禁裏に御幸				光格天皇実録	
文政2年 7月16日	49		仙洞		夜、別殿(呉服所)に渡御。 花山院大納言、公元朝臣を召す				光格天皇実録	
文政2年 7月21日	49		仙洞		鎮守社・柿本社に参拝				光格天皇実録	
文政2年 7月24日	49	月次御会	内裏	組題100首(3～4字題)仁孝：水辺萩、月契秋		雅久朝臣(明日香井侍従)	左衛門督(明日香井雅光卿)		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「水辺萩：かげうつるきのしの秋はきさくころはにしきをさらす池のさゝなみ、月契秋：かぎりなきちきりは千年久かたの露井のあきにするめる月影」

文政2年 7月27日	49	内裏	禁裏に御幸					光格天皇実録	
文政2年 8月1日	49	仙洞	八朔の儀					光格天皇実録	
文政2年 8月16日	49	内裏	よど河や夜舟いざよふうき きりもはれわたる波ぞ月に なりゆく (院御製)	雅久朝臣 (明 日香井侍従)	権中納言 (庭 田重能卿)			国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「月前雲：きえやらでたなびくよひのうき 雲をはらひつくせよ月の下風」
文政2年 8月16日	49	内裏	禁裏に御幸					光格天皇実録	
文政2年 8月18日	49	仙洞	鎮守社・椿本社に参拝					光格天皇実録	
文政2年 8月24日	49	内裏	秋夕露、水上月、風 前雁	為全朝臣 (冷 泉侍従)	雅久朝臣 (明 日香井侍従)			国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「秋夕露：秋といへばふく風さへもさびし きにあらはれそへたるゆふぐれのつゆ。水上月：みかたの そらすむ月のかげ見えて秋はさやけきにはのいけいづ、 風前雁：このあざけきくもめづらし秋風にさそはれわた るはつかりのこゑ」
文政2年 8月30日	49	仙洞	仁孝天皇への和歌天仁遠波 伝受のため、玉津島・住吉 神社、月照寺に便いを運わ し、御撫物を進献					光格天皇実録	
文政2年 9月9日	49	内裏	月照菊	為全朝臣 (冷 泉侍従)	右衛門督 (万 里小路建房 卿)			国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「すみわたる月のひかりにみがゝれて露も くもらずにほふ白きく」。女御・女房達：女御御方、督 典侍、勾当内侍、命婦伊与、命婦伯耆、命婦大御乳 (卷 末)
文政2年 9月13日	49	仙洞	組題20首 (3～5字 題) 光格：月前風	為全朝臣 (冷 泉侍従)	雅久朝臣 (飛 鳥井侍従)			国会本仙洞 有栖川宮本	「和歌当座御会ヲ行ハル、出御アラセラル」 (光格天皇実 録)
文政2年 9月15日	49	内裏	禁裏に御幸					光格天皇実録	
文政2年 9月18日	49	仙洞	仙人のあきのかざしのきく の露にほひもちよのふちと なるらし	為全朝臣 (冷 泉侍従)	左衛門督 (明 日香井雅光 卿)	読師：花山院大納言 〔兼厚卿〕、調師：為 全朝臣、発声：持明 院三位 (基延卿)		国会本仙洞 有栖川宮本	「椿本神影供ヲ行ハル、出御アラセラル」 (光格天皇実録)
文政2年 9月21日	49	内裏	禁裏に御幸し、仁孝天皇に 和歌天仁遠波伝受を相伝					光格天皇実録	
文政2年 9月24日	49	内裏	組題100首 (3～4 字題) 仁孝：露添紅 葉、寄玉恋	民部卿 (冷泉 為則卿)	為全朝臣 (冷 泉侍従)			国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「露添紅葉：そめつくす木々の紅葉の色を 又なほいくしほにそふる夕露、寄玉恋：袖にちるなみだ のたまのかずそひてあふことかたきよなよなのとこ」
文政2年 9月24日	49	仙洞	壽山亭で覆箱を御覧					光格天皇実録	
文政2年 9月25日	49	仙洞	管絃の御遊のため出御。掌 の御所作					光格天皇実録	
文政2年 9月30日	49	内裏	組題30首 (1～3字 題) 光格：旅	民部卿 (冷泉 為則卿)	左衛門督 (明 日香井雅光 卿)	調師：光成朝臣 (廣 橋頭弁)		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「松上露：此朝け春立ちらしもときはなるま つのみどりのかすむーしほ」 (巻頭)
文政2年 9月30日	49	内裏	禁裏に御幸					光格天皇実録	



年月日	年齢	御会名	場所	歌題	光格天皇御製および事項	題者	奉行	その他の諸役	出典	備考
文政2年 10月2日	49		仙洞		十月二日・三日の両日、仙洞御所で、後桜町天皇の七回聖忌を引上げて法華懺法を行う。出御				光格天皇実録	
文政2年 10月7日	49	当座御会	仙洞	組題30首 (2~3字 題) 光格：鶯告春	ゆきとくる松のうぐひすさ かえそふこと葉の花の春を しるころ	為全朝臣 (冷 泉侍従)	鷲尾中納言 (降参卿)	講師：為全朝臣 (冷 泉侍従)	国会本仙洞 有栖川宮本	「和歌当座御会ラ行ハル」(光格天皇実録)
文政2年 10月10日	49		仙洞		玄猪の儀				光格天皇実録	
文政2年 10月17日	49		仙洞		参議飛鳥井雅光に和歌天仁 遠波伝受を相伝				光格天皇実録	
文政2年 10月18日	49		仙洞		鎮守社・柿本社に参拝				光格天皇実録	
文政2年 10月20日	49		内裏		仁孝天皇の御代始の御染始 のため、紫裏に御幸				光格天皇実録	
文政2年 10月23日	49		内裏		内々に仕舞雛子能を御覧の ため、紫裏に御幸				光格天皇実録	
文政2年 10月24日	49	月次御会	内裏	十月見紅葉、残菊留 秋、浦松風		民部卿 (冷泉 為則卿)	権中納言 (庭 田重能卿)		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「十月見紅葉：神無月しぐれしぐれてもみ ち葉の秋にもまさる干しほをぞ見る、残菊留秋：おく霜 にかれてもきくのにはふこそ秋のなごりを猶のこしけ れ、浦松風：すみよしや浦わのまつ風のこゑもいく千 よよふ神のめぐみに」
文政2年 11月17日	49		仙洞		十一月二十四日に閑院宮孝 仁親王に和歌天仁遠波伝受 を、十二月二日に閑院一条 忠良に三郎抄伝受を相伝す るために、翌十八日から七 日間、上御霊・下御霊・北 野の三社に御祈禱を仰せつ く				光格天皇実録	
文政2年 11月21日	49		内裏		紫裏に御幸				光格天皇実録	
文政2年 11月22日	49		仙洞		別殿 (呉服所) に渡御、新 源三位、基遠朝臣等を召す				光格天皇実録	
文政2年 11月24日	49		仙洞		閑院宮孝仁親王に和歌天仁 遠波伝受を相伝 (御賀宴 間)				光格天皇実録	
文政2年 11月24日	49	月次御会	内裏	組題100首 (1~3 字題) 仁孝：神楽、 初達恋、河		雅久朝臣 (明 日香并侍従)	民部卿 (冷泉 為則卿)		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「神楽：おもしろく神ぞきくらしとりどり にふくふえ竹やうたふさかき葉、初達恋：おもひのむ すほれしもひきかへてとけそめにくる中の下ひも、 河：まもります神のめぐみの五十鈴川ながれのすゑは 代々にたえせじ」
文政2年 11月27日	49		内裏		紫裏に御幸				光格天皇実録	
文政2年 12月2日	49		仙洞		閑院一条忠良に和歌三郎抄 伝受を相伝 (御賀宴間)				光格天皇実録	

文政2年 12月7日	49	和歌当座御 会	仙洞	組題30首 (1～4字 題) 光格・霞	花鳥の春の色音を先こめて 見せもきかせもかすむ初し は	雅久朝臣 (明 日香井侍従)	民部卿 (冷泉 為則卿)		国会本仙洞 有栖川宮本	「和歌当座御会ヲ行ハル、出御アラセラル」 (光格天皇実 録)
文政2年 12月23日	49		内裏		内々に仕舞簾子を御覧のた め、禁裏に御幸				光格天皇実録	
文政2年 12月24日	49	月次御会	内裏	鷹狩、埋火、恋衣		左衛門尉 (明 日香井雅光 卿)	右兵衛尉 (藤 谷為脩卿)		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「鷹狩：ふる雪のさむさもしらじかり人の 鳥立の野べにいざむこゝろは、埋火：よりそへばやがて さむさもわすれられてたちざりがたきうつみ火のもと、恋 衣：おもひあまりよるの衣をかへしてもうらみばかりの ゆめぞつれなき」 仁孝天皇御製「千鳥：あらいその浪のさわきのむら千鳥 いつこの浦になきわたるらむ」
文政2年 12月25日	49	和歌当座御 会	内裏	組題30首 (2～3字 題) 仁孝・千鳥		為全朝臣 (冷 泉侍従)	民部卿 (冷泉 為則卿)		国会本内裏 有栖川宮本	
文政2年 12月26日	49		仙洞		御有卦明の賀宴のため出御				光格天皇実録	
文政2年 12月27日	49		仙洞		前権大納言四辻公高が、光 格上皇に、蘇合香、等を相 伝				光格天皇実録	
文政3年 1月1日	50		仙洞		四方拜のため出御				光格天皇実録	
文政3年 1月2日	50		仙洞		朝餉において御齒固、拜 礼。小御所に出御、諸臣に 謁す				光格天皇実録	
文政3年 1月3日	50		仙洞		吉書御覧のため出御				光格天皇実録	
文政3年 1月4日	50		内裏		禁裏に御幸始				光格天皇実録	
文政3年 1月7日	50		仙洞		千秋万歳・白馬御覧のため 出御				光格天皇実録	
文政3年 1月13日	50		仙洞		諸礼のため弘御所・小御所 に出御				光格天皇実録	
文政3年 1月14日	50		仙洞		太元帥法・後七日御修法結 願のため弘御所に出御、高 法阿闍梨に謁す				光格天皇実録	
文政3年 1月15日	50		仙洞		御吉書・三綈打のため出御				光格天皇実録	
文政3年 1月18日	50	和歌御会始	仙洞	松有春色	雪のうちにまもつ常盤は頭 れしいまひとしほのはるの 色かな	為全朝臣 (隆純卿)	鷹尾中納言 (隆純卿)	読師：花山院大納言 〔家厚卿〕、講師：為 全朝臣 (冷泉侍従)、 発声：綾小路三位 〔有長卿〕、題者：為 全朝臣、奉行：鷹尾 中納言 (隆純卿)	国会本仙洞 有栖川宮本	女房達：大すけ、新大納言、権中納言、権中納言、あやめの小路、 勾当内し、命婦伊世、命婦伊うき、伊賀、紀伊 (卷末)。 「和歌御会始ヲ行ハル、出御、御製アラセラル」 (光格天 皇実録)
文政3年 1月24日	50	和歌御会始	内裏	江上暮望	山本は鶯のねもかすむの はるゝ入江にうかぶ横草 〔院御製〕	雅久朝臣 (隆純卿)	為全朝臣 (冷 泉侍従)	読師：一位 (鷹尾中納言) 〔家厚卿〕、講師：雅久 朝臣 (飛鳥井侍従)、 発声：持明院三位 〔基延卿〕	国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製 (巻頭)、光格上皇御製の順に記載。中宮 御歌なし。仁孝天皇御製「またたぐひなみのとがに霞 みつゝ梅が香にほふなには江のはる」。女御・女房達： 女御御方、大興侍、宰相興侍、舊典侍、新大納言、権中 納言、勾当内侍、侍従内侍、命婦伊よ、命婦伯耆、命婦 大御乳、伊賀 (卷末)

年月日	年齢	御会名	場所	歌題	光格天皇御製および事項	題者	奉行	その他の諸役	出典	備考
文政3年 1月28日	50		仙洞		有栖川宮昭仁親王へ和歌天 仁遠渡伝受の相伝のため、 二月一日より七日間、上御 霊・下御霊・北野三社に御 祈禱を仰せつく				光格天皇実録	
文政3年 2月1日	50		仙洞		鎮守社に参拝				光格天皇実録	
文政3年 2月4日	50	当座御会	内裏	組題30首 (2字題) 光格上皇：旅行	朝な朝な霞とくもに立いつ るたびちも春はのどけかり (けり) (院御製)	左衛門督 (飛 鳥井雅光卿)	雅久朝臣 (飛 鳥井侍従)	講師：為全朝臣 (冷 泉侍従)	国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「早春：浅みどりかすみの大立そめてまだ さ春する朝戸出の空」(巻頭)
文政3年 2月4日	50		内裏		禁裏に御幸				光格天皇実録	
文政3年 2月5日	50		仙洞		夜、別殿に渡御 (小御所)。 豊岡三位、重徳等を召す				光格天皇実録	
文政3年 2月10日	50		仙洞		有栖川宮昭仁親王へ和歌天 仁遠渡伝受を相伝 (御賀宴 間)				光格天皇実録	
文政3年 2月20日	50		仙洞		有栖川宮昭仁親王、薨去				光格天皇実録	
文政3年 2月21日	50		仙洞		有栖川宮昭仁親王薨去によ り、三日間物音を停む				光格天皇実録	
文政3年 2月25日	50	聖廟御法楽	仙洞	組題50首 (2字題) 光格：春雪	春を浅み猶もさえて凍雪の ちりかふ空は霞むともなき	左衛門督 (飛 鳥井雅光卿)	雅久朝臣 (飛 鳥井侍従)	頭孝 (葉室弁)	国会本仙洞 有栖川宮本	「小御所二於テ聖廟御法楽和歌ノ披露アリ」(光格天皇実 録)
文政3年 2月25日	50	聖廟御法楽	内裏	組題50首 (2～3字 題) 仁孝：初春風		為全朝臣 (冷 泉侍従)	民部卿 (冷泉 為則卿)	講師：為全朝臣 (冷 泉侍従)	国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「初春風：昨日みし雪げの雲を吹すて>今 朝はのどけき春の初風」(巻頭)
文政3年 2月26日	50		内裏		禁裏に御幸				光格天皇実録	
文政3年 2月28日	50	月次御会	内裏	組題20首 (1～3字 題) 仁孝：霞、忍忍、 旅		左衛門督 (飛 鳥井雅光卿)	左衛門督 (飛 鳥井雅光卿)		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「霞：雪残る深山のおくも霞みけり春のい たらぬかたはあらじな、忍忍：いかゞせむつきなだてし と忍びれど思ひの涙よそにみえなば、旅：さかりなる旅 路の花を分行に猶わすられぬ故郷の春」
文政3年 3月17日	50		仙洞		夜、別殿 (小御所) に渡御。 男方召さず				光格天皇実録	
文政3年 3月20日	50	当座御会	仙洞	組題30首 (2字題) 光格：松霞	朝霞朝引にけり山松のゆき げの緑立まざりつゝ	民部卿 (冷泉 為則卿)	右衛門督 (万 里小路建房 卿)	講師：光成朝臣 (廣 橋頭弁)	国会本仙洞 有栖川宮本	「和歌当座御会ヲ行ハル、出御アラセラル」(光格天皇実 録)
文政3年 3月22日	50		仙洞		御有卦入の賀宴のため出御				光格天皇実録	
文政3年 3月22日	50	水無瀬宮御 法楽 (去月 分)	内裏	組題20首 (3字題) 仁孝：柳帯露		民部卿 (冷泉 為則卿)	右兵衛督 (藤 谷為脩卿)	講師：頭孝 (葉室弁)	国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「柳帯露：露露の玉のをなれやゆるく吹か ぜによらるゝ青柳のいと」
文政3年 3月24日	50	月次御会	内裏	藤、蛙、舟		冷泉前大納言 (為章卿)	右衛門督 (万 里小路建房 卿)		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「藤：池きしの岩ねににほふふち波やい くよの春をかけて咲らむ、蛙：ながれ行春の日かすをか は水にせきとめて鳴蛙なるらし、舟：見るが中に行へも 速くなるみかた波路をわくる沖のとも舟」

文政3年 3月24日	50		内裏		禁裏に御幸					光格天皇実録	「柿本神影供行ハル、出御アラセラル」(光格天皇実録)
文政3年 3月28日	50	神影供	仙洞	社頭桜花	神垣はやはらぐ春の影そひ てちるべくもあらぬ桜花か な	民部卿 (冷泉 為則卿)	為全朝臣 (冷 泉侍従)	読師：甘露寺前大納 言 (国長卿)、講師： 隆光 (卿原升)、発 声：左衛門督 (飛鳥 井雅光卿)	国会本仙洞 有栖川宮本		
文政3年 4月5日	50		仙洞		御有卦入の御祝を行われ 内々に猿蓑御覧				光格天皇実録		
文政3年 4月8日	50		内裏		禁裏に御幸				光格天皇実録		
文政3年 4月11日	50	水無瀬宮御 法楽 (去二 月分)	仙洞	組題20首 (1～2字 題) 光格：早春 世に花鳥の春はしるしも	うち日さす都の空の霞より 雅久朝臣 (飛 鳥井侍従)	右衛門督 (万 里小路建房 卿)	読師：隆光朝臣 (柳 原升)	国会本仙洞 有栖川宮本	光格天皇実録	「小御所二於テ水無瀬宮御法楽和歌ノ披露アリ」(光格天 皇実録)	
文政3年 4月16日	50		内裏		禁裏に御幸				光格天皇実録		
文政3年 4月25日	50		仙洞		前左大臣近衛基前の薨去の ため三日間、物音を停む				光格天皇実録		
文政3年 4月28日	50	月次御会	内裏	組題100首 (2～4 字題) 仁孝：簾新樹、 見月、寄鳥恋	雅久朝臣 (飛 鳥井侍従)	驚尾中納言 (隆純)		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「簾新樹：花になれし梅も桜も茂りあひて 軒はの樹々を面がはいりせる、見月：名にしおふ萩の露中 もこよひとみるにくまなく澄る月かげ、寄鳥恋：待人 はこぬよ更行横の戸をうしや水鶏の何たぐくらん」		
文政3年 4月28日	50		仙洞		夜、別殿 (小御所) に渡御。 大原三位、実久朝臣等を召 す				光格天皇実録		
文政3年 5月1日	50		仙洞		鎮守社に参拝				光格天皇実録		
文政3年 5月2日	50		内裏		禁裏に御幸				光格天皇実録		
文政3年 5月4日	50	和歌当座御 会	内裏	組題20首 (1～2字 題) 仁孝：鶯	雅久朝臣 (飛 鳥井侍従)	驚尾中納言 (隆純卿)		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「鶯：新玉の年のはじめに告初て千世の春 しる鶯の声」(巻頭)		
文政3年 5月13日	50		仙洞		常御所修復のため、十三日 より連日小御所に渡御				光格天皇実録		
文政3年 5月17日	50		内裏		禁裏に御幸				光格天皇実録		
文政3年 5月21日	50		仙洞		壽山亭で椿秋を御覧				光格天皇実録		
文政3年 5月24日	50	月次御会	内裏	夏月、夏花、夏虫		為全朝臣 (冷 泉侍従)	雅久朝臣 (飛 鳥井侍従)		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「夏月：時しらぬ霜もおくかどなつの月ま さにすめる影のすしさ、夏花：五月雨にうちそほち つゝ咲おもる外面のあふち色ふかくみゆ、夏虫：よなよ なに影もみだれてとぶほたる何の思ひや身をこがすら ん」	
文政3年 6月2日	50		仙洞		常御所の修復竣成により還 御				光格天皇実録		
文政3年 6月11日	50		仙洞		別殿 (小御所) に渡御、花 山院大納言、通修等を召す				光格天皇実録		
文政3年 6月13日	50		内裏		禁裏に御幸				光格天皇実録		

年月日	年齢	御会名	場所	歌題	光格天皇御製および事項	題者	奉行	その他の諸役	出典	備考
文政3年 6月16日	50		仙洞		嘉祥の儀に出御				光格天皇実録	
文政3年 6月19日	50		内裏		禁裏に御幸				光格天皇実録	
文政3年 6月24日	50	月次御会	内裏	組題100首 (2字題) 仁孝：夕立、鷹狩、 海村		民部卿 (冷泉 為則卿)	為全朝臣 (冷 泉侍従)		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「夕立：はげしくもきふとみとし夕立の はや遠かたに鳴かみのおと、鷹狩：雪吹ちるかた野々み のを狩くらし帰る袂にさゆる山風、海村：漕かへる舟の 行へをみ渡せば里ひと村の海人の家々」
文政3年 6月25日	50	聖廟御法楽	内裏	組題50首 (1～3字 題) 仁孝：晩蛭		左衛門督 (飛 鳥井雅光卿)	右衛門督 (万 里小路建房 卿)	講師：隆光 (柳原弁 從)	国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「晩蛭：蛭はうすく成行有明の窓をてらし て蛭とぶかけ」
文政3年 6月25日	50	聖廟御法楽	仙洞	組題50首 (1～3字 題) 光格：蛭	秋近み未こす萩の中垣に露 とみだれて飛蛭かな	為全朝臣 (冷 泉侍従)	左衛門督 (飛 鳥井雅光卿)	為全朝臣 (冷泉侍 従)	国会本仙洞 有栖川宮本	「小御所二於テ聖廟御法楽和歌ノ披露アリ」(光格天皇実 録)
文政3年 6月16日	50		仙洞		六月祓に出御、茅輪あり				光格天皇実録	
文政3年 7月7日	50	七夕御会	内裏	星河秋興	五百機の錦よそほふ天河さ りのとほりも雲のは袖も (院御製)	為全朝臣 (冷 泉侍従)	権中納言 (庭 田重能卿)		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製、光格上皇御製の順に掲載。大宮御歌な し。仁孝天皇御製「あまの河な出涼しく雲晴て月もさ やけさほし合のそら」(巻頭)。女房達：大すけ、幸相典 侍、賢のすけ、新大納言、勾当内侍、命婦伊豫、命婦伯 耆、命婦大御乳、伊賀 (巻末)
文政3年 7月14日	50		内裏		禁裏に御幸				光格天皇実録	
文政3年 7月21日	50		仙洞		夜、別殿 (小御所) に渡御。 男女、召されず				光格天皇実録	
文政3年 7月24日	50	月次御会	内裏	竹露、聞鹿、秋恋		雅久朝臣	権中納言 (庭 田重能卿)		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「竹露：秋風のはらふ跡より露あまる露の 竹の露のさやけさ、聞鹿：松風のふくになくへてきこゆ 也秋の深山のさをしかの声、秋恋：わりなしや人の心の 秋のかぜ吹そめておく袖の白露」
文政3年 8月1日	50		仙洞		八朔の儀				光格天皇実録	
文政3年 8月17日	50		内裏		禁裏に御幸				光格天皇実録	
文政3年 8月24日	50	月次御会	内裏	組題100首 (2～4 字題) 仁孝：秋露、 松風入琴、奇草恋		民部卿 (冷泉 為則卿)	民部卿 (冷泉 為則卿)		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「秋露：百草の露のにしきあやなくもたら へたてたる今朝の秋露、松風入琴：かきならすもやのを この旨をそへてえならすかよふ軒の松風、奇草恋：人 は忘れ我は忍ぶの草の名にこひつゝ年をふるぞつれな き」
文政3年 8月26日	50		仙洞		鎮守社に参拝				光格天皇実録	
文政3年 8月28日	50	当座御会	内裏	組題20首 (2字題) 光格：朝露	天の戸の明る光りも玉しけ る露の雲の秋のしら露 (院 御製)	民部卿 (冷泉 為則卿)	右衛門督 (万 里小路建房 卿)		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「松蔭：山まつの茂る緑も染かゝる蔭の紅 葉に秋をわくかけ」
文政3年 8月28日	50		内裏		禁裏に御幸				光格天皇実録	

文政3年 8月30日	50	当座御会	仙洞	組題20首 (2～3字題) 光格：虫恨	草垣の露寒くなるうつらがれ によよひ虫の声恨むらん	為全朝臣 (冷泉侍従)	源中納言 (庭田重能卿)	国会本仙洞 有栖川宮本 光格天皇実録	「和歌当座御会ヲ行ハル、出御アラセラル」 (光格天皇実録)
文政3年 9月2日	50		仙洞		夜、別殿 (小御所) に渡御。 男女、召されず				
文政3年 9月9日	50	重陽御会	内裏	対菊契久		民部卿 (冷泉為則卿)	鷹尾中納言 (隆純卿)	国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「ちぎりつゝ猶見はやさむ千々の秋もおいせぬ菊のけふのさかりを」。光格上皇御製・大雪御歌なし。女房達：大典侍、宰相典侍、督典侍、勾当内侍、命婦伯耆 (卷末)
文政3年 9月11日	50		仙洞		鎮守社・柿本社に参拝			光格天皇実録	
文政3年 9月13日	50	和歌当座御会	内裏	組題30首 (3～4字題) 光格：月前松虫	松虫の声する方も白妙に月 すむ野へはいさどひぬかむ 〔院御製〕	為全朝臣 (冷泉侍従)	右兵衛督 (藤名為備卿)	国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「十三夜月：長月やさやけき影も今宵こそ なにおふよはと尚みがくらめ」 (巻頭)
文政3年 9月24日	50	月次御会	内裏	月前紅葉、浦辺紅葉、紅葉交松		為全朝臣 (冷泉侍従)	権中納言 (庭田重能卿)	国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「月前紅葉：よるも猶月の光りのてらすよ り色をみざりの木々の紅葉ゝ、浦辺紅葉：幾千すちより まげて落す浦の糸を顔にそむる紅葉ゝのかげ、紅葉交 松：枝かはすきしの紅葉の幾しほに松の常盤も秋をわく らし」
文政3年 9月26日	50		内裏		内々に鶴葉御覧のため、禁裏に御幸			光格天皇実録	
文政3年 10月4日	50		仙洞		玄猪の儀あり			光格天皇実録	
文政3年 10月5日	50		内裏		禁裏に御幸			光格天皇実録	
文政3年 10月15日	50		仙洞		夜、別殿 (小御所) に渡御。 刑部卿、重徳等を召す			光格天皇実録	
文政3年 10月18日	50		内裏		禁裏に御幸			光格天皇実録	
文政3年 10月23日	50		仙洞		壽山亭で獲稻を御覧			光格天皇実録	
文政3年 10月24日	50	月次御会	内裏	組題100首 (2～5字題) 仁孝：時雨晴陰、野寒草、綱代		雅久朝臣 (飛鳥井侍従)	右兵衛督 (藤合為備卿)	国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「時雨晴陰：浮雲の立まよひつゝ村しぐれ ふるかとみればはるゝ日の影、野寒草：あきにみし千種 の花のかげもななく霜がわたる野へのさびしき。綱代： かゝり火の影更る夜も綱代もり猶いねやらず氷魚や待ら ん」
文政3年 10月24日	50		内裏		禁裏に御幸			光格天皇実録	
文政3年 10月26日	50	和歌当座御会	内裏	組題20首 (3字題) 仁孝：草花露		雅久朝臣 (飛鳥井侍従)	為全朝臣 (冷泉侍従)	国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「草花露：秋霧のはるゝまがきの朝ほらけ つゆに色そふ花の百草」
文政3年 10月30日	50	当座御会	仙洞	組題20首 (3字題) 光格：蚊遣火	夕がほの花をどよよるしづ がやにあたら蚊遣の煙たつ なり	雅久朝臣 (飛鳥井侍従)	民部卿 (冷泉為則卿)	国会本仙洞 有栖川宮本	「和歌当座御会ヲ行ハル、出御アラセラル」 (光格天皇実録)
文政3年 11月17日	50		内裏		禁裏に御幸			光格天皇実録	
文政3年 11月20日	50		内裏		禁裏に御幸			光格天皇実録	

年月日	年齢	御会名	場所	歌題	光格天皇御製および事項	題者	奉行	その他の諸役	出典	備考
文政3年 11月24日	50	月次御会	内裏	夜姿、雪、旅行		冷泉前大納言 (為章卿)	権中納言(庭 田重能卿)		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「夜姿：うつみ火はきゆともよしやかさね つ>冬をわする>小夜のをぶすま、雪：降つもる外山は るかに見わたすも都へたてぬ今朝のしら雪、旅行：行す ゑのひなの長路を思ふよりいや速さかる故さとのそら」
文政3年 11月27日	50		仙洞		夜、別殿(小御所)に渡御。 花山院大納言、慶起朝臣等 を召す				光格天皇実録	
文政3年 12月11日	50		内裏		禁裏に御幸				光格天皇実録	
文政3年 12月23日	50		仙洞		鎮守社・柿本社に参拝				光格天皇実録	
文政3年 12月24日	50	月次御会	内裏	組題100首(2~4 字題) 仁孝：江春曙 増窓、名所鶴		為全朝臣(冷 泉侍従)	権中納言(庭 田重能卿)		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「竹雪：下折の声もさむけし窓の竹夜深く 雪や降重るらん、増窓：遂にそひあはぬに増る思ひ戒こ ひてふ物はわりなりけり、名所鶴：幾千世も敷かさぬ らし蒲田にむれつ>遊ぶ鶴の毛衣」
文政3年 12月25日	50	当座御会	内裏	組題30首(2~3字 題) 仁孝：江春曙		冷泉前新大納 言(為則卿)	権中納言(庭 田重能卿)		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「江春曙：堀江こぐたななし小ふねたちか すみゆくへいさよふ春の明ほの」
文政3年 12月28日	50	和歌当座御 会	仙洞	組題30首(2~3字 題) 光格：夕郭公	子禰村雨過し夕暮の月とど もにも雲間もる声	冷泉前新大納 言(為則卿)	右兵衛督(藤 谷為脩卿)		国会本仙洞 有栖川宮本	「和歌当座御会ヲ行ハル、出御アラセラル」(光格天皇実 録)
文政4年 1月1日	51		仙洞		四方拝のため出御				光格天皇実録	
文政4年 1月2日	51		仙洞		朝餉において御園固				光格天皇実録	
文政4年 1月3日	51		仙洞		吉書御覧のため出御				光格天皇実録	
文政4年 1月4日	51		内裏		禁裏に御幸始				光格天皇実録	
文政4年 1月7日	51		仙洞		千秋万歳・白馬御覧				光格天皇実録	
文政4年 1月14日	51		仙洞		太元帥法・後七日御修法結 願のため弘明所に出御、同 法阿闍梨に謁す				光格天皇実録	
文政4年 1月15日	51		仙洞		御吉書・三替打のため出御				光格天皇実録	
文政4年 1月18日	51	和歌御会始	仙洞	池水浪静	ささら涼かすみをよする春 の色にいけの心のどけさ も見ゆ	雅久朝臣	左衛門督	読師：冷泉前新大納 言、講師：顕孝、宛 声：持明院三位、講 頌：庭田一位、山科 前大納言、権中納 言、外山前中納言、 冷泉前中納言、久世 三位、綾小路三位	光格天皇実録	光格上皇、出御
文政4年 1月24日	51		仙洞		鎮守社に参拝				光格天皇実録	内裏御会始「驚為春友：うぐひすのももさへつりを百千 度もしきのはるに碧や染む(光かく上皇御製)」(皇室 文学体系第三輯「光格天皇御集拾遺」)



光格上皇主催御会和歌年表 ― 文政期編

文政4年 1月26日	51		内裏	禁裏に御幸					光格天皇実録	「柳：朝な朝な春をどどりにうちへていとくる風も霞むあをやぎ（光格上皇御製）」（皇室文学大系第三輯「光格天皇御真治遺」）
文政4年 1月27日	51		仙洞	二月八日に閑白一条忠良に伊勢物語御伝受相伝のため、二月二日より七日間、上下御霊社・北野社に御祈禱を仰せつく					光格天皇実録	
文政4年 1月28日	51	和歌座御会	仙洞	組題30首	為全朝臣				光格天皇実録	光格上皇、出御（光格天皇実録）。仙洞和歌御会「早春霞：春きての日敷も見えてあさがすみのしに衣をおりはゆるそら（光格上皇御製）」（皇室文学大系第三輯「光格天皇御真治遺」）
文政4年 2月8日	51		仙洞	閑白一条忠良に伊勢物語伝受を相伝（御宴宴間）					光格天皇実録	
文政4年 2月11日	51		仙洞	悦に親玉、幕去。この日より三日間、物言を停めらる					光格天皇実録	
文政4年 2月16日	51		仙洞	夜、別殿（呉服所）に渡御。男女、召さず					光格天皇実録	
文政4年 3月24日		月次御会	内裏	桜、雉、恋	左衛門督（飛鳥井雅光卿）	雅久朝臣（飛鳥井少将）			国会本内裏有栖川宮本	仁孝天皇御製「桜：山桜咲にけらしもかすみつゝ高ねに見ゆる花のしら雲。雉：雪わけしかりばの小野もはるといへば朝出る草にさゝす鳴なり。恋：はな鳥の色にもねにもうつらめや物思ふ身のつらきとゝろは」
文政4年 3月25日	51	聖廟御法楽（去月御延引）	内裏	組題50首（2字題） 仁孝：杜霞	冷泉前新大納言（為則卿）	右兵衛督（藤谷為脩卿）			国会本内裏有栖川宮本	仁孝天皇御製「杜霞：松海もかすみにけりな浅緑北野ゝもりの春の明ほの」
文政4年 3月28日	51		仙洞	夜、別殿（呉服所）に渡御。綾小路三位、公元朝臣を召す					光格天皇実録	
文政4年 4月5日	51		内裏	禁裏に御幸					光格天皇実録	
文政4年 4月10日	51	水無瀬宮御法楽（去二月分）	仙洞	組題20首（2字題） 光格：朝霞	左衛門督（飛鳥井雅光卿）	為全朝臣（冷泉侍従）			国会本仙洞有栖川宮本	「小御所二於テ水無瀬宮御法楽和歌ノ披露アリ」（光格天皇実録）
文政4年 4月13日	51		仙洞	五月二日、正三位高松公祐に和歌天仁遠波御座將を相伝するため、四月十四日より七日間、上下御霊・北野の三社に御祈禱を仰せつく					光格天皇実録	
文政4年 4月18日	51	神影供	仙洞	うぐひすのかへる青葉の山桜はるのいろねをばなそのこせる	左衛門督（飛鳥井雅光卿）	冷泉前新大納言（為則卿）			国会本仙洞有栖川宮本	「神本神影供ヲ行ハル、出御アラセラル」（光格天皇実録）
文政4年 4月20日	51	聖廟御法楽（去二月分）	仙洞	組題50首（3～5字題） 光格：名所霞	為全朝臣（冷泉新少将）	権中納言（庭田重能卿）			国会本仙洞有栖川宮本	「小御所二於テ聖廟御法楽和歌ノ披露アリ」（光格天皇実録）
文政4年 4月24日	51	月次御会	内裏	組題100首（3～4字題） 仁孝：池上花、毎夜待郭公、月光映露	冷泉前新大納言（為則卿）	雅久朝臣（飛鳥井侍従）			国会本内裏有栖川宮本	仁孝天皇御製「池上花：影うつす岸の桜の咲ちて花にぞかすむ春の池水、毎夜待郭公：子規声もらさなん夜をかざね待ふかしぬる心づくしに、月光映露：澄わたる月の光りにみがゝれていとゞ玉しく庭の白露」

年月日	年齢	御会名	場所	歌題	光格天皇御製および事項	題者	奉行	その他の諸役	出典	備考
文政4年 5月1日	51		仙洞		鎮守社に参拜				光格天皇実録	
文政4年 5月2日	51		仙洞		正三位高松公祐に和歌天仁 遠渡伝受を相伝				光格天皇実録	
文政4年 5月4日	51	和歌当座御 会	内裏	組題20首 (3 字題) 光格：洛陽月	うち日さすみやこの秋はよ と、>もに端照まさる月詠の 影 (院御製)	雅久朝臣 (飛 鳥井侍従)	為全朝臣 (冷 泉少将)		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「題：霞中驚：立梅ふ霞のひまをもりきて はこもほのかににほふ濃」(巻頭)。「禁裏ニ於テ和歌 当座御会ヲ行ハル、之ニ御幸アラセラル」(光格天皇実 録)
文政4年 5月10日	51		仙洞		別殿 (吳服所) に渡御。高 松三位、陸起朝臣等を召す				光格天皇実録	
文政4年 5月13日	51	和歌当座御 会	仙洞	組題30首 (1 ~ 4 字 題) 光格：拂衣	衣つぎぬたの音のうらむ るを遠かに人にしらせてし かな	左衛門督 (飛 鳥井雅光卿)	為全朝臣 (冷 泉少将)		国会本仙洞 有栖川宮本	「和歌当座御会ヲ行ハル、出御アラセラル」(光格天皇実 録)
文政4年 5月22日	51		仙洞		二十一日から二十二日にか けて泉涌寺で営まれる福瑞 光院宮の百箇日御法会に代 参として上冷泉為全を運わ す				光格天皇実録	
文政4年 5月24日	51		仙洞		禁裏に御幸				光格天皇実録	
文政4年 5月24日	51	月次御会	内裏	盧橘、水鶏、海辺		冷泉前新大納 言 (為則卿)	右衛門督 (万 里小路建房 卿)		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「盧橘：五月雨にはな立花のうちしめりか をりえならぬ軒の夕風、水鶏：夏のよのぬるまほどなき 團の戸を猶明よとてた>>く水鶏か、海辺：海原やみるめ をそへて朝風の浪のまにまにうかぶ釣ふね」
文政4年 5月27日	51		仙洞		壽山亭で揮快を御覧				光格天皇実録	
文政4年 6月9日	51		仙洞		仁孝天皇の皇子錦宮、薨 去。この日より三日間、物 音を停む				光格天皇実録	
文政4年 6月16日	51		仙洞		この日より禁裏觸帳により 觸帳の儀を停む				光格天皇実録	
文政4年 7月22日	51		仙洞		觸帳寛祿を行う				光格天皇実録	
文政4年 8月1日	51		仙洞		八朔の儀				光格天皇実録	
文政4年 8月5日	51		仙洞		別殿 (吳服所) に渡御。左 帷大夫、通修等を召す				光格天皇実録	
文政4年 8月24日	51	月次御会	内裏	組題100首 (1 ~ 3 字題) 仁孝：荻、冬 月、寄弓窓		為全朝臣 (冷 泉少将)	為全朝臣 (冷 泉少将)		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「荻：小夜深く風にく度おとたて、薨お どろかす軒の下萩、冬月：まの>浦や浪よる尾花霜枯て 入江を寒みこほる月かけ、寄弓窓：人心あたちの真弓お しかへしなびきやすと猶引てまし」
文政4年 8月25日	51	当座御会	内裏	組題20首 (2 ~ 4 字 題) 仁孝：雲間対月		冷泉前新大納 言 (為則卿)	為全朝臣 (冷 泉少将)		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「雲間対月：晴やらぬ雲間の影をかこち つ>ながむるま>に更るよの月」
文政4年 8月26日	51		内裏		禁裏に御幸				光格天皇実録	

文政4年 9月2日	51		仙洞		鎮守社に参拝					光格天皇実録	
文政4年 9月8日	51		仙洞		鎮守社・柿本社に参拝					光格天皇実録	
文政4年 9月9日	51	重陽御会	内裏	毎秋愛菊		左衛門督（飛鳥井雅光卿）	右兵衛督（藤谷為脩卿）		国会本内裏 有栖川宮本	光格上皇御製・大宮御歌なし。仁孝天皇御製「秋ごとに いろ香をそへて咲にほふ花のしらぎくめでつゝぞみる」。 准后御方・女房達：准后御方、大興侍、幸相典侍（巻末）	
文政4年 9月11日	51		仙洞		鎮守社・柿本社に参拝				光格天皇実録		
文政4年 9月13日	51		仙洞		八月二十二日に將軍徳川家 齊女元姫が逝去したことの 報告を受け、三日間、物音 を停む				光格天皇実録		
文政4年 9月16日	51		仙洞		別殿（呉服所）に渡御。新 源三位、有言朝臣等を召す				光格天皇実録		
文政4年 9月23日	51		内裏		禁裏に御幸				光格天皇実録		
文政4年 9月24日	51	月次御会	内裏	鰯、秋霜、思		冷泉前大納言 （為章卿）	雅久朝臣（飛鳥井少将）		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「鰯：夜を寒み秋も末野ゝかた鰯露ふか草 にわつゝゝや鳴、秋霜：咲菊の花にかさねて長月のまが きふるさぬ霜の白妙。思：思ひかはみづのうたかたなか なかに消はもせてうさのみぞそふ」	
文政4年 9月28日	51	和歌当座御 会	仙洞	組題20首（2字題） 光格：梅雨	雲の浪たつも八重ぶさ芦の 屋のこやいつ迄ぞさみだ るゝ空	雅久朝臣（飛鳥井少将）	冷泉前新大納 言（為則卿）		国会本仙洞 有栖川宮本	「和歌当座御会」ラ行ハル、出御アラセラル」（光格天皇実 録）	
文政4年 10月10日	51		仙洞		玄梧の儀				光格天皇実録		
文政4年 10月16日	51		仙洞		壽山亭で鰯稻を御覧				光格天皇実録		
文政4年 10月17日	51		仙洞		頭痛を病み、櫻かに浮腫を 発す				光格天皇実録		
文政4年 10月24日	51	月次御会	内裏	組題100首（3～4 字題）仁孝：折梅花、 漣上鰯、鰯落葉		雅久朝臣（飛鳥井少将）	為全朝臣（冷泉少将）		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「折梅花：咲匂ふみちの行ての梅のはない ぞ家つとに折てかへらむ、漣上鰯：落瀬つたきつは波 声そへてこするにたかく鰯ぞ鳴なる、鰯落葉：よすがら に風のしくれの窓うつときゝしは木々の落葉なりけり」。 有栖川宮本には、仁孝天皇御製の三首ともに「後日夜出。 十一月廿九日御到来」と注があり、1か月以上後に提出 されていたことが知られる	
文政4年 10月26日	51		仙洞		夜、別殿（呉服所）に渡御。 男女を召さず				光格天皇実録		
文政4年 11月22日	51		仙洞		靈鑑寺宮奈恭女王、薨去。 この日より三日間、御傾、 物音を停む				光格天皇実録		
文政4年 11月28日	51	月次御会	内裏	雪上月、千鳥、松色 久		冷泉前新大納 言（為則卿）	右衛門督（万 里小路建房 卿）		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「雪上月：すむ月も降つむ雪もさやけさの ひかりをみがく玉しきの庭、千鳥：鳴わたるこゑも寒け し小夜千鳥霜みつ空に友さそひつゝ、松色久：うごきな き吾のいはばに立そひてみどりの松の千世ちきるがけ」	
文政4年 12月11日	51		仙洞		夜、別殿（呉服所）に渡御。 男女を召さず				光格天皇実録		

年月日	年齢	御会名 月次御会	場所	歌題	光格天皇御製および事項	題者	奉行	その他の諸役	出典	備考
文政4年 12月24日	51		内裏	組題100首 (3～5 字題) 仁孝：名所宸 名所宸置、名所竹		左衛門督 (飛 鳥井雅光卿)	左衛門督 (飛 鳥井雅光卿)		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「名所雁：難波江やあしへの友に声かはし 空飛かりのなびく浦かぜ、名所宸置：大原やをしほの山 の朝くもり残が波やぐ煙成らん、名所竹：茂りあふ竹の 緑も降うつむ雪にふしみの里の朝戸出」
文政4年 12月27日	51		仙洞		頭痛、日をおって順快につ ぎ、年内に御祝儀を行っ たが、その費用に困して御付 武士から申達あり				光格天皇実録	
文政5年 1月1日	52		仙洞		四方様には出御せず、御齒 固の事あり				光格天皇実録	
文政5年 1月3日	52		仙洞		吉書御覽。朝餉に出御				光格天皇実録	
文政5年 1月7日	52		仙洞		千秋万歳・白馬御覽のため 出御				光格天皇実録	
文政5年 1月11日	52		仙洞		諸礼を行う。閑議の儀なし				光格天皇実録	
文政5年 1月13日	52		仙洞		夜、別殿 (小御所) に渡御。 修理権大夫、通考等を召す				光格天皇実録	
文政5年 1月14日	52		仙洞		太元節法・後七日御修法結 願のため同法阿闍梨参院。 閑議の儀なし。				光格天皇実録	
文政5年 1月15日	52		仙洞		御吉書・三棹打のため小御 所に出御				光格天皇実録	
文政5年 1月18日	52	和歌御会始	仙洞	子日契	手にみでる千年のみどり二 葉にもこめし子日のこまつ ばらかな	冷泉前新大納 言 (為則卿)	為朝臣 (冷 泉少将)	読師：徳大寺大納言 (兼堅卿)、講師：陸 光 (御原弁)、発声： 権中納言 (庭田重能 卿)	国会本仙洞 有栖川宮本	准后御方・女官達：准后御方、小侍、新大納言、あや めの小路、中將内侍、小少将、小侍従、命婦伊豫、命婦 伯耆、紀伊 (巻末)。「和歌御会始ヲ行ハル、出御、御製 アラセラル」(光格天皇実録)
文政5年 1月27日	52	御会始	内裏	禁中春	露たつ大内やまはうち日さ すみやこの春の初しほのか げ (院御製)	左衛門督	坊城中納言 (俊明卿)	読師：驚尾大納言 (隆純卿)、講師：為 朝臣 (冷泉少将)、 発声：左衛門督 (飛 鳥井雅光卿)	国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製 (巻頭)、光格天皇御製の順に掲載。仁孝 天皇御製「折にあふあけむらさきの袖はへてゆたかにく むや春のさかづき」(巻頭)。准后・女官達：准后、大典 侍、宰相典侍、修典侍、新大納言、中將内侍、侍従内侍、 命婦伊豫、命婦伯耆 (巻末)
文政5年 後1月15日	52		内裏		禁裏に御幸始				光格天皇実録	
文政5年 後1月15日	52		仙洞		石清水社法楽和歌御会を行 う				光格天皇実録	
文政5年 後1月24日	52	月次御会	内裏	組題100首 (2～3 字題) 仁孝：春神祇、 夏風、秋花		冷泉前新大納 言 (為則卿)	雅久朝臣 (飛 鳥井少将)		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「春神祇：春日山その二月の神祭や、ちか しどていはふ宮人、夏風：六月の照日の影もやゝくれて すゝしくかよふ軒の夕風、秋花：野へは今秋に紐とく秋 薄はなの千種の錦をぞおる」
文政5年 後1月26日	52	陽大樹五十 賀	内裏	松延齡		左衛門督 (飛 鳥井雅光卿)	冷泉前新大納 言 (為則卿)		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「みどりそふ五十の春をはじめにて尽ぬよ はひはまつといく千世」

文政5年 後1月26 日	52		仙詞		別殿（小御所）に渡御。花 山院大納言、重徳朝臣等を 召す					光格天皇実録	
文政5年 2月2日	52		仙詞		將軍徳川家齊の五十歳につ ぎ、無異安穩の為、内侍所 千度祓を仰せつく					光格天皇実録	
文政5年 2月13日	52	石清水社法 楽	仙詞	毎夜契恋			冷泉前新大納 言			光格天皇実録	
文政5年 2月22日	52	水無瀬宮御 法楽	内裏	組題20首（3～4字 題）仁孝：春雪散風		為全朝臣（冷 泉少将）	権中納言（庭 田重能卿）	顕孝（業室弁）	国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「春雪散風：花はいまだ匂はぬ庭の朝風に おも影ちらす春のあわ雪」	
文政5年 2月22日	52	水無瀬宮御 法楽	仙詞	組題20首（3字題） 光格：花映日	桜花朝日つらゝにかやき て桜にも餘る光りをぞ思ふ	雅久朝臣（飛 鳥井少将）	左衛門督（飛 鳥井雅光卿）	講師：基茂朝臣（園 頭中将）	国会本仙詞 有栖川宮本	「小御所ニ於テ水無瀬宮御法楽和歌ノ披露アリ」（光格天 皇実録）	
文政5年 2月23日	52		内裏		禁裏に御幸				光格天皇実録		
文政5年 2月24日	52	月次御会	内裏	花洛春月、帰雁遠、 寄埋木恋		為全朝臣（冷 泉少将）	左衛門督（飛 鳥井雅光卿）		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「花洛春月：名にしあふ花の都の事の月か ずむもあかぬおほ夜の影、帰雁遠：麗しく雲路はるか に帰る雁行へやいつこ遠ざかるこゑ、寄埋木恋：なとり 川名はむれ木のいつ迄ぞ逢こと浪にくちもはてなで」	
文政5年 2月25日	52	聖廟御法楽	内裏	組題50首（2～3字 題）仁孝：待花		雅久朝臣（飛 鳥井少将）	為全朝臣（冷 泉少将）	光成朝臣（廣橋 頭弁）	国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「待花：ちはやぶる北野ゝもりの桜花神も 心に吹をまつらん」	
文政5年 2月25日	52	聖廟御法楽	仙詞	組題50首（1字題） 光格：霞	春きての日数もしるく朝霞 しのに衣を纏はてたつ	左衛門督（飛 鳥井雅光卿）	冷泉前新大納 言（為則卿）	講師：雅久朝臣（飛 鳥井少将）	国会本仙詞 有栖川宮本	「小御所ニ於テ聖廟御法楽和歌ノ披露アリ」（光格天皇実 録）	
文政5年 2月30日	52	和歌当座御 会	内裏	組題30首（1～3字 題）光格：帰雁	などてかく名残やしき春 毎に帰るは雁のなむひと忌 へど（院御製）	左衛門督（飛 鳥井雅光卿）	為全朝臣（冷 泉少将）	雅久朝臣（飛鳥井 少将）	国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「若菜：あわ雪は散ともよしや打むれてい さ春の野ゝ若なつまゝし」（巻頭）	
文政5年 2月30日	52		内裏		禁裏に御幸				光格天皇実録		
文政5年 3月2日	52	当座御会	仙詞	組題30首（2～4字 題）光格：露満山	佐保姫のおるや霞の幾千機 春の山べに立わたりつゝ	冷泉前新大納 言（為則卿）	雅久朝臣（飛 鳥井少将）	為全朝臣（冷泉少 将）	国会本仙詞 有栖川宮本	「和歌当座御会始ヲ行ハル、出御アラセラル」（光格天皇 実録）	
文政5年 3月10日	52		仙詞		別殿（小御所）に渡御。堀 川三位、通修等を召す				光格天皇実録		
文政5年 3月11日	52	当座御会	内裏	組題20首（3字題） 光格：簾外燕	吹入る花の雪吹の春風にこ すの戸近くまひつづくら （院御製）	冷泉前新大納 言（為則卿）	右衛門督（万 里小路建房 重）		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「八重桜：えならずよ雲とまがひて陰高く さきかさなれる八重桜がな」（巻頭）	
文政5年 3月18日	52	神影供	仙詞	春囃月	明ほのとながめながめし春 の色を鑑いしくほに月しら むそら	雅久朝臣	左衛門督（飛 鳥井雅光卿）	読師：源一位（庭田 重朝卿）、講師：雅 久朝臣（飛鳥井少 将）、発声：持明院 三位（基延卿）	国会本仙詞 有栖川宮本	「柿本神影供ヲ行ハル、出御アラセラル」（光格天皇実録）	
文政5年 3月20日	52		内裏		御菜始のため禁裏に御幸				光格天皇実録		
文政5年 3月24日	52	月次御会	内裏	組題100首（2～4 字題）仁孝：折歌冬、 見忍、寄橋雑		為全朝臣（冷 泉少将）	権中納言（庭 田重能卿）		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「折歌冬：をしとだにいはぬ色なる山吹は 折はや花の主もがめじ。見忍：ほのみつる人の面影わ すらず起ふしわかで身にそふもつし。寄橋雑：世を渡 る身のほどににあやふさもかけてわするな木曾のかけ 橋。有栖川宮本によれば、仁孝天皇御製には、すべて 「後日抽出」と注があり、後日に提出されたことがわか る	

年月日	年齢	御会名	場所	歌題	光格天皇御製および事項	題者	奉行	その他の諸役	出典	備考
文政5年 3月24日	52	聖廟御法楽	仙洞	重葉	二十四日・二十五日、聖廟 法楽和歌を行う				光格天皇実録	
文政5年 3月28日	52	当座御会	仙洞	組歌20首 (2 ~ 4 字 題) 光格：春朝	鶴の鳴ぬのみかは春はたさ 花を思ひに朝いせられず	上皇御題	右衛門督 (万 里小路建房 卿)		国念本仙洞 有栖川宮本 録)	「和歌当座御会ラ行ハル、出御アラセラル」(光格天皇実 録)
文政5年 4月4日	52		仙洞		仁孝天皇への三部抄御伝受 のため、四月十五日より伊 勢神宮に、四月十日より玉 津島・住吉神社に折袴を仰 せつく				光格天皇実録	
文政5年 4月5日	52		内裏		禁裏に御幸				光格天皇実録	
文政5年 4月13日	52		仙洞		仁孝天皇への三部抄御伝受 のため、十四日より七日 間、上御霊・下御霊・北野 の三社に折袴を仰せつく				光格天皇実録	
文政5年 4月18日	52		仙洞		小御所において管弦の御遊 を行つたため出御、筆の御所 作				光格天皇実録	
文政5年 4月22日	52		内裏		禁裏に御幸				光格天皇実録	
文政5年 4月22日	52		内裏		禁裏に御幸し、仁孝天皇へ 和歌三部抄伝受を相伝				光格天皇実録	
文政5年 4月24日	52	月次御会	内裏	葵、恋、鶴		左衛門督 (飛 鳥井雅光卿)	権中納言 (庭 田重能卿)		国念本内裏 有栖川宮本 録)	仁孝天皇御製「葵：千早振かものみありにあふひ萬万代 かけていはふもろ人、恋：年月に猶まさりゆく思ひとも しらでや人のつれなかるらむ、鶴：わかぬの浦やさかゆる 松に千世しめて伴ふ鶴の声ぞゆたけき」
文政5年 4月24日	52		仙洞		夜、別殿 (小御所) に渡御。 縁小路三位、隆起朝臣を召 す				光格天皇実録	
文政5年 4月25日	52		仙洞		將軍徳川家齊・家慶が任叙 の御礼として侍従松平綱紹 等を遣わし物を献ずるの に、弘御所に出御し謁す				光格天皇実録	
文政5年 4月26日	52		仙洞		鎮守本社・北小社の仮殿遷 座を行う				光格天皇実録	
文政5年 4月28日	52	当座御会	内裏	組歌30首 (2 字題) 光格：別恋	いかにしたひいかにかこた む衣々の名残有明の月もし らみて (院御製)	雅久朝臣 (飛 鳥井少将)	坊城 中納言 (俊明卿)	講師：光成朝臣 (廣 橋頭弁)	国念本内裏 有栖川宮本 録)	仁孝天皇御製「初春：日の影も今朝はうららに神路山も も枝の松のかすむ初春」(巻頭)
文政5年 4月28日	52		内裏		禁裏に御幸				光格天皇実録	
文政5年 5月2日	52		仙洞		内々に能御覽				光格天皇実録	
文政5年 5月7日	52	当座御会	仙洞	組歌30首 (2 字題) 光格：子日	小松ひき袴ふ言葉の子日こ そちよを手にとる春の初入	左衛門督 (飛 鳥井雅光卿)	雅久朝臣 (飛 鳥井少将)	顕孝 (葉室弁)	国念本仙洞 有栖川宮本 録)	「和歌当座御会ラ行ハル、出御アラセラル」(光格天皇実 録)

文政5年 5月16日	52		仙洞		壽山亭で攝袂を御覽					光格天皇実録	
文政5年 5月17日	52		仙洞		養生のために年に二三度、 修学院に御幸するため、御 茶座・御庭園の修理を治定					光格天皇実録	
文政5年 5月18日	52		内裏		禁裏に御幸					光格天皇実録	
文政5年 5月24日	52	月次御会	内裏	組題10首(2字題) 仁孝：早苗、梅雨、 旅行		雅久朝臣(飛 鳥井少将)	坊城中納言 (俊明卿)			国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「早苗：千町田にうゑし早苗の若緑秋のた のみも見えて涼しき、梅雨：日をへつ>をやみもやらず 五月雨に色づく梅は落つくしても、旅行：たひ衣すそ野 を遠み分きつ>秋もぬる>道しほの露」
文政5年 6月7日	52		仙洞		夜、別殿(小御所)に渡御。 大原三位、久雄朝臣等を召 す					光格天皇実録	
文政5年 6月16日	52		仙洞		嘉祥の儀に出御					光格天皇実録	
文政5年 6月24日	52	月次御会	内裏	瞿麦、夕顔、緑竹		為全朝臣(冷 泉少将)	冷泉前大納言 (為則卿)			国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「瞿麦：ささざまに庭のまがきを朝な夕な いころの花は大和なでしこ、夕顔：たそがれのしづが垣 ほに咲かけて露もすゝしくにほふ夕顔。緑竹：生そはむ すゑもはるかにわか緑千尋あるかげの茂るくれ竹」
文政5年 6月25日	52	聖廟御法楽	内裏	組題50首(かな題) 仁孝：ゆふだち		左衛門督(飛 鳥井雅光卿)	雅久朝臣(飛 鳥井少将)	基茂朝臣(團頭中 将)		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「ゆふだち：雲風のたゝ時のまにきほひ つ>ふるかとみればすぐる夕立」
文政5年 6月25日	52	聖廟御法楽	仙洞	組題50首(2字題) 光格：夕顔	咲てこそあやしきしづが垣 ねさへひとにとはるれ花の タかほ	雅久朝臣(飛 鳥井少将)	坊城中納言 (俊明卿)	共福(清閑寺弁)		国会本仙洞 有栖川宮本	「小御所二於テ聖廟御法楽和歌ノ披露アリ」(光格天皇実 録)
文政5年 6月26日	52		内裏		禁裏に御幸					光格天皇実録	
文政5年 6月30日	52		仙洞		六月祓を行う。茅輪の事あ り					光格天皇実録	
文政5年 7月2日	52		仙洞		鎮守社に参拜					光格天皇実録	
文政5年 7月5日	52		仙洞		皇女治宮、薨去。この日よ り三日間、物音を停む					光格天皇実録	
文政5年 7月14日	52		内裏		禁裏に御幸					光格天皇実録	
文政5年 7月20日	52		仙洞		夜、別殿(小御所)に渡御。 左京権大夫、実季等を召す					光格天皇実録	
文政5年 7月24日	52	月次御会	内裏	組題100首(1字題) 仁孝：薄、雲、鏡		為全朝臣(冷 泉少将)	右兵衛督(藤 合為脩卿)			国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「薄：薨に出て何まねくらむ糸すゝきくる 人もなき秋の野原に、雲：在明の月かけしらむ山端にひ とすちかゝる燒雲の空、鏡：みがけ猶光くもらず朝な朝 な心もすみてむかふ鏡は」
文政5年 8月7日	52		内裏		禁裏に御幸					光格天皇実録	
文政5年 8月20日	52		仙洞	露	賀茂社法楽和歌御会を行う		右兵衛督			光格天皇実録	



年月日	年齢	御会名	場所	歌題	光格天皇御製および事項	題者	奉行	その他の諸役	出典	備考
文政5年 8月24日	52	月次御会	内裏	嵯峨野虫、須磨浦 月、葛城山雲		左衛門督(飛 鳥井雅光卿)	為全朝臣(冷 泉少将)		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「嵯峨野虫：所がらわきてあやおるむしの ねやさが野の原の花の千種に、須磨浦月：すまの浦やせ な吹こゆる秋風に波路をひろみする月影、葛城山雲： かつらきやたかまの山のおきの色にかゝるもさむし顔の しら雲」
文政5年 8月24日	52		仙洞		一乘院尊勝親王、蒙去。こ の日より三日間、物音を停 む				光格天皇実録	
文政5年 8月27日	52		内裏		禁裏に御幸				光格天皇実録	
文政5年 9月1日	52		仙洞		鎮守本社正遷宮を行う				光格天皇実録	
文政5年 9月2日	52		仙洞		鎮守北小社正遷宮を行う				光格天皇実録	
文政5年 9月4日	52		仙洞		夜、別殿(小御所)に渡御。 刑部卿、為全朝臣等を召す				光格天皇実録	
文政5年 9月9日	52	重陽御会	内裏	菊添佳色		雅久朝臣(飛 鳥井少将)	為全朝臣(冷 泉少将)		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「なが月にもてはやされて花の色のなほい くはかまざるむら菊」。准后御方・女房連：准后御方、 宰相典侍、賢典侍、中將内侍、侍從内侍、命婦伊豫、命 婦大御乳(巻末)
文政5年 9月11日	52		仙洞		鎮守社・椿本社に参拝				光格天皇実録	
文政5年 9月13日	52	当座御会	内裏	組題30首(2字題) 光格：池月	秋いく世君が御池にくもる なよみづの心も月の光りと [院御製]	為全朝臣(冷 泉少将)	権中納言(庭 田重能卿)		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「橘月：あやふさも影に忘れて渡るらむ月 こそしるべ木曾のかけ橋」
文政5年 9月20日	52		内裏		禁裏に御幸				光格天皇実録	
文政5年 9月24日	52	月次御会	内裏	組題100首(2字題) 仁孝：秋浦、秋木、 秋鳥		為全朝臣(冷 泉少将)	雅久朝臣(飛 鳥井少将)		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「秋浦：いそつたひ行かふ舟も紅葉ゝの色 にこがるゝ秋のうらうら、秋木：はえあれや錦染なすも みち葉にまじるみどりの松のむら立、秋鳥：うらがるゝ 野へのまくずの秋風に夜裏をわびて舞なくらし」
文政5年 9月24日	52	和歌当座御 会	仙洞	組題30首(2~4字 題) 光格：朝菊	露霜に朝毎色のまざり草む べ万代も長月の花	為全朝臣(冷 泉少将)	右兵衛督(藤 合為脩卿)		国会本仙洞 有栖川宮本	「和歌当座御会ラ行ハル、出御アラセラル」(光格天皇実 録)
文政5年 10月7日	52		内裏		禁裏に御幸				光格天皇実録	
文政5年 10月10日	52		仙洞		玄緒の儀				光格天皇実録	
文政5年 10月13日	52		仙洞		夜、別殿(小御所)に渡御。 修理大夫、恭光等を召す				光格天皇実録	
文政5年 10月20日	52		仙洞		壽山亭で獲福を乞覧				光格天皇実録	
文政5年 10月21日	52		内裏		禁裏に御幸				光格天皇実録	

文政5年 10月24日	52	月次御会	内裏	松上霜、湖千鳥、寄 舟恋		冷泉前大納言 (為則卿)	右衛門督 (万 里小路建房 卿)		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「松上霜：ふかみどり常緑の松もしる妙に 冬をわきつゝ置くあさしも、湖千鳥：湖の海や比良山か ぜに及千鳥ともまほして立さわぐこ家、寄舟恋：いつ までかつれなき人をまつら舟よるべもなみにこがれわび つゝ」
文政5年 10月27日	52	和歌当座御 会	内裏	組題30首 (1～2字 題) 光格：千鳥	むら千鳥声打むれて群くる は沖の小島に浪いらしも (院御製)	左衛門督 (飛 鳥井雅光卿)	右兵衛督 (藤 合為脩卿)		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「霜：おとたてし軒ばの寂も枯ふして霜の みふかき庭の寒けさ」
文政5年 11月13日	52		内裏		禁裏に御幸				光格天皇実録	
文政5年 11月24日	52	月次御会	内裏	組題100首 (1～4 字題) 仁孝：霞、不 逢恋、山家		為全朝臣 (冷 泉少将)	雅久朝臣 (飛 鳥井少将)		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「霞：閑寒み小夜更ぬらしさゝの葉にあら れみなるゝおとも身にしむ、不逢恋：こがれわびあはで 袖のみしほたるゝ浦の塩やく海人ならねども、山家：月 花のみやこそよそにすみしむるみやまのおくのいほぞし つげき」
文政5年 11月26日	52		仙洞		夜、別殿 (小御所) に渡御。 三位中将、久雄朝臣等を召 す				光格天皇実録	
文政5年 12月4日	52		内裏		禁裏に御幸				光格天皇実録	
文政5年 12月21日	52		仙洞	紅葉	賀茂社法楽和歌御会を行う		坊城中納言		光格天皇実録	
文政5年 12月24日	52	月次御会	内裏	連日雪、年内戴、蔽 頭告		雅久朝臣 (飛 鳥井少将)	雅久朝臣 (飛 鳥井少将)		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「連日雪：けぬがうへに猶降そひて庭の面 はたゝしろ妙の雪の此ごろ、年内戴：かつ咲し梅のには ひやさそひむ年のこなたにうぐすのなく、蔽頭告：ほ 天つ袖なつるやいく世うごきなきいはほにかゝる昔のこ ろもは」
文政5年 12月25日	52		仙洞		夜、別殿 (昌殿所) に渡御。 大原三位、実久、実孚等を 召す				光格天皇実録	
文政6年 1月1日	53		仙洞		四方拜に出御				光格天皇実録	
文政6年 1月2日	53		仙洞		御歯固、拜礼あり。諸臣に 賜す				光格天皇実録	
文政6年 1月3日	53		仙洞		吉書御覧のため出御				光格天皇実録	
文政6年 1月4日	53		内裏		禁裏に御幸始				光格天皇実録	
文政6年 1月7日	53		仙洞		千秋万歳・白馬御覧				光格天皇実録	
文政6年 1月8日	53		仙洞		大和万歳・臨時万歳御覧				光格天皇実録	
文政6年 1月13日	53		仙洞		諸礼を行う。弘御所・小御 所に出御				光格天皇実録	
文政6年 1月14日	53		仙洞		太元御法・後七日御修法結 願のため高法阿闍梨参院。 弘御所に出御し賜す				光格天皇実録	
文政6年 1月15日	53		仙洞		御吉書・三輪打のため小御 所に出御				光格天皇実録	

年月日	年齢	御会名	場所	歌題	光格天皇御製および事項	題者	奉行	その他の諸役	出典	備考
文政6年 1月18日	53	御会始	仙洞	水榭多佳趣	氷とけみづぬるむ江のなみの あやとおるやつゝみの青柳 のいと	左衛門督	雅久	読師：鷲尾大納言、 講師：共福、発声： 左衛門督	有栖川宮本	准后御方・女房達：准后御方、大すけ、新大納言、萬清 小路、中将のいし、小少将、命婦伊与、命婦 はつさぎ、紀伊（巻末）。『和歌御会始ヲ行ハル、出御、御 製アラセラル』（光格天皇実録）
文政6年 1月30日	53		仙洞		小御所において管弦の御遊 を行う。出御				光格天皇実録	
文政6年 2月2日	53		内裏		禁裏に御幸				光格天皇実録	
文政6年 2月8日	53		仙洞		夜、別殿（呉服所）に渡御。 男女、召さず				光格天皇実録	
文政6年 2月22日	53	水無瀬宮御 法楽	仙洞	組題20首（3～4字 題）光格：鶴知春	山たかみ雪もさながらうづ もれてはるを水無瀬に立霞 かな	為全朝臣	俊明	講師：光成朝臣	有栖川宮本	「小御所ニ於テ水無瀬宮御法楽和歌ノ披露アリ」（光格天 皇実録）
文政6年 2月25日	53	聖廟御法楽	仙洞	組題50首（2字題） 光格：椿香	萬木の花てふ花の花の香も むめのにほひに何及ぶべき	雅久朝臣	建房	隆光	有栖川宮本	「小御所ニ於テ聖廟御法楽和歌ノ詠上アリ」（光格天皇実 録）
文政6年 3月7日	53	御会始	内裏	霞満山	佐は矩の春のころものおり はへてかすみかゝらぬ山は あらしな（院御製）	雅久朝臣（右 少将）	左衛門督（雅 光卿）	読師：花山院大納言 （家厚卿）、講師：基 茂朝臣（頭右中将）、 発声：権中納言（重 能卿）	国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製、光格上皇御製の順に掲載。仁孝天皇御製 「はる霞みねにも尾にも柳引てひとつみどりのやまの色 かな」（巻頭）。准后御方・女房達：准后、大典侍、宰相 典侍、賢典侍、新大納言、中将内侍、侍従内侍、命婦伊 豫、命婦伯耆、命婦大御乳（巻末）
文政6年 3月8日	53		仙洞		小御所において管弦の御遊 を行う。出御、箏の御所作				光格天皇実録	
文政6年 3月10日	53	当座御会	内裏	組題30首（2字題） 光格：江鷺	あらぶ江に波よりしろくた つ鶯や桜柳の春のにしきを	冷泉前大納言 （為則卿）	右衛門督（建 房卿）	共福（蔵人 権 右 中 弁）	国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「朝霞：いつる日の影ものどかに山とりの 尾上をかけて立かすむ空」（巻頭）
文政6年 3月10日	53		内裏		禁裏に御幸				光格天皇実録	
文政6年 3月18日	53	神影供	仙洞	花色春久	年ごとに物おもひなき花を 見てこゝろのどけきはるに もある哉	為全朝臣	雅久	読師：花山院大納 言、講師：為全朝臣、 発声：権中納言	有栖川宮本	「柿本神影供ヲ行ハル、出御アラセラル」（光格天皇実録）
文政6年 3月19日	53		仙洞		夜、別殿（呉服所）に渡御。 刑部卿、恭光等を召す				光格天皇実録	
文政6年 3月21日	53		仙洞		鎮守社に参拜				光格天皇実録	
文政6年 3月22日	53	水無瀬宮御 法楽（去月 分）	内裏	組題20首（3～4字 題）仁孝：水細霞		雅久朝臣（右 少将）	権中納言（重 能卿）	講師：雅久朝臣（右 少将）	国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「水細霞：水無瀬河波ものどかに霞みつゝ みどりにむかふ山本のはる」
文政6年 3月24日	53	月次御会	内裏	組題5首（1～2字 題）仁孝：花、月、雪		左衛門督（雅 光卿）	為全朝臣（左 少将）		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「花：此ごろはいづくも花の咲みちていろ かに匂ふ春風のそら、月：秋風の更行まゝに雲はれてか げすみ渡る中空の月、雪：しばし猶はらはでみばや雪に 今朝なびくもあかぬ庭のくれ竹」
文政6年 3月26日	53		仙洞		内々、猿楽御覧				光格天皇実録	
文政6年 3月30日	53		内裏		禁裏に御幸				光格天皇実録	

文政6年 4月2日	53	内裏	禁裏に御幸						光格天皇実録	
文政6年 4月3日	53	仙洞	仁孝天皇の皇女ならびに准后藤原繁子(27)、薨去。この日より五日間、物音を停む						光格天皇実録	
文政6年 4月11日	53		新皇嘉門院(藤原繁子)入棺の儀。この日より天下觸穢						光格天皇実録	
文政6年 5月7日	53		新皇嘉門院のために船舟三昧院において御法会を行う						光格天皇実録	
文政6年 5月14日	53		新皇嘉門院のために泉涌寺において法用弥陀三昧を行う						光格天皇実録	
文政6年 5月21日	53	仙洞	新皇嘉門院尽七日忌により、代参として正三位東久世通孝を船舟三昧院ならびに泉涌寺に遣わす。また民部卿冷泉為訓をもって法華経一部を泉涌寺に納め、御香奠を備えさせる						光格天皇実録	
文政6年 5月22日	53	仙洞	新皇嘉門院のために承真親王に仙洞において御法会を行わせる						光格天皇実録	
文政6年 6月3日	53	仙洞	觸穢竟清祿あり						光格天皇実録	
文政6年 6月7日	53	仙洞	嵩山亭で椿袂を御覧						光格天皇実録	
文政6年 6月14日	53	仙洞	石清水社法楽和歌御会を行う		右兵衛督				光格天皇実録	
文政6年 6月16日	53	内裏 (去二月分)	組題50首(2〜3字題)仁孝：立春	為全朝臣(左少将)	雅久朝臣(右少将)	講師：為全朝臣(左少将)	国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「立春：松梅もかすみあひつゝ春ははやきた野・もりに立はしむらし」(巻頭)		
文政6年 6月16日	53	仙洞	嘉許の儀のため出御					光格天皇実録		
文政6年 6月17日	53	仙洞	夜、別殿(呉服所)に渡御。大原三位、通修等を召す					光格天皇実録		
文政6年 6月23日	53	内裏	禁裏に御幸					光格天皇実録		
文政6年 6月24日	53	内裏	風前夏草・蒲辺蟬声、名所眺望	雅久朝臣(右少将)	為全朝臣(左少将)		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「風前夏草：吹風のいろもすしくしら露の玉をちらせる庭のなつ草、蒲辺蟬声：たぎのいどのかゝるいはねの木間より涼しくひびくせみのもろごゑ、名所眺望：わたの原見わたすまゝにはるばると八十島かけて晴るゆふなき」		
文政6年 6月24日	53	仙洞	賀茂杜御法楽	冷泉前大納言	右兵衛督	講師：為全朝臣	光格天皇実録			
文政6年 6月25日	53	内裏	組題50首(2〜4字題)仁孝：瞿麦露	雅久朝臣(右少将)	権中納言(重能卿)	講師：基茂朝臣(頭右中将)	国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「瞿麦露：白露はかさしの玉と置そへてことになますなでしこの花」		

年月日	年齢	御会名	場所	歌題	光格天皇御製および事項	題者	奉行	その他の諸役	出典	備考
文政6年 6月25日	53	聖廟御法楽	仙洞	組題50首 (2字題) 光格：夏日	いく重ともあやしき暮を たゝむ雲に照日かゝやく水 無月の空	冷泉前大納言	為脩	講師：基茂朝臣	有栖川宮本	「小御所二於テ聖廟御法楽和歌ノ披露アリ」(光格天皇実録)
文政6年 6月29日	53		仙洞		六月祓のため御。茅輪の 事あり				光格天皇実録	
文政6年 7月7日	53	七夕御会	内裏	七夕天	すゞしはあまの河おとぎ くばかりほし合の影の澄わ たるそら (院御製)	冷泉前大納言 (為則卿)	雅久朝臣 (右 少将)		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製 光格上皇御製 大宮御歌の直に謁載。仁孝天皇御製「久かたの天のかはなみこよひこそ皇の逢瀬と晴わたるらめ」(巻頭)。大宮御歌「まづむかふころもともにすゞしきは天つはし合のそらにぞ有ける」。女房達：大典侍、宰相典侍、給典侍、新大納言、中將内侍、侍從内侍、命婦伊豫、命婦伯耆、命婦大御乳 (巻末)
文政6年 7月12日	53				桃園天皇の聖忌・新皇嘉門 院の百箇日のため泉涌寺に おいて御法事				光格天皇実録	
文政6年 7月13日	53		仙洞		新皇嘉門院の百箇日忌のた め御代参として権中納言四 社公説を船舟三昧院・泉涌 寺に遣わす				光格天皇実録	
文政6年 7月14日	53		内裏		禁裏に御幸				光格天皇実録	
文政6年 7月18日	53		仙洞		下御霊社神輿を御拝				光格天皇実録	
文政6年 7月24日	53	月次御会	内裏	組題100首 (2～3 字題) 仁孝：萩盛、 寄風恋、旅泊		為全朝臣 (左 少将)	坊城中納言 (俊明卿)		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「萩盛：えならずよこき紫に咲みちて露も色そふ野辺の秋萩、寄風恋：思ふ方のたよりをいつとまつつの戸にふくはうらめし軒の秋風、旅泊：いく夜半か月を枕にしきたへんのうきねになれし波の友舟」
文政6年 7月28日	53		仙洞		夜、別殿 (呉服所) に渡御。 修理権大夫、実字等を召す				光格天皇実録	
文政6年 8月1日	53		仙洞		八朔の儀あり				光格天皇実録	
文政6年 8月16日	53	和歌当座御 会	内裏	組題5首 (4字題) 光格：月契多秋	月とゝもに明らけき影をた めしにてちとせもみかけ君 が代の秋 (院御製)	左衛門督 (雅 光卿)	冷泉前大納言 (為則卿)		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「不知夜月：さやけさは昨日の秋におとらめや名におふ月のいざよひの影」(巻頭)
文政6年 8月18日	53		仙洞		下御霊社神輿を御拝				光格天皇実録	
文政6年 8月23日	53	当座御会	仙洞	組題30首 (2字題) 光格：若菜	氷とけ春立氷のわか水にく む手もゆらに根せりつまゝ し	雅久	雅久	講師：為全朝臣	有栖川宮本	「和歌当座御会ヲ行ハハ、出御アラセラル」(光格天皇実録)
文政6年 8月24日	53	月次御会	内裏	月為終夜友、鶉鳴草 花中、稀逢不絶恋		左衛門督 (雅 光卿)	右兵衛督 (為 脩卿)		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「月為終夜友：秋の夜のながきもさらにおもほえず見つゝなぐさむ月を友とて、鶉鳴草花中：はざすゝさ花のにしきの床しめめでなくやつらの声もえならす、稀逢不絶恋：わりなしや絶はてもせいでいつまでかまねなる中にかゝるちざりは」
文政6年 8月26日	53		内裏		禁裏に御幸				光格天皇実録	

文政6年 9月9日	53	重陽御会	内裏	九月九日菊			為全朝臣 (左 少将)	冷泉前大納言 (為則卿)		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「名にしおふなが月のけふも日もこゝのがさねに匂ふらぎく」。女房達：大典侍、督典侍、中将内侍、侍従内侍、命婦伊豫、命婦伯耆、命婦大御乳 (卷末)
文政6年 9月10日	53		仙洞		夜、別殿 (呉服所) に渡御。 高松三位、久雄朝臣等を召す					光格天皇実録	
文政6年 9月16日	53		仙洞		前右大臣三條美起薨去。この日より三日間、物音を停む					光格天皇実録	
文政6年 9月21日	53		仙洞		鎮守社・柿本社に参拝					光格天皇実録	
文政6年 9月23日	53		仙洞		修学院御茶屋御幸の費用について、御附衆より両役に申達					光格天皇実録	
文政6年 9月24日	53	月次御会	内裏	組題100首 (2～4 字題) 仁孝：山路菊、紅葉映日、寄絵恋			雅久朝臣 (右 少将)	右衛門督 (建 房卿)		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「山路菊：をる袖にこぼるゝ色も千世にほふ山路の菊の花のしら露。紅葉映日：露しぐれ染し紅葉のいく千入いま一しほと照す日の影。寄絵恋：あだなれやすがたこそみれ写し絵は思ひのかずをいふべくもなし」。有栖川宮本によれば、仁孝天皇御製には、すべて「後日檢出」と注があり、後日に提出されたことがわかる
文政6年 9月27日	53		内裏		禁裏に御幸					光格天皇実録	
文政6年 10月2日	53	当座御会	仙洞	組題20首 (3字題) 光格：篠上殿	冬ざれば霽みだれて篠の葉のみやまもささらに嵐ふくなり	為全		為則		有栖川宮本	「和歌当座御会ヲ行ハル、出御アラセラル」 (光格天皇実録)
文政6年 10月4日	53		仙洞		玄猪の儀					光格天皇実録	
文政6年 10月7日	53		内裏		禁裏に御幸					光格天皇実録	
文政6年 10月15日	53		仙洞		露山亭で獲稻を御覧					光格天皇実録	
文政6年 10月18日	53		内裏		猿楽御覧のため禁裏に御幸					光格天皇実録	
文政6年 10月22日	53		仙洞		管弦の御遊のため出御。和琴の御所作					光格天皇実録	
文政6年 10月23日	53		仙洞		夜、別殿 (呉服所) に渡御。 縫小路三位、重徳朝臣等を召す					光格天皇実録	
文政6年 10月24日	53	当座御会	内裏	組題20首 (3～4字 題) 仁孝：寄鶴祝		雅久朝臣 (右 少将)		為全朝臣 (左 少将)		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「寄鶴祝：いく千とせつきぬ齡を契りつゝ九重の庭になるゝ友鶴」
文政6年 10月24日	53	月次御会	内裏	待初雪、河千鳥、旅行晩		為全朝臣 (左 少将)		左衛門督 (雅 光卿)		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「待初雪：神無月まだ冬浅き毎朝毎朝待るゝものは夢のはつ雪。河千鳥：友千鳥ともよびかはしるゝも河や瀬々にしば鳴こゑも寒けし、旅行晩：あふさかの閑路よふかくこえゆけばはや東の鳥のこゑさか

年月日	年齢	御会名	場所	歌題	光格天皇御製および事項	題者	奉行	その他の諸役	出典	備考
文政6年 11月9日	53		仙洞		栢園天皇の聖忌のため泉涌寺において御法事。御代参として参議左兵衛督高倉永雅を般舟三昧院・泉涌寺に遣わす				光格天皇実録	
文政6年 11月16日	53		内裏		禁裏に御幸				光格天皇実録	
文政6年 11月24日	53	当座御会	内裏	組題100首(かな題) 仁孝：冬の田、人をまつ、ほし		左衛門督(雅光卿)	右兵衛督(為脩卿)		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「冬の田：もりすてし人めかれ行冬の田に残るもさびしづがよりいほ、人をまつ：待に施よがれがちなるあだ人をいつまでとてか何たのむらん。ほし：むら雲の晴行まゝに天のはらはしのはやしそ光がすそふ」
文政6年 11月25日	53		内裏		禁裏に御幸				光格天皇実録	
文政6年 12月5日	53		仙洞		夜、別殿(呉服所)に渡御。高松三位、通修等を召す				光格天皇実録	
文政6年 12月11日	53	当座御会	仙洞	組題20首(3~4字題) 光格：閑路雪満	行かひのしげきをよべに逢坂のせき路降うつむ朝毎の雪	冷泉前大納言	為脩		有栖川宮本	「和歌当座御会ヲ行ハル、出御アラセラル」(光格天皇実録)
文政6年 12月24日	53	月次御会	内裏	早春薫風、海辺冬鶴、奇山装窓		雅久朝臣(右少将)	坊城中納言(俊明卿)		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「早春薫風：雪ちらす風にいくたびぞはれて春まちがほの庭のむめが春、海辺冬鶴：年とゝもに雪もつもりのうら寒みたてるやまがふ鶴の毛ころも、奇山装窓：もろともにもにすゑのまつ山波かけて絶じと契る中はかはらし」
文政6年 12月28日	53		仙洞		謡曲ヲ行う				光格天皇実録	
文政7年 1月1日	54		仙洞		四方拜に出御、拜礼。弘御所に出御、諸臣に謁す				光格天皇実録	
文政7年 1月2日	54		仙洞		御園固				光格天皇実録	
文政7年 1月3日	54		仙洞		吉書御覧のため出御				光格天皇実録	
文政7年 1月4日	54		内裏		禁裏に御幸始				光格天皇実録	
文政7年 1月6日	54		仙洞		夜、別殿(小御所)に渡御。大原三位、久雄を召す				光格天皇実録	
文政7年 1月7日	54		仙洞		白馬御覧のため出御				光格天皇実録	
文政7年 1月11日	54		仙洞		千秋万歳御覧のため出御				光格天皇実録	
文政7年 1月13日	54		仙洞		諸礼を行う。弘御所・小御所に出御				光格天皇実録	
文政7年 1月14日	54		仙洞		太元御法・後七日御修法結願のため西法阿闍梨参院。弘御所に出御し謁す				光格天皇実録	



文政7年 1月15日	54	御会始	仙洞		御吉書・三緒打のため小御所に出席					光格天皇実録	
文政7年 1月18日	54	御会始	仙洞	松風声	洞しめてむむやまびとや山松の千とせのかせのこゑはしるらむ	為全朝臣	雅光			有栖川宮本	女房達：大すけ、新大納言、権中納言、あやめの小路、中將内侍、小少将、小侍従、命婦伊豫、命婦伯耆、紀伊アリ。〔和歌御会始ヲ行ハル、出御アラセラル、御製アリ〕（光格天皇実録）
文政7年 1月24日	54	御会始	内裏	子日鶯	子日して曳やこまつのねもゆらにさそはれき鳴のべのつくひす（院御製）	冷泉前大納言	重能			国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製、光格上皇御製の順に掲載。大宮御歌なし。仁孝天皇御製「松とゝもに千年のはるを契るらし子日する野の鶯のこゑ」（巻頭）。女房達：大典侍、宰相典侍、嵯典侍、新大納言、権中納言、中將内侍、侍従内侍、命婦伊豫、命婦伯耆、命婦大御乳（巻末）
文政7年 1月28日	54	当座御会	内裏	組題30首（2～3字題） 光格：山花	消かての雪より雲に面影をあくがれし花の匂ふ山まゆ（院御製）	為全朝臣	雅光			国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「鶴知春：鶯もまだ告そめぬ朝ぼらけまつ春みせてたつ霞かな」（巻頭）
文政7年 2月7日	54		内裏		禁裏に御幸					光格天皇実録	
文政7年 2月10日	54		仙洞		式部卿孝仁親王、尊去。この日より三日間、物音を停む					光格天皇実録	
文政7年 2月16日	54		仙洞		夜、別殿（小御所）に渡御。花山院大納言、有言朝臣等を召す					光格天皇実録	
文政7年 2月22日	54	水無瀬宮御法楽	内裏	組題20首（2～3字題） 仁孝：梅薫風		為全朝臣	雅光			国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「梅薫風：たえず鶯さそふや軒の春風に梅が春ふかき窓の明くれ」
文政7年 2月22日	54	水無瀬宮御法楽	仙洞	組題20首（3～4字題） 光格：春月朧	なかめこしいくよの春の哀をかげにこめ出る鶯夜の月	雅久	雅久			有栖川宮本	
文政7年 2月24日	54	月次御会	内裏	組題100首（1～4字題） 仁孝：立春、泉、初達恋		左衛門督	雅久			国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「立春：梓弓いるさの山にけさこそははる立ぬらめかすみ棚引、泉：まださより秋もやこもる谷かげの岩もる清水夏をへたてゝ、初達恋：年月のうさもつらさも新まくらかはすこよひに忘れはてぬる」
文政7年 2月24日	54	当座御会	内裏	組題20首（2字題） 光格：野遊	さほ姫の春の心もくみしるはかすみにあかぬ野べの日暮し（院御製）	冷泉前大納言	雅久			国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「早鶯：春はけふたちぬと思ふ明けほのかすみとゝもに告る鶯」（巻頭）
文政7年 2月25日	54	聖廟御法楽	内裏	組題50首（2～4字題） 仁孝：尋梅		雅久朝臣	為全			国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「尋梅：尋ねばやいつくはありとも隠たかきこの神垣の梅の色かを」
文政7年 2月26日	54	当座御会	仙洞	組題30首（2字題） 光格：山霞	はなかつまにほひもかけて乙女子が袖振山に霞み棚引	左衛門督	為全			有栖川宮本	〔和歌当座御会ヲ行ハル、出御アラセラル〕（光格天皇実録）
文政7年 2月26日	54		仙洞		修学院離宮御茶屋追立の木作始地曳を行う					光格天皇実録	
文政7年 3月11日	54		内裏		禁裏に御幸					光格天皇実録	
文政7年 3月14日	54		仙洞		管弦の御遊を行う。琵琶の御所作					光格天皇実録	
文政7年 3月18日	54	神影供	仙洞	社頭鶯	神こゝろあかずとやきくみつかきのしめゆふ花にきなくつくひす	冷泉前大納言	為脩			有栖川宮本	〔栞本社御神影供ヲ行ハル、出御アラセラル〕（光格天皇実録）

年月日	年齢	御会名	場所	歌題	光格天皇御製および事項	題者	奉行	その他の諸役	出典	備考
文政7年 3月24日	54	月次御会	内裏	糸桜、燕、愁風		為全	為全		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「糸桜：糸桜いとながき日にくりかへし花の千筋をあかずこそみれ、燕：はなの香を吹いるゝ風にこそはれてこそ外ちかく燕なくこゑ、愁風：おとづれにあらぬ物からまつとの風はさすかにたのまれずる」。国会本内裏に「六月八日正房取替御到来」と注あり。
文政7年 4月1日	54		仙洞		夜、別殿（小御所）に渡御。 男方、召さず				光格天皇実録	
文政7年 4月3日	54				新皇嘉門院の一周忌により 泉涌寺において法用法華三 昧を行う				光格天皇実録	
文政7年 4月18日	54				修学院離宮御茶屋礎立柱を 行う				光格天皇実録	
文政7年 4月24日	54	月次御会	内裏	組題20首（1～3字 題）仁孝：新樹、郭 公、夏月		冷泉前大納言	重能		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「新樹：かげなれし花はいつしか散はてゝ 若葉にしげる木々もえならず、郭公：子規はやながなん と待わびてぬるまをさへをしむ此比、夏月：うたゝね の枕涼くさず影に打おどろけは明るよの月」
文政7年 4月28日	54		内裏		禁裏に御幸				光格天皇実録	
文政7年 5月5日	54		内裏		禁裏に御幸				光格天皇実録	
文政7年 5月10日	54	聖廟御法衆 （去二月廿五日御延 引）	仙洞	組題50首（1～2字 題）光格：春草	雪消し日数もしるく春めさ てのなる草葉で春のわたれ る	左衛門督	為脩	為知	有栖川宮本	「小御所ニ於テ聖廟御法衆和歌ノ讀上アリ」（光格天皇実 録）
文政7年 5月13日	54		仙洞		夜、別殿（小御所）に渡御。 三位中將、隆起朝臣等を召 す				光格天皇実録	
文政7年 5月15日	54		内裏		禁裏に御幸				光格天皇実録	
文政7年 5月14日	54	当座御会	仙洞	組題20首（3字題） 光格：夏月涼	たとへける層もしらぬ風を さへ袖におほゆる月のすゝ しさ	為全朝臣	重能		有栖川宮本	
文政7年 5月24日	54	月次御会	内裏	五月郭公、池朝菖 蒲、山家送年		雅久朝臣	為脩		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「五月郭公：ほとゝぎすおのが時とや夜を かざね五月の空にこゑをしまぬ、池朝菖蒲：いとゝ猶 風にかをるはえなはずよ朝露ちらす池のあやめは、山家 送年：歳年かあらしのおとを聞なれて住しめにける山の 下いほ」
文政7年 5月30日	54	当座御会	内裏	組題30首（1～3字 題）光格：牡丹	見れば先笑をもよほすふか み草花に心のつる人として （院御製）	左衛門督	建房		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「夏月：水の面にすゝしく月の影すみてさ らに夏ともおもほえぬかな」
文政7年 6月5日	54		仙洞		壽山亭で椿秋を御覧				光格天皇実録	
文政7年 6月16日	54		仙洞		嘉祥の儀				光格天皇実録	

文政7年 6月17日	54	内裏	禁裏に御幸	左衛門督	雅久		光格天皇実録	仁孝天皇御製「夏朝：照しつる夜半の蛩は影消てあさ日すしき露の草むら、秋山：たちこめし霧吹晴て見渡せば秋風たかき大比えの山、冬鳥：ちりつかふ木葉とみえて地の面の波のあやなすをしのいくむれ」
文政7年 6月24日	54	内裏	組題100首（2～3字題）仁孝：夏朝、秋山、冬鳥	為全朝臣	重能	講師：雅久朝臣	国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「夏草：はえあれやざゆりなりてしこ色わきて草のまがきの露に咲かけ」
文政7年 6月25日	54	内裏	組題50首（2字題）仁孝：夏草				国会本内裏 有栖川宮本	
文政7年 5月25日	54	仙洞	夜、別殿（小御所）に渡御。高松三位、基造朝臣等を召す				光格天皇実録	
文政7年 6月25日	54	仙洞	組題50首（3～4字題）光格：水上螢	為則	為則	正房	有栖川宮本	
文政7年 6月29日	54	仙洞	六月祓・茅輪の事あり				光格天皇実録	
文政7年 7月4日	54	仙洞	九月中下旬に修学院山荘に御幸の旨を仰せ出す				光格天皇実録	
文政7年 7月7日	54	内裏	花さかぬことの葉ながら七種にぞふるたるむけどしはつけ南（院御製）	雅久朝臣	建房		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製、光格上皇御製の順に掲載。大宮御歌なし。仁孝天皇御製「棚殿もねがひのいとすゑ絶すかけしちざりや幾千々のあき」。女房達：大典侍、宰相典侍、督典侍、新大納言、権中納言、中將内侍、侍従内侍、命婦伊豫、命婦伯耆、命婦大御乳（巻末）
文政7年 7月14日	54	内裏	禁裏に御幸				光格天皇実録	
文政7年 7月24日	54	内裏	萩花、女郎花、尾花	民部卿	雅光		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「萩花：こむらさき草のまがきのしら露にほころぶ萩の花ぞえななぬ、女郎花：をみなへしあだなる花とみながらも色めく野へは過がてにする、尾花：秋さぬとはやほにいてまねくなり尾花が袖の露のたかせ」
文政7年 7月27日	54		修学院離宮御茶屋の上棟を行ふ				光格天皇実録	
文政7年 8月1日	54	仙洞	八朔の儀				光格天皇実録	
文政7年 8月10日	54	仙洞	夜、別殿（小御所）に渡御。武者小路三位、恭光等を召す				光格天皇実録	
文政7年 8月18日	54	仙洞	鎮守社・柿本社等に参拝				光格天皇実録	
文政7年 8月24日	54	内裏	組題100首（2～5字題）仁孝：月前風、浦月、月前鈴虫	為全朝臣	雅久		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「月前風：おぎの葉のそよぐ夕の秋風に軒ばくもらず月ぞさし入、浦月：塩竈の煙も空に立きてみるめさやけき月の浦浪、月前鈴虫：澄月の影をやあかす鈴虫のふり出て鳴声もさやけし」
文政7年 8月30日	54	仙洞	組題20首（3字題）光格：秋團月	飛鳥井三位	建房		有栖川宮本	「和歌当座御会ヲ行ハル、出御アラセラル」（光格天皇実録）
文政7年 後8月4日	54	内裏	禁裏に御幸				光格天皇実録	

年月日	年齢	御会名	場所	歌題	光格天皇御製および事項	題者	奉行	その他の諸役	出典	備考
文政7年 後8月10日	54		仙洞		夜、別殿(小御所)に渡御。 新源三位、重徳朝臣等を召す				光格天皇実録	
文政7年 後8月23日	54		内裏		禁裏に御幸				光格天皇実録	
文政7年 後8月24日	54	月次御会	内裏	雁、礎、契		左衛門督	建房		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「雁：花の春みやこの空をみほし月影の秋にほびくかりがね、礎：身をさへもふり行秋の小夜さねたうらみかさねて衣うつらむ、契：底ひなく猶ゆく未もいもせ川絶ぬながれを契りかはして」
文政7年 後8月27日	54		仙洞		小御所において管絃の御遊。等の御所作				光格天皇実録	
文政7年 後8月29日	54		仙洞		九月二十一日卯刻に修学院山荘に御幸の事、治定				光格天皇実録	
文政7年 9月9日	54	重陽御会	内裏	菊花宴久		民部卿	雅久		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「いくめぐりつきぬ重葉をちぎりつゝ千年もくまきくのさかづき」。女房達：大典侍、宰相典侍、督典侍、命婦伊禮、命婦伯耆、命婦大御乳(巻末)
文政7年 9月13日	54	当座御会	内裏	組題20首(2~4字 題)光格：月前紅葉	空にてる月の桂の下紅葉影より露も落ちて染らし(院御製)	左衛門督	重能		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「月前風：さらでしも雲はかゝらぬ月影を猶みがくとや秋風のふく」
文政7年 9月15日	54		内裏		禁裏に御幸				光格天皇実録	
文政7年 9月21日	54	修学院御幸御会	修学院	紅葉色添	染つくくこの山陰の千入にぞめでこし世々の秋もしらるゝ	為則	為則		有栖川宮本	「修学院離宮二御幸アラセラル、窮達軒二於テ和歌御会ヲ行ハル、又、当座御会アリ、次二管絃ノ御遊アリ、笛、笙、箏、琵琶ノ御所作アラセラル」(光格天皇実録)
文政7年 9月24日	54	於修学院御当座	修学院	水樹多佳趣	樹々のこけうつつる気色も岩つたふたぎのひゞきも溶る池水	上皇御題	為則		有栖川宮本	「修学院離宮二御幸アラセラル、窮達軒二於テ和歌御会ヲ行ハル、又、当座御会アリ、次二管絃ノ御遊アリ、笛、笙、箏、琵琶ノ御所作アラセラル」(光格天皇実録)
文政7年 9月24日	54	月次御会	内裏	組題100首(3~4 字題)仁孝：初紅葉、夕紅葉、名所紅葉		飛鳥井三位	為脩		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「初紅葉：村しぐれまだ下染のはつ紅葉これもえならぬ色こそそ見れ、夕紅葉：夕日影いまーしほとそめつらしいとゝ色ます庭の紅葉ゝ、名所紅葉：いく千入名にも立田の山ふかく麓をかけてぞめし紅葉ゝ」。
文政7年 9月28日	54		内裏		禁裏に御幸				光格天皇実録	
文政7年 10月4日	54		仙洞		玄猪の儀				光格天皇実録	
文政7年 10月5日	54		仙洞		夜、別殿(小御所)に渡御。 大原三位、基連朝臣等を召す				光格天皇実録	
文政7年 10月10日	54	当座御会	内裏	組題30首(2~3字 題)仁孝：海路		冷泉新三位	為脩		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「海路：おきつ風いたくなく吹そさらでしも渡りありあふき波の友舟」
文政7年 10月15日	54		仙洞		壽山亭で種稻を御覧				光格天皇実録	

文政7年 10月18日	54		内裏		禁裏に御幸					光格天皇実録	
文政7年 10月21日	54	当座御会	仙洞	組題20首（和歌の句）光格・雪ふりしきて	さらに又人こそとはね山ざれす とは雪ふりしきて道もわか	民部卿	為脩			有栖川宮本 録	「和歌当座御会ヲ行ハル、出御アラセラル」（光格天皇実録）
文政7年 10月22日	54		仙洞		小御所において簾絃の御遊。笛、琵琶の御所作					光格天皇実録	
文政7年 10月24日	54	月次御会	内裏	落葉交雨、殘菊猶句、海路浪通		民部卿	為全			国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「落葉交雨：たてぬきに木葉とくもにふりいで」錦こきみだる村しぐれかな、殘菊猶句：にははすばしられましましおくしもにもつつもれ残る庭の白きく、海路浪通：わたの原漕行す奈もしら浪をはるはるわたる沖のとも舟」
文政7年 11月18日	54		仙洞		夜、別殿（小御所）に渡御。左衛門督、為知等を召す					光格天皇実録	
文政7年 11月24日	54	月次御会	内裏	組題20首（2～4字題）仁孝：夕雪、浦辺雪、寄雪祝言		為全	為則			国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「夕雪：タぐれの道たどとし降つもるひかりぞしるべ野辺の白雪・浦辺雪：明石湯浦風さむみ見渡せばゆきにこぎ行海人の釣舟・寄雪祝言：九重に山つくりけるしら雪はげに豊年のしるし成らし」
文政7年 12月10日	54	当座御会	仙洞	組題30首（2字題）光格：夜衾	あつぶすま重ねわぶよに賤がやを思へば思へばこそ□らめ	左衛門督	雅久			有栖川宮本 録	「和歌当座御会ヲ行ハル、出御アラセラル」（光格天皇実録）
文政7年 12月15日	54	当座御会	内裏	組題30首（4字題）仁孝：歳暮述懐		民部卿	為脩			国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「歳暮述懐：まなぶ書もしらぶる故もそこはかとあらでぞ年の暮行はをし」
文政7年 12月17日	54		仙洞		夜、別殿（小御所）に渡御。新源三位、重徳朝臣を召す					光格天皇実録	
文政7年 12月21日	54		内裏		禁裏に御幸					光格天皇実録	
文政7年 12月23日	54		仙洞		御有卦明の御宴のため出御					光格天皇実録	
文政7年 12月24日	54	月次御会	内裏	梅告春近、名所放鷹、契行未恋		左衛門督	俊明			国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「梅告春近：春ちかくなりけにけらしな白雪の降つもる枝に匂ふ梅がく、名所放鷹：名に高き大原やまの冬されば絶ずそけふる暮のすみがま、契行未恋：諸共に行す奈たえすあだ浪はかけしと契る恋の中河」
文政8年 1月1日	55		仙洞		四方拜に出御、諸臣に闕す					光格天皇実録	
文政8年 1月3日	55		仙洞		吉書御覧のため出御					光格天皇実録	
文政8年 1月7日	55		仙洞		千秋万歳・白馬御覧のため出御					光格天皇実録	
文政8年 1月11日	55		内裏		禁裏に御幸					光格天皇実録	
文政8年 1月13日	55		仙洞		諸礼を行う。弘御所・小御所に出御					光格天皇実録	
文政8年 1月14日	55		仙洞		太元師法・後七日御修法結願のため西法阿闍梨参院。弘御所に出御し闕す					光格天皇実録	
文政8年 1月17日	55		仙洞		御吉書・三穂打のため小御所に出御					光格天皇実録	

年月日	年齢	御会名	場所	歌題	光格天皇御製および事項	題者	奉行	その他の諸役	出典	備考
文政8年 1月18日	55	和歌御会始	仙洞	鶯声和琴	春になるあづまのこのの鶯 種にみどりのとりもいらへ あふこゑ	飛鳥井三位	為脩	読師：皇太后宮権大 夫、講師：顕孝朝臣、 発声：冷泉新三位	有栖川宮本	大宮御歌なし。女房達：大すけ、新大納言、葛浦小路、 匂当内侍、小少将、小侍従、命婦伊よ、命婦はうき、紀 伊 (巻末)。「和歌御会始ヲ行ハル、出御アラセラル、御 製アリ」(光格天皇実録)
文政8年 1月27日	55		仙洞		夜、別殿(小御所)に渡御。 大蔵卿、保右朝臣を召す				光格天皇実録	
文政8年 1月28日	55	和歌御会始	内裏	春竹添色	此君とあふぐにつけて春毎 のめくぐみの色も千尋そへて よ(院御製)	為全	為則	読師：新源大納言、 講師：共福朝臣、発 声：持明院三位	国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製、光格上皇御製の順に掲載。大宮御歌なし。 仁孝天皇御製「千尋あるかけもひとしほ色そひてけ にはるるき庭のくれたけ」(巻頭)。女房達：大典侍、 宰相典侍、嵯峨侍、新大納言、匂当内侍、侍従内侍、命 婦伊予、命婦伯耆、命婦大御乳(巻末)
文政8年 2月4日	55	当座御会	内裏	組題30首(3～4字 題)：光格院：春草 漸滋	雪間のみ草のはつかと見し 色のはるの日毎に青みわた れり(院御製)	左兵衛督	為則	講師：顕孝朝臣	国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「嵯峨帯露：立ならぶ松のみどりの色そへ てたかね長閑に霞棚引」(巻頭)
文政8年 2月4日	55		内裏		禁裏に御幸				光格天皇実録	
文政8年 2月16日	55	当座御会	仙洞	組題30首(2～3字 題)：光格院：都早 春	うちひさす都よりまづ立そ めて千里の春をしく霞かな	左衛門督	俊明	隆光	有栖川宮本	「和歌当座御会ヲ行ハル、出御アラセラル」(光格天皇実 録)
文政8年 2月22日	55	水無瀬宮御 法楽	内裏	組題20首(3～4字 題)：仁孝：待花日暮		左兵衛督	建房	正房	国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「待花日暮：桜花はやさかなんとまたれ つ>霞日こそゑをながめくらしつ」
文政8年 2月22日	55	水無瀬宮御 法楽	仙洞	組題25首(3字題)： 光格院：子日松	いく千世と初ふにあかぬ初 子日手ことに野への小松曳 つ>	民部卿	為全	共福朝臣	有栖川宮本	「小御所二於テ水無瀬宮御法楽和歌ノ披露アリ」(光格天 皇実録)
文政8年 2月24日	55	月次御会	内裏	組題100首(3～4 字題)：仁孝：早春霞、 朝郭公、里落葉		民部卿	雅久		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「早春霞：山端の雪もさながら立てては るの色しる朝がすみかな、朝郭公：天の戸のあくるあし たにほととぎすまたれし夜半の声なのるらむ、里落葉： 冬ざれば時雨とともにふりそひてこの葉ぞふかき山陰の 里」
文政8年 2月25日	55	聖廟御法楽	内裏	組題50首(1～2字 題)：仁孝：早春		左兵衛督	為脩	講師：為知	国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「早春：神垣の霞とゝもにほころびてまづ 春みする梅の初花」
文政8年 2月25日	55	聖廟御法楽	仙洞	組題25首(3～4字 題)：光格：社頭立春	かけたかき松の一夜に立か へる春をみどりの霞む神が き	左衛門督	俊明	講師：顕孝朝臣	有栖川宮本	「小御所二於テ聖廟御法楽和歌ノ披露アリ」(光格天皇実 録)
文政8年 3月7日	55		内裏		禁裏に御幸				光格天皇実録	
文政8年 3月8日	55	当座御会	内裏	組題20首(1～2字 題)：光格：桃	陰とへといはでも花の紅に ゆき>そしげき桃の下みち ゆ(院御製)	飛鳥井中納言	建房		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「春月：えならずよ尾上の花の雲間よりか すみて匂ふ春のよの月」(巻頭)
文政8年 3月8日	55		仙洞		夜、別殿(小御所)に渡御。 大蔵卿、隆起朝臣等を召す				光格天皇実録	
文政8年 3月18日	55	神影供	仙洞	風静花芳	かまりつ>歎ことしらぬ花 とのみいふばかりにもかす むはる風	左兵衛督	俊明	読師：按察大納言、 講師：光澤、発声： 左兵衛督	有栖川宮本	「栞本社神影供ヲ行ハル、出御アラセラル」(光格天皇実 録)
文政8年 3月23日	55		内裏		禁裏に御幸				光格天皇実録	

文政8年 3月24日	55	月次御会	内裏	藤園江、秋冬盛、奇 藤恋		左兵衛督	重能		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「藤園江：幾しほもゆふくれなみの色そひぬ岡辺のつゝし照す日影に、秋冬盛：さとの子も心やそめものいはぬ色にさかりの井での山吹、奇藤恋：思ふその契りにかゝれ藤かつらふかむらさきの色をゆかりと」
文政8年 4月22日	55		仙洞		夜、別殿（小御所）に渡御。 男女を召さず				光格天皇実録	
文政8年 4月24日	55	月次御会	内裏	組題100首（2～5 字題）仁孝：岸卯花、 夕待郭公、夏笛		左兵衛督	俊明		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「岸卯花：しづがさらす布ともみえて玉河や岸ねつゝきに咲く卯花、夕待郭公：夕月のほめく影をみても嬌鳴ねまたるゝ山ほとゝぎす、夏笛：あげまきがよふさびか草深き夏のゝ原の笛竹の声」
文政8年 5月13日	55		仙洞		壽山亭で挿秧を御覧				光格天皇実録	
文政8年 5月24日	55	月次御会	内裏	郭公、椿花、眺望		飛鳥井中納言	俊明		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「郭公：時きぬとしのたの社の椿より千枝にふり出て鳴ほとゝぎす、椿花：なつかしき藤のゆかりの色みせて咲やあふらの花もえならず、眺望：さみだれのはるゝ夕辺に見渡せば高ねすゝしく入日さすかじ」
文政8年 6月5日	55		仙洞		夜、別殿（小御所）に渡御。 男女を召さず				光格天皇実録	
文政8年 6月10日	55	当座御会	内裏	組題20首（2字題） 仁孝：夏雨		左衛門督	雅光		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「夏雨：水無月のたへぬあつさも降ほどははらひてすゝし風のむら雨」
文政8年 6月16日	55		仙洞		嘉祥の儀あり				光格天皇実録	
文政8年 6月24日	55	月次御会	内裏	組題10首（1～2字 題）仁孝：地鏡、鳥、 神祇		飛鳥井中納言	為全		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「地鏡：月に鏡みがくすがたの涼しきはなつの外なる雪のふじのね、鳥：こゝかしこ魚のよる瀬か河氷にみの毛もぬれてあさる日さき、神祇：天てらす神のめくみに幾よゝもわがあし原の国はうごかし」
文政8年 6月25日	55	聖廟御法楽	内裏	組題50首（1字題） 仁孝：鷹		勅題（仁孝天 皇）	建房	講師：正房	国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「鷹：夏はたゝならす鷹よあつさもよそに吹やる風のすゝしさ」
文政8年 6月25日	55	聖廟御法楽	仙洞	組題50首（1～2字 題）光格：夏浦	浦風のいそへの松の陰すゝ しくるれば月の夜しほさし きて	勅題（光格上 皇）	重能	講師：光輝	国会本内裏 有栖川宮本	「小御所二於テ聖廟御法楽和歌ノ披露アリ」（光格天皇実録）
文政8年 6月29日	55		仙洞		六月祓・茅輪のため出御				光格天皇実録	
文政8年 7月7日	55	七夕御会	内裏	七夕鳥	天河ほしの舟出もいそぐと やこゑをほにあけてかりの きつらむ（院御製）	飛鳥井中納言	俊明		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製（巻頭）、光格上皇御製の順に掲載。仁孝天皇御製「鳥のねもこのあかつきは心せよとしにひと夜のほしあひのそら」。女房達：大典侍、幸相典侍、脩典侍、新大納言、勾当内侍、侍従内侍、命婦伊豫、命婦白雪、命婦大御乳（巻末）
文政8年 7月14日	55		内裏		禁裏に御幸				光格天皇実録	
文政8年 7月18日	55		仙洞		夜、別殿（小御所）に渡御。 武者小路三位、隆起朝臣等 を召す				光格天皇実録	
文政8年 7月24日	55	月次御会	内裏	秋植物、秋動物、恋 雑物		雅久	雅光		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「秋植物：庭の面に花の千種をうまてこそ野もせの秋の錦をもみれ、秋動物：初秋もおののかひはよやさむきまだきに来なく衣かりがね、恋雑物：思ひをばなみだともにかきこめてけさやる事は哀とも思ふよ」

年月日	年齢	御会名	場所	歌題	光格天皇御製および事項	題者	奉行	その他の諸役	出典	備考
文政8年 8月1日	55		仙洞		八朔の儀あり				光格天皇実録	
文政8年 8月5日	55		内裏		絳裏に御幸				光格天皇実録	
文政8年 8月10日	55		仙洞		御有卦入により賜堂あり。 出御				光格天皇実録	
文政8年 8月16日	55	当座御会	内裏	組題30首 (3~4字 字題) 仁孝：肇月照 松、寄雁恋、秋浦	月になる臥猪の床は白砂に つゆかゝやくを何とわづら ん (院御製)	民部卿	雅久		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「月前鹿：つまごひのよるのおもひもいか ならん晴わたる月にをじか鳴声」
文政8年 8月21日	55		仙洞		前関白一條忠良への古今伝 受のため、石見国高角山眞 福寺に九月十五日より十七 日間、祈禱を仰せつく				光格天皇実録	
文政8年 8月23日	55		仙洞		女御藤原禰子の入内によ り、絳裏、大宮、女御尊と 御祝儀の贈答あり				光格天皇実録	
文政8年 8月24日	55	月次御会	内裏	組題100首 (2~4 字題) 仁孝：肇月照 松、寄雁恋、秋浦		左衛門督	雅久		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「肇月照松：影はれて照せる月の峯高みた ちならふ松の数もみるべく、寄雁恋：物思ふわがたくひ かも秋風になきてそきてつる衣かりがね、秋浦：もしはや く海人のいそやはいぶせきに猶立まよふ浦の秋ざり」
文政8年 8月26日	55		内裏		絳裏に御幸				光格天皇実録	
文政8年 8月28日	55		仙洞		御有卦入の御賀により、 内々、仕舞禰子能を御覽				光格天皇実録	
文政8年 9月1日	55		仙洞		夜、別殿 (小御所) に渡御。 總小路三位、基遠朝臣等を 召す				光格天皇実録	
文政8年 9月5日	55		仙洞		前関白一條忠良への古今伝 受のため、住吉・玉津島の 両社および明石月照寺に九 月十三日より十七日間、祈 禱を仰せつく				光格天皇実録	
文政8年 9月7日	55		仙洞		前関白一條忠良への古今伝 受のため、伊勢神宮・多賀 社に九月十三日より祈禱を 仰せつく				光格天皇実録	
文政8年 9月9日	55	重陽御会	内裏	菊有長生種		左兵衛督	重能		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「秋ことにつきぬこと草の種なればさかり もいく世白ぎくのはな」。女房達：宰相典侍、勾当内侍、 侍從内侍、命婦伊豫、命婦大御乳 (卷末)
文政8年 9月10日	55		仙洞		前関白一條忠良への古今伝 受のため、下御霊・上御 霊・下鴨・上賀茂・八幡の 五社および南都大宮社・若 宮社に、九月十三日より十 七日間、祈禱を仰せつく				光格天皇実録	



文政8年 9月13日	55	仙洞			前関白一條忠良への古今伝受のため、松尾・稲荷・平野・北野の四社に、九月十五日より十七日間、折禱を仰せつく					光格天皇実録	
文政8年 9月21日	55	仙洞			前関白一條忠良へ古今伝受を相伝					光格天皇実録 宮内庁書陵部「古今和歌集伝授」(210-694)	
文政8年 9月23日	55	仙洞			小御所において管絃の御遊あり。出御。等の御所作					光格天皇実録	
文政8年 9月24日	55	内裏	月契多秋、紅葉下菊、名所浦鶴			飛鳥井中納言	雅久			国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「月契多秋：名におふもげに長月のひかりそとちぎり尽せぬいく千世の秋。紅葉下菊：えならすよ秋のにしきの色々はもみちのかげに匂ふむらさく、名所浦鶴：幾千とせさかえむみちをまなづるもゆたかにあそぶ和歌のうら波」
文政8年 9月24日	55	内裏			禁裏に御幸					光格天皇実録	
文政8年 10月2日	55	仙洞			後桜町天皇の十三回忌を引き上げ、小御所において御法会を行う					光格天皇実録	
文政8年 10月3日	55	仙洞			後桜町天皇の十三回忌を引き上げ、小御所において御法会を行う。御節法講当日により出御。等の御所作					光格天皇実録	
文政8年 10月10日	55	仙洞			玄猪の儀					光格天皇実録	
文政8年 10月13日	55	仙洞			夜、別殿（小御所）に渡御。武者小路三位、隆起朝臣等を召す					光格天皇実録	
文政8年 10月15日	55	仙洞			壽山亭で櫻稻を御覧					光格天皇実録	
文政8年 10月18日	55	仙洞	松霜、浦浪		松霜：霜に菊言葉のさかえあらはれて冬枯しらぬ松の陰かな、浦浪：かきあつむもくずも玉のかひあれば光をよする和歌のうら浪	民部卿	為全		読師：権大納言、講師：隆光	有栖川宮本	「和歌当座御会ヲ行ハル。出御アラセラシ、御覧アリ」(光格天皇実録)
文政8年 10月19日	55	仙洞			御幸供奉召具衣体人数等を定む					光格天皇実録	
文政8年 10月20日	55	仙洞			小御所において管絃の御遊あり。出御。等の御所作					光格天皇実録	
文政8年 10月23日	55	修学院	組題6首（2字題） 光格：冬山、冬田		冬山：散紅葉落るこのは冬かつひろひかつ分のほる冬の山みち、冬田：かり衣思ひたゝすは朝まだき冬田の面の類は見ましや	為則	為則			有栖川宮本	「修学院離宮ニ御幸アラセラシ、先ツ壽月觀ニ渡御、次ニ窮還駐ニ於テ和歌当座御会ヲ行ハル。尋イテ壽月觀ニ還御、管絃ノ御遊アリ、朝殿、笛、琵琶ノ御所作アララル」(光格天皇実録)

年月日	年齢	御会名	場所	歌題	光格天皇御製および事項	題者	奉行	その他の諸役	出典	備考
文政8年 10月23日	55	於修学院御 当座	修学 院	十月昇紅葉(各冒頭 に「かみなつぎのち のみかひえちかきや まにのこすもみちを もてあそぶ」の一字 つつを置く) 光格: み 十月昇紅葉	みねつゞき比えのわかけて 冬枯はしらぬ山とも見ゆる 紅葉s	為則	為則		有栖川宮本	「修学院離宮二御幸アラセラル、先リ壽月觀二渡御、次 二窮遠軒二於テ和歌当座御会ヲ行ハル、尋イテ壽月觀二 還御、管絃ノ御遊アリ、羯鼓、笛、琵琶ノ御所作アラセ ラル」(光格天皇実録)
文政8年 10月24日	55	月次御会	内裏	組題100首(2~4 字題) 仁孝: 朝霜、 雪中残雁、庭早梅		為全	為則		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「朝霜: 芳々し有明のかねに此朝け思ひあ はする霜の白妙、雪中残雁: 降雪に道たどとし犬つ雁 月にさなかなばまどはしものを、庭早梅: 驚もさそはれつ べし梅が>の春まつ庭にまださき匂ひて」
文政8年 10月27日	55		内裏		禁裏に御幸				光格天皇実録	
文政8年 11月24日	55	月次御会	内裏	朝雪、水鳥、祝言		勅題(仁孝天 皇)	為全		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「朝雪: 松竹もきゝもまがきもうつづもれて たゝしらす雪の朝戸出の庭、水鳥: 池水のこぼりのとこに よもすがらうきねわびてやをしの鳴らむ、祝言: 武夫の やしまの波も動きなく風ゆたかなる声原のくに」
文政8年 11月27日	55		仙洞		夜、別殿(小御所)に渡御。				光格天皇実録	
文政8年 11月28日	55		内裏		源三位、基逸朝臣等を召す 禁裏に御幸				光格天皇実録	
文政8年 12月11日	55		内裏		禁裏に御幸				光格天皇実録	
文政8年 12月17日	55	和歌当座御 会	内裏	組題20首(3~4字 題) 仁孝: 庭雪積		左兵衛督	為全		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「庭雪積: 庭の面は雪より外の色もなしむ べ九重に降つもりつ>」
文政8年 12月24日	55	月次御会	内裏	組題100首(2~5 字題) 仁孝: 晴天千 鳥、契久恋、和琴		左兵衛督	為全		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「晴天千鳥: 友千どりともよぶ声も寒けし な霜夜の月の有明の空、契久恋: 契りてしそのかねごと もいたづらにむなしく過る中ぞひさしき、和琴: たぐひ なきあづまのことのしらべこそ神代の風を吹つたへけ れ」
文政8年 12月28日	55		仙洞		夜、別殿(小御所)に渡御。 東久世三位、保右朝臣等を 召す				光格天皇実録	
文政9年 1月1日	56		仙洞		四方拝を行う。出御なし				光格天皇実録	
文政9年 1月2日	56		仙洞		拝礼あり。諸臣に謁す				光格天皇実録	
文政9年 1月3日	56		仙洞		吉書御覧のため出御。小御 所において親王以下諸臣に 謁す				光格天皇実録	
文政9年 1月7日	56		仙洞		千秋万歳・白馬御覧のため 出御				光格天皇実録	
文政9年 1月13日	56		仙洞		諸礼を行う				光格天皇実録	

文政9年 1月14日	56	仙洞		太元帥法結願・後七日御修法のため両法阿闍梨参院。 随す				光格天皇実録	
文政9年 1月17日	56	仙洞		御吉書・三穂打のため小御所に出席				光格天皇実録	
文政9年 1月18日	56	仙洞	霞中春風	式ま姫のこゝろの花もにほふらむかすみのそでにあま るはるかせ	飛鳥井中納言	俊明	読師：新源大納言、 講師：為和、発声： 持明院三位	有栖川宮本	中宮御歌なし。女房達：大すけ、新大納言、新中納言、 菫小路、勾当内侍、小少将、小侍従、命婦伊世、紀伊 (巻末)。「和歌御会始ヲ行ハル、出御アラセラシ、御製 アリ」(光格天皇実録)
文政9年 1月24日	56	内裏	春天象	天の原和らぐひかり世にみ ちてやぶしわかぬや日本の 春(院御製)	飛鳥井中納言	雅久	読師：皇太后宮大 夫、講師：顕孝朝臣、 発声：飛鳥井中納言	国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製、光格上皇御製の順に掲載。大宮御歌な し。仁孝天皇御製「花鳥のいちねをこめて春の日のひか りのどかにかすむぞらかな」(巻頭)。女房達：大典侍、 宰相典侍、督典侍、新大納言、権中納言、勾当内侍、侍 従内侍、命婦伊世、命婦大乳(巻末)
文政9年 1月27日	56	内裏	組題30首(1～2字 題) 光格：竹	たげ川やすむてふ鳥の方代 も千尋にちぎる此君のかげ (院御製)	飛鳥井中納言	為脩	読師：隆光	国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「立春：山鳥の尾上のどかにかすみつゝけ さしも春は立かへるらん」(巻頭)
文政9年 2月10日	56	仙洞		夜、別殿(呉服所)に渡御。 源三位、保右朝臣等を召す 禁裏に御幸始				光格天皇実録	
文政9年 2月13日	56	内裏						光格天皇実録	
文政9年 2月22日	56	内裏	組題20首(2～4字 題) 仁孝：早春處々		左兵衛督	俊明	読師：共福朝臣	国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「春草處々：雪消の春を見せけりむらむら にこのもかのもの草のみどりは」
文政9年 2月22日	56	仙洞	組題20首(3字題) 光格：月前桜	一時も□(虫擲)ゑぞをし き花の色のさくらにかすむ 春の月影	飛鳥井中納言	建房	読師：顕孝朝臣	国会本内裏 有栖川宮本	
文政9年 2月23日	56	仙洞	組題30首(3～4字 題) 光格：霞岡山櫛	峯ふもと松もひばらもさほ 姫のかすみの衣かけ78日ぞ なき	左兵衛督	光成	光暉	有栖川宮本	「和歌当座御会始ヲ行ハル、出御アラセラル」(光格天皇 実録)
文政9年 2月24日	56	内裏	組題100首(2～4 字題) 仁孝：山早春、 田家鹿、増窓		民部卿	為脩		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「山早春：うちはへてのどけき風の習羽山 吹よりなびく春霞かな、田家鹿：秋田もる腰が夜寒の友 ならんかり庵かくをじか鳴こゑ、増窓：つれなしと思 ひすてゝも中々にまさるや何のまよひ成らん」
文政9年 2月25日	56	内裏	組題5首(3字題) 仁孝：花間月		飛鳥井中納言	重能	講師：光暉	国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「花間月：神もさぞあかずややむ木間も る月にかすめる花の盛を」
文政9年 2月25日	56	仙洞	組題50首(2～3字 題) 光格：漸待花	雪消てこのめ春風吹なべに 花の下細はやもとげなむ	左兵衛督	光成	為知	有栖川宮本	「小御所ニ於テ聖廟御法楽和歌ノ披露アリ」(光格天皇実 録)
文政9年 3月18日	56	仙洞	高津山霞	ひれふるややすみの袖も高 角のやまかけたかきいはみ 野のはる	飛鳥井中納言	光成	読師：源大納言、講 師：正房、発声：源 三位	有栖川宮本	「神本社神影供ヲ行ハル、出御アラセラル」(光格天皇実 録)
文政9年 3月23日	56	修学院	組題50首(2字題) 光格：苗代	見つゝ行野田に山田にひく 水はしつがなほはらうたねま かすらし	雅光	雅光		有栖川宮本	「修学院離宮ニ御幸アラセラレ、霧遠軒ニ於テ当座和歌 御会ヲ行ハル、畠イデ番月観ニ於テ簾絳ノ御遊アリ、琵琶 恵、笛ノ御所作アラセラレ、又、林丘寺ニ御幸アラセラ ル」(光格天皇実録)
文政9年 3月23日	56	修学院御 当座 後座	組題7首(4字題) 光格：春山成興	春たかき山ふとこころに咲花 をわけ入てみし今日にもあ るかな	雅光	雅光		有栖川宮本	「修学院離宮ニ御幸アラセラレ、霧遠軒ニ於テ当座和歌 御会ヲ行ハル、畠イデ番月観ニ於テ簾絳ノ御遊アリ、琵琶 恵、笛ノ御所作アラセラレ、又、林丘寺ニ御幸アラセラ ル」(光格天皇実録)

年月日	年齢	御会名	場所	歌題	光格天皇御製および事項	題者	奉行	その他の諸役	出典	備考
文政9年 3月24日	56	月次御会	内裏	春曙花、苗代蛙、鶺鴒 旅野		雅久	雅久		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「春曙花：横雲のかすむにほひにえならず もたかねの花の小らむ明ほの、苗代蛙：けふしもや水ま かせつる苗代に小田のかはつ所のえでなく、鶺鴒旅野：の るこまの声ものどかにはるばると鶺鴒をわくる武蔵野>は ら」
文政9年 3月24日	55		仙洞		夜、別殿（呉服所）に渡御。 刑部卿、永鳳等を召す				光格天皇実録	
文政9年 3月26日	55		内裏		禁裏に御幸				光格天皇実録	
文政9年 4月24日	56	月次御会	内裏	組題20首（1～2字 題）仁孝：若竹、橋、 夏月		雅光	雅光		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「若竹：ことし生のかげ涼しくも浅みどり 小枝にむすぶ露のわが竹、橋：今年より千世の五月も句 はなむしるし南の庭の立花、夏月：かさゝぎのわたせる 橋の白妙に影みるほど夏も夏のよの月」
文政9年 4月30日	56	当座御会	内裏	組題20首（2字題） 仁孝：朝霞		左衛門督	重能		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「朝霞：山端の明るあしたの浅みどりはる しる色に霞そめつゝ>」
文政9年 5月7日	56		内裏		禁裏に御幸				光格天皇実録	
文政9年 5月8日	56		仙洞		夜、別殿（呉服所）に渡御。 源三位、恭光等を召す				光格天皇実録	
文政9年 5月14日	56		仙洞		柿本社外遷座を行う				光格天皇実録	
文政9年 5月17日	56	当座御会	内裏	組題30首（3～4字 題）仁孝：名所旅		民部卿	雅久		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「名所旅：うつ山の越るやうつゝ故郷を夢 にも思ふつたの細道」
文政9年 5月24日	56	月次御会	内裏	山郭公、浦郭公、里 郭公		左兵衛督	為全		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「山郭公：尋ねこしがひありけりなあし曳 の山ほとゝぎす鳴わたるこゑ、浦郭公：すま明石浦づた ふ声はすゝしさの月にあぐられしほとゝぎすかも、里郭 公：時きぬと遠こちわかず里なれてなくや五月の山ほ とゝぎす」
文政9年 5月24日	56		仙洞		壽山亭で揮快を御覽				光格天皇実録	
文政9年 6月15日	56	当座御会	内裏	組題20首（3～4字 題）仁孝：朝納涼		左兵衛督	建房		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「朝納涼：朝まだき衣手すゝし軒ばより風 も吹わたる庭のやり水」
文政9年 6月16日	56		仙洞		嘉祥の儀あり。出御				光格天皇実録	
文政9年 6月19日	56		仙洞		この日の夜、柿本社正遷宮 を行う				光格天皇実録	
文政9年 6月21日	56		仙洞		夜、別殿（呉服所）に渡御。 今出川中納言、久雄朝臣等 を召す				光格天皇実録	
文政9年 6月24日	56	月次御会	内裏	組題33首（かな題） 仁孝：しなでし こ、ちおち葉、か あかつき		飛鳥井中納言	雅久		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「しなでしこ：白露の露てーしほ色ぞそ ふやまとなでしこ花の錦も、ちおち葉：ちり敷て唐紅 のからにしき庭は木葉に冬もやつさず、かあかつき： かねの音鳥の声より曉をしるくもみする明星のかげ」
文政9年 6月25日	56	聖廟御法楽	内裏	組題50首（3～4字 題）仁孝：瀟湘堂		民部卿	重能	講師：眞孝朝臣	国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「瀟湘堂：涼しくも葉のぼる露とみえてけ りあしの茂みにするはるはたるは」

光格上皇主催御会和歌年表 ― 文政期編

文政9年 6月25日	56	聖廟御法楽	仙詞	組題25首 (3～4字 題) 光格・社頭納涼 りけり	神がきのぬふくかぜはこと ざらにしらぶる声も涼しか	為則	為則	講師：隆光	有栖川宮本	
文政9年 6月30日	56		仙詞		六月祓・茅輪のため出御				光格天皇実録	仁孝天皇御製、光格上皇御製の順に掲載。大宮御歌なし。仁孝天皇御製「ほしやそこゝろ涼しき今夜ぞとのおもひもはれし天のうき雲」(巻頭)。女房達：大典侍、権中・相典侍、督典侍、按察使典侍、権典侍、新入納言、権中・納言、勾当内侍、侍従内侍、命婦伊豫、命婦大御乳 (巻末)
文政9年 7月7日	56	七夕御会	内裏	七夕述懐	あだならぬちぎりはかくといはれおそらにかためし星のいもせか (院御製)	民部卿	為全		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「蘭：紫の色なつかしみほころびて露さへにはふ藤袴かな、蛭：やゝさむき草葉の床の露わびて枕とひよるきりぎりすかも、恨：よにもうきえにし成らんあま衣うらみばかりにしほたるゝとは」
文政9年 7月14日	56		内裏		禁裏に御幸				光格天皇実録	
文政9年 7月24日	56	月次御会	内裏	蘭、蚕、俣		左兵衛督	建房		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「蘭：紫の色なつかしみほころびて露さへにはふ藤袴かな、蛭：やゝさむき草葉の床の露わびて枕とひよるきりぎりすかも、恨：よにもうきえにし成らんあま衣うらみばかりにしほたるゝとは」
文政9年 8月1日	56		仙詞		八朔の催あり				光格天皇実録	
文政9年 8月2日	56		仙詞		夜、別殿 (呉服所) に渡御。 左衛門督、水尾等を召す				光格天皇実録	
文政9年 8月7日	56		仙詞		仁孝天皇の皇女成宮の葬去 により三日間、物言を停む				光格天皇実録	
文政9年 8月16日	56	当座御会	内裏	組題20首 (3字題) 仁孝：月下薄		飛鳥井中納言	為則		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「月下薄：いさよひの月にみがきて花すゝきいとゝ白妙の袖を露けき」
文政9年 8月24日	56	月次御会	内裏	組題20首 (4字題) 仁孝：名所原月、名所瀬月、名所濱月		左兵衛督	為脩		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「名所原月：秋風の吹はらふまゝに波晴てさやけき月の浮嶋がはら、名所瀬月：亀の尾のたきのしら玉夜とゝもにちよの敷をもみがく月かけ、名所濱月：心なき海人の小ぶねもおのづから打出の濱の月のさやけさ」
文政9年 9月9日	56	重陽御会	内裏	庭繡菊		左衛門督	雅光		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「色に香に庭のまがきをよそほひてけふなが月とにほふきくかな。光格上皇御製・中宮御歌、なし。女房達：大典侍、督典侍、権典侍、勾当内侍、侍従内侍、命婦伊豫、命婦大御乳 (巻末)
文政9年 9月14日	56		仙詞		夜、別殿 (呉服所) に渡御。 刑部卿、重徳朝臣等を召す				光格天皇実録	
文政9年 9月21日	56		内裏		禁裏に御幸				光格天皇実録	
文政9年 9月24日	56	当座御会	内裏	組題30首 (3～4字 題) 仁孝：庭上菊		左衛門督	雅光		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「庭上菊：庭の面やこゝもかしこもつろはずむへ長月の花のむら菊」
文政9年 9月24日	56	月次御会	内裏	紅葉有浅深、対月惜 秋、瀧音幽		為則	為則		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「紅葉有浅深：露しぐれそれめはつくさぬほどみえて濃きもこきもまじる紅葉ゝ、対月惜秋：菊紅葉はふりつゝゝながけ月も暮行かけに名残つきせぬ、瀧音幽：山ふかみおつる岩ねを尋ねまし言がすかにむひゝく瀧波」
文政9年 9月24日	56		仙詞		前関白一條忠良へ一事伝受のため、二十五日晩より二十六日午半刻まで御神事を仰せ出す				光格天皇実録	

年月日	年齢	御会名	場所	歌題	光格天皇御製および事項	題者	奉行	その他の諸役	出典	備考
文政9年 9月26日	56		仙洞		前関白一條忠良へ和歌灌頂 以後の伝受（一事伝受）を 相伝				光格天皇実録	
文政9年 9月28日	56	当座御会	仙洞	組題30首（1～2字 題）光格：田家	八束穂にあまるみのりの稲 むしろしづが門田に敷はへ て見ゆ	飛鳥井中納言	建房		有栖川宮本	「和歌当座御会ヲ行ハル、出御アラセラル」（光格天皇実録）
文政9年 10月4日	56		仙洞		小御所において聖徳太子像 を御覧				光格天皇実録	
文政9年 10月5日	56	内裏			禁裏に御幸				光格天皇実録	
文政9年 10月6日	56		仙洞		前左大臣二条治孝、親去。 この日より三日間、物言を 停む				光格天皇実録	
文政9年 10月18日	56	於修学院御 当座	修学院	組題30首（3～4字 題）光格：置紅葉	なもしらぬ木草をしなへ染 つくす野山の紅葉みれどあ かぬ也	為全	為全		有栖川宮本	「修学院離宮二御幸アラセラル、先ツ壽月觀ニ於テ和歌 当座御会ヲ行ハル、尋イテ胸雲亭二渡御、又御庭、赤山 庭ノ御所作アラセラル」（光格天皇実録）
文政9年 10月18日	56	於修学院御 当座 後座	修学院	組題6首（3字題） 光格：冬居所	わがをれば雲を隙の山ほど も冬さびすして袖つたふ也	為全	為全		有栖川宮本	「修学院離宮二御幸アラセラル、先ツ壽月觀ニ於テ和歌 当座御会ヲ行ハル、尋イテ胸雲亭二渡御、又御庭、赤山 庭ノ御所作アラセラル」（光格天皇実録）
文政9年 10月24日	56	月次御会	内裏	組題100首（1～4 字題）仁孝：鶺鴒、寒 松、寄衣恋		左衛門督	重能		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「鶺鴒：うら枯の尾花の床のあけ行をわびて やつら夜たゞ鳴声、寒松：霜雪のむすほはる夜に言た てゝたゞくも寒し庭の松かせ、寄衣恋：夢だにとかへす もあやな小夜衣うらみのみなるつらさかざねて」
文政9年 10月26日	56		内裏		猿蓑御覧のため禁裏に御幸				光格天皇実録	
文政9年 10月27日	56		仙洞		玄曜の儀				光格天皇実録	
文政9年 10月28日	56		仙洞		夜、別殿（呉服所）に渡御。 男女ともに召さず				光格天皇実録	
文政9年 11月4日	56		仙洞		壽山亭で猿蓑を御覧				光格天皇実録	
文政9年 11月7日	56		内裏		禁裏に御幸				光格天皇実録	
文政9年 11月20日	56		仙洞		仁孝天皇に伊勢物語伝受を 相伝するため、十一月二十 五日より十七日間、住吉・ 五津島神社および明石月照 寺に御祈禱を仰せつく				光格天皇実録	
文政9年 11月24日	56	月次御会	内裏	名所山雪、名所野 雪、名所浦雪		飛鳥井中納言	雅久		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「名所山雪：朝ゆふにむかふ大比喩の山の はも施かげたかく雪ぞ降つむ、名所野雪：しながどり猪 名野さゝ原そよいまはおとせぬ雪のつもるしづげさ、名 所浦雪：沖つ風ふきさそひきてなみひろく雪になるみの 浦の明ほの」

文政9年 11月25日	56	仙洞				仁孝天皇に伊勢物語伝受を 相伝するため、十二月一日 より十七日間、伊勢神宮に 御祈禱を仰せつく					光格天皇実録	
文政9年 11月29日	56	仙洞				仁孝天皇に伊勢物語伝受を 相伝するため、十二月一日 より七日間、上御霊・下御 霊・北野社および賀茂太田 社に御祈禱を仰せつく					光格天皇実録	
文政9年 12月5日	56	内裏				禁裏に御幸					光格天皇実録	
文政9年 12月10日	56	仙洞				夜、別殿（呉服所）に渡御。 新源三位、為知等を召す					光格天皇実録	
文政9年 12月11日	56	内裏				禁裏に御幸し、仁孝天皇に 伊勢物語伝受を相伝					光格天皇実録	
文政9年 12月21日	56	内裏	当座御会			ちりうせず采ゆるかげはい やつぎに満守の浦の松の言 の葉（院御製）	民部卿	為脩	講師：隆光	国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「梅始開：春はいまだ朝霜むすぶ庭の面にはやくも咲る梅のはつ花」（巻頭）	
文政9年 12月25日	56	仙洞	当座御会			いまよりは毎朝毎朝にぎゝ なれむ春告そめし窓の鶯	民部卿	雅久		有栖川宮本	「皇日、和歌当座御会ヲ行ハル、出御アラセラル」（光格天皇実録）	
文政9年 12月25日	56	仙洞				御覽上を行う				光格天皇実録		
文政9年 12月24日	56	内裏	月次御会			組題100首（2～4 字題）仁孝：庭冬月、 歳暮梅、冬鶴	左兵衛督	俊明		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「庭冬月：鏡水のながれも氷る庭の面のま さこの月の影ぞ寒けき 歳暮梅：しら雪のつもれる年も わかゝへる春待あへず匂ふ梅がえ、冬鶴：降つもるみさ りの雪に立まがふつばさくもらぬ鶴の毛衣」	
文政10年 1月1日	57	仙洞				四方拜のために出御。常御 所に出御し諸臣に謁す				光格天皇実録		
文政10年 1月2日	57	仙洞				拜礼あり				光格天皇実録		
文政10年 1月3日	57	仙洞				吉書御覧のため出御。ま た、拜礼あり				光格天皇実録		
文政10年 1月4日	57	内裏				禁裏に御幸始				光格天皇実録		
文政10年 1月5日	57	仙洞				拜礼あり				光格天皇実録		
文政10年 1月7日	57	仙洞				千秋万歳・白鳥御覧のため 出御				光格天皇実録		
文政10年 1月10日	57	仙洞				夜、別殿（小御所）に渡御。 六角前宰相、為知等を召す				光格天皇実録		
文政10年 1月13日	57	仙洞				諸礼を行う				光格天皇実録		
文政10年 1月14日	57	仙洞				太元帥法結願・後七日御修 法のため両法阿闍梨、参院				光格天皇実録		
文政10年 1月15日	57	仙洞				御吉書・三鈹打のため小御 所に出御				光格天皇実録		

年月日	年齢	御会名	場所	歌題	光格天皇御製および事項	題者	奉行	その他の諸役	出典	備考
文政10年 1月18日	57	御会始	仙洞	雪透霞	山姫ややなぎのきぬの機も のを着つるはゆきの霞む透 かけ	民部卿	雅久	読師：民部卿、講 師：正房、発声：雅 久	有栖川宮本	大宮御歌なし。女房連：大典侍、新大納言、権中納言、 葛満小路、勾当内侍、小少将、小侍従、命婦伊世、命婦 伯耆、紀伊（巻末）。「和歌御会始ヲ行ハル、出御アラセ ラル、御製アリ」（光格天皇実録）
文政10年 1月28日	57	和歌御会始	内裏	毎日有春色	毎朝毎朝きのふはあさき春 の色とかすみともどもに立ま ざりつゝ（院御製）	左兵衛督	為脩	読師：皇太后宮権大 夫、講師：共福朝臣、 発声：左衛門督	国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製。光格上皇御製の準に掲載。仁孝天皇御製 「朝日影かすみひよりいく日へて四方にあまねきはる のやかな」（巻頭）。大宮御歌なし。女御・女房連：女御、 大すけ、宰相のすけ、督のすけ、あざちの典侍、権すけ、 しむ大納言、侍従のないし、命婦いよ、命婦はつぎ、命 婦大御乳、やまと（巻末）
文政10年 2月13日	57	当座御会	内裏	組題30首（4字題） 光格：花満山河	峯の雲も麓の河の波かけて つゞくよしのゝ花のやかな （院御製）	左兵衛督	光成	読師：頭孝朝臣	国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「霞聞驚：立こめし霞をもるゝこゑはな ほのどかにぞ聞春の驚」（巻頭）
文政10年 2月20日	57		仙洞		夜、別殿（小御所）に渡御。 源三位、重徳朝臣等を召す				光格天皇実録	
文政10年 2月22日	57	水無瀬宮御 法楽	内裏	組題20首（2～3字 題）仁孝：暁聞驚		左衛門督	光成	読師：為知	国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「春の色を水無瀬の山の有明にたむけてつ ぐる驚のこゑ」
文政10年 2月22日	57	水無瀬宮御 法楽	仙洞	組題20首（2～4字 題）光格：露添山色	あさなあさなたてる霞も色 そひて山のすがたぞ春めき にける	雅久	雅久	読師：共福朝臣	有栖川宮本	「小御所二於テ水無瀬宮御法楽和歌ノ披露アリ」（光格天 皇実録）
文政10年 2月23日	57	当座御会	仙洞	組題30首（2字題） 光格：山霞	月□（虫損）にみかさし光 たちかへてまさかき霞む天 のかく山	左衛門督	重能	読師：為知	有栖川宮本	「和歌当座御会始ヲ行ハル、出御アラセラル」（光格天皇 実録）
文政10年 2月24日	57	月次御会	内裏	組題20首（2字題） 仁孝：初花、夕花、 河花		飛鳥井中納言	重徳		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「初花：吹風の猶牙ながら春そとてどもと く今朝の花はめつらし、夕花：長き日もあかすながめし 色も猶いましほの花の夕ばへ、河花：あたらし色のうつ ろふことは早瀬河花にかけてよ氷のしがらみ」
文政10年 2月24日	57		仙洞		准大臣一橋治濟薨あり。 この日より三日間、物音を 停む				光格天皇実録	
文政10年 3月2日	57	聖廟御法楽	仙洞	組題10首（3字題） 光格：露中桜	薄みどりうす紅のかすみよ りもるゝ桜の色ぞえならぬ	飛鳥井中納言	俊明	講師：隆光	有栖川宮本	「小御所二於テ去月分ノ聖廟御法楽和歌ノ披露アリ」（光 格天皇実録）
文政10年 3月18日	57	神影供	仙洞	春日望山	花の雲もかすみのみををに立 こめてはるふかき色のやよ ひ山かな	左衛門督	重能	読師：按察大納言、 講師：光暉、発声： 左衛門督	有栖川宮本	「椿本社神影供ヲ行ハル、出御アラセラル」（光格天皇実 録）
文政10年 3月22日	57		仙洞		中務卿昭仁親王へ八部抄伝 受のため、三月二十五日よ り十七日間、上御霊・下御 霊・北野の三社に御祈禱を 仰せつく				光格天皇実録	
文政10年 3月23日	57		内裏		禁裏に御幸				光格天皇実録	
文政10年 3月24日	57	月次御会	内裏	簾外燕、名所藤、契 別恋		左衛門督	雅久		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「簾外燕：花の香を吹入る風にさそはれて こすの外ちかくなるゝつばくら、名所藤：咲かゝるいは ねのふちにいらしども春はむらさきの布引のたき、契別 恋：ちぎりおくその葉になくさめてわかれんとす るも思ひこそそへ」



文政10年 3月25日	57	聖廟御法楽 (去月分)	内裏	組題50首(2字題) 仁孝：春朝		民部卿	雅光	講師：正房	国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「松梅もかすみあひつゝ朝日かげのどかに にほふ神垣の春」
文政10年 3月26日	57	和歌当座御 会	内裏	組題20首(3字題) 仁孝：山路桜		飛鳥井中納言	為全		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「あくがれてこのものかの岐がり昨日も けふも山路分つゝ」
文政10年 3月26日	57		仙洞		中務卿昭仁親王へ三郎抄伝 受のため、四月六日晚より 七日未半刻まで御神事を仰 せ出す				光格天皇実録	
文政10年 4月5日	57		内裏		禁裏に御幸				光格天皇実録	
文政10年 4月5日	57		仙洞		別殿(小御所)に渡御。堀 川宰相、為知朝臣等を召す				光格天皇実録	
文政10年 4月7日	57		仙洞		中務卿昭仁親王へ三郎抄伝 受を相伝				光格天皇実録	
文政10年 4月17日	57		仙洞		仁孝天皇の皇子錦宮の薨奏 あり。この日より三日間、 物言を停む				光格天皇実録	
文政10年 4月24日	57	月次御会	内裏	組題100首(2～4 字題)仁孝：卯月郭 公、枯野、寄糸窓		左兵衛督	為則		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「卯月郭公：卯花のかきねの月にほとゝぎ すしのふはつ音も浅すタぐれ、枯野：かぬ渡る野原をみ れば霜の花に秋のしきの色はのこらず、寄糸窓：人は いかによりありあらんとも白糸のわが心のみむすほほれ つゝ」
文政10年 5月6日	57		仙洞		皇女勝宮、薨去。この日よ り三日間、洞中の物言を停 む				光格天皇実録	
文政10年 5月15日	57		仙洞		征夷大將軍徳川家齊、太政 大臣宣下の御礼として名代 左近衛中将将伊直亮・副使 左近衛少将戸田氏倫を遣わ し、また、徳川家慶、従一 位宣下の御礼として名代侍 従松平定永、副使侍従宮原 義順を遣わし、物を献ず。 したがって名代に謁す			光格天皇実録		
文政10年 5月15日	57		仙洞		夜、別殿(小御所)に渡御。 源三位、為和等を召す				光格天皇実録	
文政10年 5月24日	57	月次御会	内裏	夏月透竹、水鶏、雨 後山水		民部卿	為脩		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「夏月透竹：すゝしくも竹の葉そよぎ吹風 にひかりみえすく夏のよの月、水鶏：いとゞ猶夢むすふ まもなつのよやうたてくひなにおどろかされて、雨後山 水：五月雨のなごりかやまは雲まよひ河はみかさのまさ る此ころ」
文政10年 6月7日	57	当座御会	内裏	組題24首(1字題) 仁孝：連		左兵衛督	建房		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「いろくずのひれふる数もよりくるや池の はちすのかげのすゝしさ」
文政10年 6月11日	57		仙洞		壽山亭で挿秧を御覧				光格天皇実録	
文政10年 6月16日	57		仙洞		嘉祥の儀あり。出御				光格天皇実録	

年月日	年齢	御会名	場所	歌題	光格天皇御製および事項	題者	奉行	その他の諸役	出典	備考
文政10年 6月16日	57		仙洞		式部卿徳川齊明の薨奏あり。この日より三日間、物音を停む				光格天皇実録	
文政10年 6月24日	57	月次御会	内裏	組題100首(2~4字題) 仁孝：春風、鵜河蛭、原上旅宿		左衛門督	重能		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「春風：さば姫のかすみの袖も打なひき天つ空吹風のどけぞ、鵜河蛭：河瀬こぐ鵜舟のかゝり数そふとみえて蛭の飛かふ影、原上旅宿：月ばかり枕とひつゝ幾夜半が旅ね響けき武蔵野>風」
文政10年 6月25日	57	聖廟御法楽	内裏	組題10首(2字題) 仁孝：百合		飛鳥井中納言	為全	講師：陸光朝臣	国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「百合：波とともに露も涼しくみだちるのじまがさきの風のさゆり葉」
文政10年 6月25日	57	聖廟御法楽	仙洞	組題50首(2字題) 光格：扇風	露のまもおかれぬ物より夏し らぬ風を心にまかせず扇は	左衛門督	為脩	講師：光暉	国会本内裏 有栖川宮本	「小御所二於テ聖廟御法楽和歌ノ披露アリ」(光格天皇実録)
文政10年 6月28日	57		仙洞		夜、別殿(小御所)に渡御。 大蔵卿、通修朝臣等を召す				光格天皇実録	
文政10年 後6月1日	57		仙洞		御庭三社に参拜。この日、 徳川家齊、野連の御礼として 名代徳山侍從青山忠裕を 遣わし物を献上。これに賜 す				光格天皇実録	
文政10年 後6月11日	57	当座御会	内裏	組題20首(3字題) 仁孝：冬雑物		民部卿	俊明		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「うつみ火によりそひて猶善かへしふみ見る夜半は冬もわすれつ」
文政10年 後6月24日	57	月次御会	内裏	秋花夏開、納涼水、 聞声忍恋		左兵衛督	光成		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「秋花夏開：夏ながら秋たちしとやこのころはまださひもとく花のもゝ草、納涼水：すゝしさはなつをばよそにやり水のながれまぢかくいざまとぬせむ、聞声忍恋：近となり声きくたびにしのびつゝかげみむことはかたき中かな」
文政10年 後6月29日	57		仙洞		六月祓・茅輪のため出御				光格天皇実録	
文政10年 7月7日	57	七夕御会	内裏	天河	天河とほきわたりを年毎に まつもかはらぬ蓬瀬なり(け り) (院御製)	左衛門督	光成		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製 光格上皇御製の順に掲載。仁孝天皇御製「ひこほしのけふ蓬瀬とや天河なみのうきぎり晴わたる見ゆ」。女御・女房連：女御、大興侍、宰相のすけ、誓のすけ、投察使典侍、権すけ、新大納言、勾当内侍、侍従のないし、兵衛のないし、命婦伊与、命婦はうき、命婦大御乳、やまと(巻末)
文政10年 7月13日	57		仙洞		夜、別殿(小御所)に渡御。 大蔵卿、隆起朝臣等を召す				光格天皇実録	
文政10年 7月14日	57		内裏		絳裏に御幸				光格天皇実録	
文政10年 7月24日	57	月次御会	内裏	組題20首(1字題) 仁孝：萩、松虫、楓		民部卿	俊明		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「萩：宮城野>さかりはさぞな九重にえならずにほふ萩の戸のはな、松虫：誰がとふど何松虫のゆふべゆふべのせをひろみ囁きこゑ、楓：こゝかしこ染し千入の木々の中に風の紅葉ごとこそみれ」
文政10年 8月1日	57		仙洞		八朔の儀あり				光格天皇実録	

光格上皇主催御会和歌年表 ― 文政期編

文政10年 8月16日	57	当座御会	内裏	組題30首（3～4字 題）光格：松間月	孝に生る松の木間にいざよ ひて心つくせと出る月かも 〔院御歌〕	雅久	雅光	国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「月前番：きりぎりす露わびてなく声まで も夜すがら渡る秋の月かげ」
文政10年 8月18日	57		仙洞		下御霊社神興を御覽			光格天皇実録	
文政10年 8月19日	57		仙洞		仁孝天皇の皇女皇弟宮、薨 去。この日より三日間、物 音を停む			光格天皇実録	
文政10年 8月24日	57	月次御会	内裏	小鷹狩、馴月、水邊 秋		左兵衛督	建房	国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「小鷹狩：さかの野や花の千種をふみ分て 立色鳥にいざもたかへ、馴月：夜をかさねあかすなれ行 影に猶月こそ秋の友となりぬれ、水邊秋：秋風にきり吹 はれてみつ清み心もすめる河つらの里」
文政10年 8月26日	57		仙洞		夜、別殿（小御所）に渡御。 権大納言、恭光等を召す			光格天皇実録	
文政10年 9月1日	57		仙洞		鎮守社・柿本社に参拝			光格天皇実録	
文政10年 9月9日	57	重陽御会	内裏	菊句留袖		飛鳥井中納言	俊明	国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「かざしにと庭のしらぎく折つればふかく もそでにうつる花の香」。女房連：大典侍、宰相典侍、 按察使典侍、権典侍、兵衛内侍、命婦伯耆、命婦大御乳 （巻末）
文政10年 9月13日	57		仙洞		修学院離宮への御幸のため、 九月十五日より七日 間、愛宕社・貫船社・北野 社に御折棒を仰せつく			光格天皇実録	
文政10年 9月15日	57		内裏		禁裏に御幸			光格天皇実録	
文政10年 9月21日	57	於修学院御 当座	修学 院	組題30首（2字題） 光格：秋田	つゆ霜のおくでの紅葉刈上 て野田もやま田も秋さひに けり	雅久	雅久	有栖川宮本	〔修学院離宮二御幸アラセラル、先ツ壽月觀二於テ当座 和歌御会ヲ行ハル、尋イテ庭苑、赤山邊ヲ御歴覽、林丘 寺二入御、壽月觀二還御ノ後、管絃ノ御遊ヲ行ハル、等、 琵琶ノ御所作アラセラル〕（光格天皇実録）
文政10年 9月21日	57	於修学院御 当座 後座	修学 院	組題6首（3～4字 題）光格：山路秋行	山めぐる雲こそしるべ峯ふ もとさきの紅葉の秋をわけ つゝ	雅久	雅久	有栖川宮本	〔修学院離宮二御幸アラセラル、先ツ壽月觀二於テ当座 和歌御会ヲ行ハル、尋イテ庭苑、赤山邊ヲ御歴覽、林丘 寺二入御、壽月觀二還御ノ後、管絃ノ御遊ヲ行ハル、等、 琵琶ノ御所作アラセラル〕（光格天皇実録）
文政10年 9月24日	57	月次御会	内裏	組題100首（1～4 字題）仁孝：春雨、 菊、後朝恋		左衛門督	雅光	国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「春雨：陰まゝに春の日敷のかすみそひは なをよもよほす雨の長閑さ、菊：谷河のながれも花の光そ ひえならず匂ふさしの白菊、後朝恋：みおくるもみかへ るもともに袖ぬれて別うかりし今朝の衣衣」
文政10年 9月27日	57		仙洞		壽山亭で種稻を御覽			光格天皇実録	
文政10年 9月28日	57		内裏		禁裏に御幸			光格天皇実録	
文政10年 10月3日	57		仙洞		玄菟の儀			光格天皇実録	
文政10年 10月10日	57		仙洞		夜、別殿（小御所）に渡御。 大藏卿、公格等を召す			光格天皇実録	
文政10年 10月12日	57				盛化門院の正忌により、般 舟三昧院で御法事			光格天皇実録	

年月日	年齢	御会名	場所	歌題	光格天皇御製および事項	題者	奉行	その他の諸役	出典	備考
文政10年 10月15日	57		仙洞		玄猪の儀				光格天皇実録	
文政10年 10月16日	57		内裏		猿楽御覧のため禁裏に御幸				光格天皇実録	
文政10年 10月19日	57	当座御会	内裏	組題10首 (1～2字 題) 仁孝：忍恋		飛鳥井中納言	重能		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「ともすれば涙のしぐれふりそひて忍ぶた もとの色やかはらむ」
文政10年 10月22日	57		仙洞		小御所において管絃の御遊 あり。出御。等の御所作				光格天皇実録	
文政10年 10月24日	57	月次御会	内裏	時雨、落葉、恋風		民部卿	光成		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「時雨：神無月空のならひと夕付日しくれ の雲に晴くもるかす。落葉：こがらしの梢をはらぶ音た てゝちるや紅葉のまどをつつかた、恋風：物思ふわが こゝろよりふく風の声もつつかとみゝにとまれる」
文政10年 11月9日	57				後桃園天皇の聖恩により、 船舟三昧院で御法事				光格天皇実録	
文政10年 11月10日	57		仙洞		十二月五日、中務卿韶仁親 王に入木道御伝受相伝のた め、その日時治定を仰せ出 す				光格天皇実録	
文政10年 11月23日	57		仙洞		内々に能御覧				光格天皇実録	
文政10年 11月24日	57	月次御会	内裏	組題100首 (2～4 字題) 仁孝：池寒蘆、 閑寂、寄帯恋		左兵衛督	為全		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「池寒蘆：霜さゆるみぎは氷りて池の面に 残るもさびしあしの冬がれ、閑寂：小夜深み睡の版戸に 音するは風のさそふ寂なるらし、寄帯恋：むすびそめ思 ひみだれず下帯の端打とくる中ぞしたしき」
文政10年 11月24日	57		仙洞		十二月五日、中務卿韶仁親 王に入木道伝受相伝のた め、十一月二十五日から十 七日間、北野社に御祈禱を 仰せつく				光格天皇実録	
文政10年 11月25日	57		仙洞		夜、別殿 (小御所) に渡御。 堀川宰相、公悟等を召す				光格天皇実録	
文政10年 11月27日	57	当座御会	内裏	組題30首 (3～4字 題) 仁孝：夜上霜		為全	為則		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「大井河くだすも寒きいかだしそのぞの霜 はらへ奉の朝かせ」
文政10年 11月28日	57		内裏		禁裏に御幸				光格天皇実録	
文政10年 11月30日	57		仙洞		森礼門院の三十三回忌によ り、代参として正三位高松 公祐を船舟三昧院・泉涌寺 に遣わし御参覲を供える				光格天皇実録	
文政10年 12月5日	57		仙洞		中務卿韶仁親王に入木道伝 受を相伝				光格天皇実録	
文政10年 12月17日	57	当座御会	内裏	組題30首 (2～3字 題) 仁孝：惜秋		民部卿	雅久		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「行秋の名残おもふはわれのみかまがきの 虫もつらみ声なる」
文政10年 12月18日	57	当座御会	仙洞	組題30首 (2字題) 光格：椿雨	降雨にあをぐもたかく板橋 をひち笠とりて渡るつち人	飛鳥井中納言	光成		有栖川宮本	「和歌当座御会ラ行ハル、出御アラセラル」(光格天皇実 録)

文政10年 12月20日	仙洞			夜、別殿（小御所）に渡御。 大藏卿、久雄朝臣等を召す					光格天皇実録	
文政10年 12月22日	仙洞			御覽上を行つ					光格天皇実録	
文政10年 12月23日	内裏			禁裏に御幸					光格天皇実録	
文政10年 12月24日	内裏	月次御会	千どり、うつみび、 年のくれ			俊明			国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「千どり：かも川やみがける月の清き瀬に 猶声さめゆる小夜千鳥かな、うつみび：埋火に燃よりそひ てまどぬするあたりはさらに冬なかりけり、年のくれ： くれて行年のなこりは忘れぬと心いさむや春をまつと て」
文政11年 1月1日	仙洞			四方拜のために出御。朝餉 間で御園の事あり					光格天皇実録	
文政11年 1月3日	仙洞			吉書御覧のため出御					光格天皇実録	
文政11年 1月4日	内裏			禁裏に御幸始					光格天皇実録	
文政11年 1月7日	仙洞			白馬御覧のため出御					光格天皇実録	
文政11年 1月8日	仙洞			千秋万歳御覧のため出御					光格天皇実録	
文政11年 1月13日	仙洞			諸礼のため弘御所に出御					光格天皇実録	
文政11年 1月14日	仙洞			太元帥法結願・後七日御修 法のため両法阿闍梨、参 院。弘御所に出御し読す					光格天皇実録	
文政11年 1月15日	仙洞			御吉書・三穂打のため小御 所に出御					光格天皇実録	
文政11年 1月8日	仙洞	可憐春風光		風ゆるく春のひかりのめく むより花もやなぎもまゆひ らけつゝ	左衛門督	重能	読師：日野 前大納 言、講師：光曜、発 声：左京大夫		有栖川宮本	大宮御歌なし。女房達：大すけ、新大納言、葛満小路、 勾当内侍、小少将、命婦伊与、命婦はづき（巻末）。「和 歌御会始ヲ行ハル、出御アラセラル」（光格天皇実録）
文政11年 1月24日	内裏	鶯鳴梅		はるをしる花は梅がえとり はわれといひばかりなるう ぐひすのこゑ（院御歌）	民部卿	為全	読師：源大納言、講 師：隆 光 朝臣、発 声：左兵衛督		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製、光格上皇御製の順に掲載。仁孝天皇御製 「梅がえの春しめて啼うくひすや花のかをりをこゑのこ ほひと」（巻頭）。大宮御歌なし。女御・女房達：女御、 大すけ、宰相のすけ、督のすけ、按察使典侍、権すけ、 新大納言、勾当内侍、侍従のないし、兵衛のないし、命 婦いは、命婦伯耆、命婦大御乳、大和（巻末）
文政11年 1月26日	内裏	組題30首（3～4字 題）光格：名所鶯		声の色を花とおもへばつむ 雪もよしやよし野>春の鶯 （院御歌）	左兵衛督	為脩	講師：正房		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「體始錄：新玉の年のひかりを先みせてそ らものどかに立かすみかな」（巻頭）
文政11年 2月1日	仙洞			夜、別殿（小御所）に渡御					光格天皇実録	
文政11年 2月10日	仙洞	組題30首（4字題） 光格：早春朝霞		春にはや朝と吹かすむ吉野 川いはとかしはのにはふし ら波	民部卿	為脩	講師：為脩		有栖川宮本	「和歌当座御会始ヲ行ハル、出御アラセラル」（光格天皇 実録）
文政11年 2月16日	内裏			禁裏に御幸					光格天皇実録	

年月日	年齢	御会名	場所	歌題	光格天皇御製および事項	題者	奉行	その他の諸役	出典	備考
文政11年 2月22日	58	水無瀬宮御 法楽 当座御会	仙洞	組題20首 (2 字題) 光格：初鶯	梅柳春の色垂のまだしさに まつ鶯の声そとける	飛鳥井中納言	重能	講師：光卿	有栖川宮本 皇実録	「小御所」二於テ水無瀬宮御法楽和歌ノ披露アリ」(光格天皇実録)
文政11年 2月23日	58	当座御会	内裏	組題20首 (2 字題) 仁孝：待花		飛鳥井中納言	光成		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「くりかへしまれたる花と明と心にかへる花かつらかな」
文政11年 2月24日	58	月次御会	内裏	組題100首 (3 字題) 仁孝：立春、女郎花、田家鳥		左兵衛督	光成		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「立春日：とりがねも此曙はのどかにて明れば春とくすむ日の影、女郎花：女郎花きりのまがひにほのみえておもはゆげなる色はなづかし、田家鳥：小山田のいほりまぢかく春しめてなくくむくはしづめたのしむ」
文政11年 2月25日	58	聖廟御法楽	内裏	組題50首 (1 字題) 仁孝：鶯		飛鳥井中納言	建房	講師：隆光朝臣	国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「さよ姫のかすみの袖をはなやかにかかいてよそほふ春の山のは」
文政11年 2月26日	58	聖廟御法楽	仙洞	組題50首 (2～3 字題) 光格：早春	浅きどり朝な朝なにかすみ そひかぜもやはらぐ花鳥の 春	雅久	雅久	講師：重基朝臣	有栖川宮本	「小御所」二於テ聖廟御法楽和歌ノ披露アリ」(光格天皇実録)
文政11年 3月13日	58		仙洞		小御所において管絃の御遊 あり。出御。琵琶の御所作				光格天皇実録	
文政11年 3月18日	58	神影供	仙洞	瑞籬花	春いく世神のしめゆふみづ かきは花のさかりもひだし かるらし	民部卿	為全	読師：皇太后宮権大 夫、講師：光政、発 声：前新源大納言	有栖川宮本	「柿本社神影供ヲ行ハル、出御、御製アラセラル」(光格天皇実録)
文政11年 3月22日	58	水無瀬宮御 法楽 (去月 分)	内裏	組題20首 (3 字題) 仁孝：花映日		雅光	雅光	講師：重基朝臣	国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「朝日かいてらすみなせの山たかみさかりの花も雲と見えつゝ」
文政11年 3月23日	58	於修学院御 当座	修学院	眺望春	かすみつゝ野辺も山へも遠 近も春のながめに心ゆくな り	為則	為則		有栖川宮本	「修学院離宮ニ御幸アラセラル、壽月観ニ於テ和歌当座御会ヲ行ハル、畠イテ庭苑、赤山邊ヲ御歴覧ノ後、林丘寺ニ臨御アラセラルし、壽月観ニ還御、管絃ノ御遊ヲ行ハル、箏、笛、琵琶ノ御所作アリ」(光格天皇実録)
文政11年 3月23日	58	於修学院御 当座 後座	修学院	組題30首 (3～4 字題) 光格：山鶯	うぐひすの声にひかれて分 のぼる山路の花の雪吹をも みつ	為則	為則		有栖川宮本	「修学院離宮ニ御幸アラセラル、壽月観ニ於テ和歌当座御会ヲ行ハル、畠イテ庭苑、赤山邊ヲ御歴覧ノ後、林丘寺ニ臨御アラセラルし、壽月観ニ還御、管絃ノ御遊ヲ行ハル、箏、笛、琵琶ノ御所作アリ」(光格天皇実録)
文政11年 3月24日	58	月次御会	内裏	遊糸、蛙、逢恋		右衛門督	雅久		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「遊糸：すがのねのいとながき日にいとゆふの糸くりにかへしなびく長閑さ、蛙：水がくれて鳴やはづのもる春もどかにぞ聞春の小山田、逢恋：あさかちぬ入るとはに年月のつらみこよもとけし下ひも」
文政11年 3月26日	58	当座御会	内裏	組題30首 (3～4 字題) 仁孝：苔上落花		右衛門督	建房		有栖川宮本	仁孝天皇御製「ちりしきて上は白妙下はみどり花と昔と春の山みち」
文政11年 3月28日	58		内裏		禁裏に御幸				光格天皇実録	
文政11年 4月6日	58		仙洞		小御所で法隆寺所蔵の聖徳太子御影ならびに什宝を御覧				光格天皇実録	
文政11年 4月18日	58		内裏		禁裏に御幸				光格天皇実録	
文政11年 4月21日	58		仙洞		内々に猿蓑御覧				光格天皇実録	

光格上皇主催御会和歌年表 ― 文政期編

文政11年 4月23日	58	和歌当座御 会	内裏	組題20首 (3～4字 題) 仁孝：(恋) 袖 浦		民部卿	為全		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「浦の名の袖はしほひにしほたれてほすひ まもなくこふるとし月」
文政11年 4月24日	58	月次御会	内裏	組題31首 (2～3字 題) 仁孝：牡丹、五 月雨、蛭		民部卿	為全		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「牡丹：朝な夕なそむる心もふかみくざげ にたくひなき花とこそ見れ、五月雨：五月雨は月のみふ ねもいくよはかへたてゝ雲の波ぞ立ける、蛭：あつめね ど蛭ぞてらす窓のうちおこたるふみを影にいさめて」
文政11年 4月27日	58		仙洞		夜、方達のため別殿 (小御 所) に渡御。大藏卿、実久 朝臣を召す				光格天皇実録	
文政11年 5月17日	58		仙洞		齋山亭で椿絵を御覧				光格天皇実録	
文政11年 5月18日	58		内裏		禁裏に御幸				光格天皇実録	
文政11年 5月21日	58	当座御会	内裏	組題30首 (3～4字 題) 仁孝：水郷郭公		左衛門督	俊明		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「水無瀬河声はいづこにありて行やまもと とほく鳴ほとゝぎす」
文政11年 5月24日	58	月次御会	内裏	早苗参、五月雨、海 上舟		左衛門督	建厚		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「早苗参：しづはさぞうれしと見つゝ思ふ らし千町にあまる水のわかなへ、五月雨：夏月の手ひき のいとのがき日に猶くり返しさみだるゝ空、海上舟： 海ばらや波もをさまるときつ風つれてゆたがにかよふ友 ぶね」
文政11年 6月2日	58		仙洞		徳川家祥の任官叙位の御礼 として、將軍徳川家齊の名 代の侍従酒井忠美・副使侍 従織田信美、家祥の名代の 侍従前田長泰が参院して物 を献上するのに誦す				光格天皇実録	
文政11年 6月10日	58		仙洞		夜、別殿 (小御所) に渡御。 左大辨宰相、実徳朝臣、公 格等を召す				光格天皇実録	
文政11年 6月16日	58		仙洞		嘉祥の儀に出御				光格天皇実録	
文政11年 6月19日	58	当座御会	内裏	組題20首 (3～4字 題) 仁孝：紅梅運		左兵衛督	顕孝		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「紅のこそめの色は春ふかくまたれて咲る 梅のいくしほ」
文政11年 6月21日	58		内裏		禁裏に御幸				光格天皇実録	
文政11年 6月24日	58	月次御会	内裏	組題20首 (1～6字 題) 仁孝：夏草、五 月雨、待人窓		民部卿	俊明		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「夏草：夏草のしげるもよこも移りにい ろいろの花のさくを思へば、五月雨：明らけき月にいく度 えならすもかへす乙女の袖のよそほひ、待人窓：したひ てもうらもてつらきあだ人を猶よなよなに待がわりな さ」
文政11年 6月25日	58	聖廟御法楽	内裏	組題50首 (2字題) 仁孝：夏露		左衛門督	光成	講師：正房	国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「神のめぐみ夏しる露のかゝればぞいがき の木くさこにすゝしき」
文政11年 6月25日	58	聖廟御法楽	仙洞	組題50首 (2～3字 題) 光格：蛭	飛堂よたゝ照すも夜をかざ ねはや秋ちかき暁の影	民部卿	為脩	講師：為知	有栖川宮本	「小御所ニ於テ聖廟御法楽和歌ノ披露アリ」 (光格天皇実 録)
文政11年 6月30日	58		仙洞		六月祓・茅輪のため出御				光格天皇実録	

年月日	年齢	御会名	場所	歌題	光格天皇御製および事項	題者	奉行	その他の諸役	出典	備考
文政11年 7月7日	58	和歌御会	内裏	七夕琴	天河吹かよふかぜのすがほ はことさらまほしのしらべう くらし (院御製)	左兵衛督	光成		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製 光格上皇御製の順に掲載。仁孝天皇御製 「たむけにと心のいともひく慕のしらべをほしはいかゞ きくらむ」(巻頭)。大宮御歌なし。女御・女房達：女御、 大すけ、幸相典侍、督のすけ、按察使典侍、権すけ、新 大納言、勾当内侍、侍従ないし、兵衛内侍、命婦いよ、 みやうぶ伯耆、命婦大乳、やまと (巻頭)。
文政11年 7月14日	58		内裏		禁裏に御幸				光格天皇実録	
文政11年 7月24日	58	月次御会	内裏	風庭蓀、尋虫、恋餘 波		左兵衛督	顕孝		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「風庭蓀：露かけて吹くる風の秋のころは 軒端の蓀のそこに聞つゝ、尋虫：百草の花野をわけてた づぬればなれも我をやまつむしのなく、恋餘波：いまは とて思ひすてしをいかに猶なごり消やらぬ恋くさの露」
文政11年 7月24日	58		仙洞		夜、別殿 (小御所) に渡御。 今出川中納言、実徳朝臣等 を召す				光格天皇実録	
文政11年 8月1日	58		仙洞		八朔の儀あり				光格天皇実録	
文政11年 8月7日	58		仙洞		歡喜心院宮、薨去。この日 より三日間、洞中、物音を 停む				光格天皇実録	
文政11年 8月20日	58		内裏		禁裏に御幸				光格天皇実録	
文政11年 8月24日	58	月次御会	内裏	組題100首 (2～3 字題) 仁孝：春朝、 夏河、秋祝		飛鳥井中納言	為全		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「春朝：山たかみかすみてのほる朝日かげ のどかににはふ花のしら雲、夏河：波をふく風になびき て河の瀬にむれつゝあゆのはしる涼しさ、秋祝：民の戸 の年ある秋のまに出て千町のいなばびく豊けさ」
文政11年 8月25日	58	当座御会	内裏	組題30首 (3～4字 題) 仁孝：名所桜		飛鳥井中納言	雅久		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「春はまた桜にも名の立田山ゆふ日いくし ほ霞みそへつゝ」
文政11年 9月8日	58		仙洞		夜、別殿 (小御所) に渡御。 東久世三位、実路朝臣等を 召す				光格天皇実録	
文政11年 9月9日	58	重陽御会	内裏	菊句隨風		民部卿	雅光		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「なが月のけふ咲きくの花ざかり庭のあき かぜ香に匂ひつゝ」。女御・女房達：女御、督のすけ 権すけ、勾当内侍、侍従ないし、命婦伯耆、大和 (巻 末)。
文政11年 9月18日	58		内裏		猿楽御覧のため禁裏に御幸				光格天皇実録	
文政11年 9月24日	58	月次御会	内裏	秋山朝、秋野夕、秋 浦夜		雅久	雅久		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「秋山朝：朝かげにきりのとばりはふき晴 て紅葉のにしきにはふ山のは、秋野夕：あきふかみ露ふ く風も身にそしむしかのねさびし野へのたぐれ、秋浦 夜：よる波のよを長月の影みつゝさぞなこゝろもすまの つらん」
文政11年 10月7日	58		仙洞		後桃園天皇の五十回聖忌を 引き上げ、この日より三日 間、洞中において御法事				光格天皇実録	



文政11年 10月12日	58		仙洞				盛化門院の御忌により、般舟三昧院において御法事の ため、般舟三昧院ならびに 泉涌寺に代参を遣わす				光格天皇実録	
文政11年 10月20日	58		仙洞				壽山亭で種稻を御覧				光格天皇実録	
文政11年 10月20日	58		仙洞				夜、別殿（小御所）に渡御。 大原三位、公格等を召す				光格天皇実録	
文政11年 10月21日	58		仙洞				玄緒の儀				光格天皇実録	
文政11年 10月24日	58	月次御会	内裏	組題100首（2～4 字題）仁孝：霜夜月、 冬顕恋、冬竹		左衛門督		頭孝			国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「霜夜月：澄月の影も一きは白砂にみえて 霜児つる空の寒けさ、冬顕恋：白雪のふりかへくせどもい かにしてよそにしられし恋の通路、冬竹：小夜風のさや ぐも寒き竹の葉のまたおとそふやあられ成らん」
文政11年 11月3日	58		仙洞				後桜町天皇の聖忌により般 舟三昧院において御法事。 般舟三昧院ならびに泉涌寺 に代参を遣わす				光格天皇実録	
文政11年 11月24日	58	月次御会	内裏	月光映氷、寒雁添 声、閑路行客		左兵衛督		為脩			国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「月光映氷：氷面かゝみくもらぬ光輝そひ て月にみがくも寒きいけ水、寒雁添声：そら寒く雪をは びきてくるかりにあしへの友も声かはしつゝ、閑路行 客：かげくもるふゝきいとほで杉むらに旅人つとふあふ さかの関」
文政11年 12月5日	58		仙洞				夜、別殿（小御所）に渡御。 大原三位、有言朝臣等を召 す				光格天皇実録	
文政11年 12月21日	58		仙洞				私御所前庭において御疑上 げ				光格天皇実録	
文政11年 12月24日	58	月次御会	内裏	組題100首（1～2 字題）仁孝：柳、秋 雨、神楽		飛鳥井中納言		雅久			国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「柳：風にけつり露によそほふ乱れがみい とえならずもなびく青柳、秋雨：八千種のまがきもち めし秋霧のはるゝとみれば雨そゝぐなり、神楽：霜ゆき に彌しらゆふの袖はへてまふも醒もすめる夜神楽」
文政12年 1月1日	59		仙洞				四方拝を行うが出席せず。 朝餉間で御園の事。拝礼 を行い諸臣に謁す。夜、小 御所に渡御				光格天皇実録	
文政12年 1月2日	59		仙洞				拝礼あり。小御所に出御し 諸臣に謁す				光格天皇実録	
文政12年 1月3日	59		仙洞				吉書御覧のため出御				光格天皇実録	
文政12年 1月7日	59		仙洞				千秋万歳・白馬御覧のため 出御				光格天皇実録	
文政12年 1月13日	59		仙洞				諸礼のため弘御所に出御。 次に小御所に渡御				光格天皇実録	
文政12年 1月14日	59		仙洞				太元帥法結願・後七日御修 法のため向法阿闍梨、参 院。弘御所に出御し謁す				光格天皇実録	
文政12年 1月15日	59		仙洞				御吉書・三替打のため小御 所に出御				光格天皇実録	

年月日	年齢	御会名	場所	歌題	光格天皇御製および事項	題者	奉行	その他の諸役	出典	備考
文政12年 1月18日	59	御会始	仙洞	氷消雪残	はるををるいけのこゝろよ 消がての雪のいはねもとく るこほりは	左兵衛督	顕孝	読師：按察大納言、 講師：光政、発声： 飛鳥井中納言	有栖川宮本	大宮御歌・仁孝天皇御製なし。女房達：大典侍、新大納言、権中納言、葛瀬小路、常盤井、勾当内侍、命婦伊与、命婦はつぎ、紀伊（巻末）。〔和歌御会始ヲ行ハル、出御、御製アラセラル〕（光格天皇実録）
文政12年 1月24日	59	和歌御会始	内裏	浪澄鶴影浮	春の日の空うらゝかにまふ 影もあしべの田鶴も浮ぶ江 の浪（院御製）	左衛門督	光成	読師：民部卿、講 師：重基朝臣、発 声：源三位	国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製、光格天皇御製の順に掲載。仁孝天皇御製「水かゝつまつるすかたものどけな春の泡へのなみのともつる」（巻頭）。大宮御歌なし。女御・女房達：女御、大すけ、宰相典侍、権すけ、新大納言、権中納言、勾当のいないし、侍従内侍、兵衛のいないし、命婦伊豫、命婦伯耆、大和（巻末）。
文政12年 1月26日	59	当座御会	内裏	組題30首（3字題） 光格：朝見花	いひしらぬ色にももあるか朝 露に匂ひこぼれて吹る初は な（院御製）	民部卿	雅光	読師：光政	国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「早香水：春さぬと氷ながれて残みどり霞 もにはふ庭のやり水」（巻頭）
文政12年 2月14日	59		仙洞		夜、別殿（小御所）に渡御。 男女を召さず				光格天皇実録	
文政12年 2月22日	59	水無瀬宮御 法楽	内裏	組題20首（4字題） 仁孝：春風解氷		飛鳥井中納言	雅久	講師：光政	国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「山本やのどかに春の風みえてこほりもな みの水無瀬河かな」
文政12年 2月24日	59	月次御会	内裏	組題100首（2～4 字題）仁孝：待花、 水郷花、花錦		民部卿	顕孝		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「待花：二月や時きぬれど風さえてなほ 待遠の花さくらかな、水郷花：木井河花のさかりに成に けりろかりになびく筏士のそで、花錦：名にしおふ都の 春のひかりかないつくも花の錦かきねて」
文政12年 2月25日	59	聖廟御法楽	内裏	組題50首（2～4字 題）仁孝：尋梅		左兵衛督	俊明	講師：為知	国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「香をしるべこの袖垣に尋ねきてえならぬ 梅の咲しをぞ見る」
文政12年 2月30日	59	当座御会	仙洞	組題30首（2～3字 題）光格：初春鶯	鶯の鳴なる声に山陰の垣ね の春の雪消をもしる	左衛門督	光成	読師：隆光朝臣	有栖川宮本	〔和歌当座御会始ヲ行ハル、出御アラセラル〕（光格天皇 実録）
文政12年 3月7日	59	当座御会	内裏	組題20首（2字題） 仁孝：春日		左衛門督	為脩		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「のどかなるやよひの空のけしきかな照す 日かげもかすみ匂ひて」
文政12年 3月16日	59		内裏		禁裏に御幸始				光格天皇実録	
文政12年 3月17日	59		仙洞		昨夜、前右大臣花山院愛 徳、薨去。この日より三日 間、物音を停む				光格天皇実録	
文政12年 3月19日	59		仙洞		修学院離宮への御幸のた め、三月二十一日より七日 間、下御雲・北野社・愛宕 長床坊に御祈禱を仰せつく				光格天皇実録	
文政12年 3月20日	59		内裏		猿蓑御覧のため禁裏に御幸				光格天皇実録	
文政12年 3月22日	59	水無瀬宮御 法楽（去月 分）	仙洞	組題20首（2字題） 光格：春日	一夜明しみつ朝のかすみ よりよにのどかなる春の日 のかげ	民部卿	雅久	読師：為知	有栖川宮本	〔小御所二於テ水無瀬宮御法楽和歌ノ披露アリ、去月分 ナリ〕（光格天皇実録）
文政12年 3月25日	59	聖廟御法楽 （去月分）	仙洞	組題10首（4字題） 光格：霞添春色	はるの色の毎朝毎朝に見え 行は空うらゝなる霞みなり けり	飛鳥井中納言	建房	読師：隆光朝臣	有栖川宮本	〔小御所二於テ聖廟御法楽和歌ノ披露アリ、去月分ナリ〕 （光格天皇実録）

文政12年 3月26日	59	於修学院御 当座	修学 院	春日遊覧	和良らに霞む光に野へ山へ みつゝ心も春の日ぐらし	雅光	雅光	有栖川宮本	「修学院離宮二御幸アラセラル、先ツ壽月觀ニ於テ当座 和歌御会ヲ行ハル、尋イテ上離宮二渡御、庭苑、赤山邊 ヲ御座覽、林丘寺二入御、下離宮二還御ノ後、壽月觀ニ 於テ管絃ノ御遊ヲ行ハル、等ノ御所作アラセラル」(光 格天皇実録)
文政12年 3月26日	59	於修学院御 当座(後 座)	修学 院	組題30首(2~3字 題)光格:夕春草、 朝田家	夕春草:かり衣小草つむ 野>花にきて胡蝶もなる> 袖の夕露、朝田家:朝けふ りかすみと>もに立なびく しつが門田の春を長閑さ	雅光	雅光	有栖川宮本	「修学院離宮二御幸アラセラル、先ツ壽月觀ニ於テ当座 和歌御会ヲ行ハル、尋イテ上離宮二渡御、庭苑、赤山邊 ヲ御座覽、林丘寺二入御、下離宮二還御ノ後、壽月觀ニ 於テ管絃ノ御遊ヲ行ハル、等ノ御所作アラセラル」(光 格天皇実録)
文政12年 3月27日	59		仙洞		夜、別殿(小御所)に渡御。 修理権大夫、美濃朝臣等を 召す			光格天皇実録	
文政12年 3月28日	59	月次御会	内裏	梨花、杜若、園囀		為全	為全	国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「梨花:春ふかき山路も雪のこのるかとよ そめに見しはなしの咲かけ、杜若:池水にはるをふかめ てさく花はこきむらさきのかきつばたかな、園囀:夕日 影てらすをかへのいはつ>じ今ーしほの花のくれなゐ」
文政12年 4月3日	59		仙洞		新嘉門院の七回忌によ り、代参として正三位高松 公祐を般舟三昧院ならびに 泉涌寺に遣わし御香奠を供 えしむ			光格天皇実録	
文政12年 4月11日	59		内裏		禁裏に御幸			光格天皇実録	
文政12年 4月18日	59	神影供	仙洞	首夏新樹	朝もよひさのふのはなの雲 はれて山はあを葉におもか げりをり	左兵衛督	頭孝	有栖川宮本	「柿本社神影供ヲ行ハル、出御アラセラル」(光格天皇実 録)
文政12年 4月24日	59	月次御会	内裏	組題10首(5字題) 仁孝:梅花琴上飛、 水辺唯遊量、遠近香 光満		雅光	雅光	国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「梅花琴上飛:琴のをしらも花の香を やそむめ敷か>る軒の春風、水辺唯遊量:くめば猶夏 もしらなみなながれ出てまとお涼しき庭の真清水、遠近香 光満:のへ山へ連行人やたどるらん遠近わかぬ雪のひか りに」
文政12年 4月24日	59		仙洞		故徳川家濟に贈太政大臣の 答礼便として刑部大輔今川 義用・侍従本荘宗榮が同伴 して参院。將軍徳川家齊よ りの白銀三百枚を献上。弘 御所に出席、謁す			光格天皇実録	
文政12年 4月28日	59		仙洞		内々に仕舞簪子能を御覧			光格天皇実録	
文政12年 5月8日	59		仙洞		夜、別殿(小御所)に渡御。 武者小路三位、永倫朝臣等 を召す			光格天皇実録	
文政12年 5月15日	59	当座御会	内裏	組題30首(2~4字 題)仁孝:雪中興遊		左兵衛督	光成	国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「思ふどち袖打かざし駒なべてゆくゆめ つる雪の野山路」
文政12年 5月20日	59		内裏		禁裏に御幸			光格天皇実録	

年月日	年齢	御会名	場所	歌題	光格天皇御製および事項	題者	奉行	その他の諸役	出典	備考
文政12年 5月24日	59	月次御会	内裏	夏草、照射、窓月		民部卿	雅久		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「夏草：夏の野もさゆりなりでしこあさるに草のしきの秋ばかりかは、照射：おもひやれこれちよわたるわなれどもしに鹿のさくあはれを、窓月：さやけさわが涙よりくもりけり物思ふ袖にをしき月影」
文政12年 6月4日	59		仙洞		壽山亭で揮秋を御覧				光格天皇実録	
文政12年 6月8日	59	当座御会	内裏	組題20首 (2字題) 仁孝：翟姜		飛鳥井中納言	建房		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「咲しよりから紅のからにしさまがきよそほふ花のとこなつ」
文政12年 6月16日	59		仙洞		嘉祥の儀あり、出御				光格天皇実録	
文政12年 6月21日	59		仙洞		夜、別殿 (小御所) に渡御。				光格天皇実録	
文政12年 6月24日	59	月次御会	内裏	組題50首 (3～4字題) 仁孝：簾夕顔、朝氷室、瀬辺陣	夜、別殿 (小御所) に渡御。 源三位、美徳朝臣等を召す	左兵衛督	為全		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「簾夕顔：たそがれにほのほの軒をとひしよりちぎりぞかゝる花の夕がほ、朝氷室：入がたの月も残りてむろ山いとゝすゝしき合の朝風、瀬辺陣：すゝしくもみだれあひけり松陰に満のしらいと鯉のもうろ」
文政12年 6月25日	59	聖廟御法楽	内裏	組題50首 (3字題) 仁孝：夏月明		左衛門督	顕孝	講師：隆光朝臣	国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「てる影に猶すゝしさはまし氷のながれくもらぬ夏の夜の月」
文政12年 6月25日	59	聖廟御法楽	仙洞	組題50首 (1字題) 光格：泉	暮ぬけは月もつかひていは 清水よすがらすゝし結ひ明 さむ	左衛門督	光成	講師：正房	国会本内裏 有栖川宮本	「小御所二於テ聖廟御法楽和歌ノ披露アリ」 (光格天皇実録)
文政12年 6月30日	59		仙洞		六月祓・茅織のため出御				光格天皇実録	
文政12年 7月7日	59	七夕御会	内裏	乞巧奠	君が代の久望のあさのほし まつりねがひの糸のながき 千筋も (院御製)	飛鳥井中納言	建房		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製、光格上皇御製の順に掲載。仁孝天皇御製「秋いく世なほつきせしな今日毎のほしのちぎりもにはの手向も」 (巻頭)。大宮御歌なし。女御・女房達：女御、大典侍、幸相のすけ、按察使典侍、権すけ、新大納言、権中納言、勾当内侍、侍従のないし、兵衛内侍、命婦いよ、命婦伯耆、女藏人相模、女くら人越後、やまと (巻末)。
文政12年 7月24日	59	月次御会	内裏	椿、露、花		民部卿	俊明		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「椿：空の色にすゝしく咲ておく露はほしの光の花の朝がほ、露：百草におきみだれつゝしら露のわが物がほの野への夕ぐれ、花：和木つみかふふ合川の瀬をはやみせかれても猶下すいかだし」
文政12年 8月1日	59		仙洞		八朔の儀あり				光格天皇実録	
文政12年 8月5日	59		仙洞		夜、別殿 (小御所) に渡御。 新中納言、美徳朝臣等を召す				光格天皇実録	
文政12年 8月19日	59		仙洞		後水尾天皇の百五十回聖忌により、代参として右兵衛督藤谷為情を船舟三昧院ならびに泉涌寺に連わす				光格天皇実録	
文政12年 8月22日	59		内裏		縁裏に御幸				光格天皇実録	

光格上皇主催御会和歌年表 ― 文政期編

文政12年 8月28日	59	(去廿四日 御延引) 月 次御会	内裏	組題50首 (3～4字 題) 仁孝：有曙月、 田上月、奇月増恋	仁孝天皇は、題のみで御製 なし。	左衛門督	光成		国会本内裏 有栖川宮本	
文政12年 9月2日	59		仙洞		伊勢皇大神宮造替正遷宮の 儀を行つにあたって、常御 所南庭で御拜				光格天皇実録	
文政12年 9月5日	59		仙洞		豊受大神宮造替正遷宮の儀 を行つにあたって、常御所 南庭で御拜。この夜、洞中 の御格子を下さず				光格天皇実録	
文政12年 9月9日	59	重陽御会	内裏	菊粧如錦		右石衛督	顕孝		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「ませの中にとばりよそむてから錦おりか くる花は菊のたねぬき」。女房遣：大典侍、幸相のすけ、 あぜちの典侍、女御、勾当内侍、侍從内侍、兵衛内侍、 命婦いは、命婦伯耆、女蔵人相模、女くら人越後(巻末)
文政12年 9月14日	59	於修学院御 当座	修学 院	山水秋深	いろいろづける山の本葉のかげ すみて池の心も秋ふかく見 ゆ	為全	為全		有栖川宮本	「修学院離宮二御幸アラセラル、先々壽月觀二於テ当座 和歌御会ヲ行ハル、尋イテ上離宮に渡御、庭苑、赤山邊 ヲ御座覧ノ後、林丘寺ニ入御、下離宮ニ還御、壽月觀ニ 於テ管絃ノ御遊ヲ行ハル、尊ノ御所作アラセラル」(光 格天皇実録)
文政12年 9月14日	59	於修学院御 当座(後 座)	修学 院	組題30首 (3～4字 題) 光格：野外虫、 月照瀧	野外虫：小夜ふけて何をま つ虫こゝらなく秋雲き露の 野への草へに、月照瀧：音 にさゝし音羽の瀧のみね晴 てかけざし照す月をみるか な	為全	為全		有栖川宮本	「修学院離宮二御幸アラセラル、先々壽月觀二於テ当座 和歌御会ヲ行ハル、尋イテ上離宮に渡御、庭苑、赤山邊 ヲ御座覧ノ後、林丘寺ニ入御、下離宮ニ還御、壽月觀ニ 於テ管絃ノ御遊ヲ行ハル、尊ノ御所作アラセラル」(光 格天皇実録)
文政12年 9月16日	59		仙洞		夜、別殿(小御所)に渡御。 刑部卿、通修朝臣を召す				光格天皇実録	
文政12年 9月21日	59		仙洞		昨夜、大業院門跡慶範遷化 により、この日、物音を停 む				光格天皇実録	
文政12年 9月24日	59	月次御会	内裏	橘衣、紅葉、逢恋		飛鳥井中納言	為脩		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「橘衣：うつたへの声もしきりて小夜さぬ た闇によさむのあはれさぞそふ、紅葉：薄くこき紅葉の にしきたてぬきにおりわけ染る衣手のもり、逢恋：とし 月にうらまじものをこよむしもくうちとくる中としり なば」
文政12年 9月24日	59		仙洞		小御所において管絃の御遊 を行つため出御。等の御所 作				光格天皇実録	
文政12年 9月27日	59		仙洞		權中納言飛鳥井雅光に三部 抄丘章を相伝				光格天皇実録	
文政12年 10月2日	59		仙洞		後桜町天皇の十七回聖忌に より、十月二日・三日に仙 洞において饗法講を行う				光格天皇実録	
文政12年 10月7日	59	当座御会	仙洞	組題30首 (2～3字 題) 光格：松上霞	すみの江の涼風ゆらく春の 日は秋のみどりも霞みそひ つゝ	民部卿	為脩		有栖川宮本	「和歌当座御会ヲ行ハル、出御アラセラル」(光格天皇実 録)
文政12年 10月13日	59	和歌当座御 会	内裏	組題20首 (3字題) 仁孝：朝時雨		飛鳥井中納言	為全		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「朝日影ほのめく峰にむら雲のかゝるとみ れば時雨ふるそら」
文政12年 10月14日	59		仙洞		玄霜の儀あり				光格天皇実録	

年月日	年齢	御会名	場所	歌題	光格天皇御製および事項	題者	奉行	その他の諸役	出典	備考
文政12年 10月17日	59		内裏		禁裏に御幸				光格天皇実録	
文政12年 10月19日	59		仙洞		小御所において管絃の御遊 を行つたため出御。琵琶の御 所作				光格天皇実録	
文政12年 10月20日	59		仙洞		壽山亭で權紹を御覧				光格天皇実録	
文政12年 10月21日	59		仙洞		青蓮院尊実親王が勅令伝 法灌頂を行うのに、御祝儀 のため役を遣わし物を贈つ				光格天皇実録	
文政12年 10月24日	59	月次御会	内裏	組題67首 (1~4字 題) 仁孝：落葉、不 達窓、旅		民部卿	雅久		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「落葉：白妙の霜の裏砂をくれなゐにふか くも染めてちる木葉かな、不達窓：せめてたゞそりそめ にだに達よしのあらは思ひをいひもはるけむ、旅：旅衣 ひなの長路に重ねきてきてのふもけふも袖ぞしぐるゝ」
文政12年 10月25日	59		内裏		禁裏に御幸				光格天皇実録	
文政12年 11月24日	59	月次御会	内裏	浦伝千鳥、夜寒重 森、雪中眺望		飛鳥井中納言	為全		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「浦伝千鳥：すまあかし霜夜の月も影さゆ る波路の千どり浦つたふこゑ、夜寒重森：うつみ火のひ かりもあれどさゆる夜はふすまをいく重かさねてぞぬ る、雪中眺望：こすまきて外山を寒み見渡せば雪にあさ 日のかけぞかゝやく」
文政12年 12月2日	59	当座御会	内裏	組題30首 (3~4字 題) 仁孝：名所雪		民部卿	顕孝		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「名にたかきあたご大ひえをしなべてたゞ 白妙の雪の山々」
文政12年 12月11日	59		仙洞		夜、別殿 (小御所) に渡御。 権大納言、重徳朝臣等を召 す				光格天皇実録	
文政12年 12月13日	59		仙洞		小御所において管絃の御遊 を行つたため庫中に出御。事 の御所作				光格天皇実録	
文政12年 12月22日	59		仙洞		弘御所前庭において御髪上 げ				光格天皇実録	
文政12年 12月24日	59	月次御会	内裏	組題100首 (2~4 字題) 仁孝：河千鳥、 竹雪、歳暮松		左衛門督	光成		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「河千鳥：さほ河やさをのしづくも氷るよ に舟とふ千どり声の寒けき、竹雪：はちへどもあともより つもる雪にけさ下折おもき庭のなよ竹、歳暮松：雪とど もに年もつもの浦寒みいそべに春を松の一しほ」
文政13年 1月1日	60		仙洞		四方拜を行うが出御せず。 朝餉間に出御し御燭国の 事。拝礼を行う。常御所に 出御し諸臣に詣す				光格天皇実録	
文政13年 1月2日	60		仙洞		拝礼あり。小御所に出御し 諸臣に詣す				光格天皇実録	
文政13年 1月3日	60		仙洞		吉書御覧のため出御				光格天皇実録	
文政13年 1月4日	60		内裏		禁裏に御幸始				光格天皇実録	

光格上皇主催御会和歌年表 ― 文政期編

文政13年 1月7日	60		仙洞				千秋万歳・白馬御覧のため 出御					光格天皇実録	
文政13年 1月11日	60		仙洞				夜、別殿（呉服所）に渡御。 武者小路三位、実履朝臣等 を召す					光格天皇実録	
文政13年 1月13日	60		仙洞				諸礼のため弘御所に 出御。次に小御所に渡御					光格天皇実録	
文政13年 1月14日	60		仙洞				太元帥法結願・後七日御修 法のため両法阿闍梨、参 院。弘御所に 出御し詣す					光格天皇実録	
文政13年 1月15日	60		仙洞				御吉書・三穂打のため小御 所に 出御					光格天皇実録	
文政13年 1月18日	60		仙洞		庭樹多佳趣		むめ順い香そひけり庭も せはこゝら木のめもはるの ひかりに	光成	飛鳥井中納言			有栖川宮本 大納言、権中納言、葛蒲小路、常盤井、勾当内侍、命婦 はづき、紀伊（巻末）。「和歌御会始ヲ行ハル、出御アラ セラル」（光格天皇実録）	
文政13年 1月24日	60		内裏		松風調琴		松風のかよふをことばひき ならすねにおもほえぬしら べもぞそふ（院御覧）	顕孝	左兵衛督			国会本内裏 有栖川宮本 仁孝天皇御覧、光格上皇御覧の順に掲載。仁孝天皇御覧 「のどかなる春のしらの声たてゝことにぞかよふ軒の まつかげ」（巻頭）。大宮御覧なし。女房達：大典侍、宰 相のすけ、按察使典侍、権すけ、新大納言、権中納言、 勾当内侍、侍従のないし、兵衛内侍、命婦はづき、女く ら人相模、女蔵人あちこ（巻末）	
文政13年 1月27日	60		内裏				禁裏に御幸					光格天皇実録	
文政13年 2月4日	60		内裏		組題30首（2字題） 光格：神社		万代と内外の宮の宮はしら かみちの山にたちさかえま す（院御覧）	光成	左衛門督			国会本内裏 有栖川宮本 仁孝天皇御覧「余寒：春霞いまささぎの比ながらまた 冴かへる朝かぜの空」（巻頭）	
文政13年 2月19日	60		仙洞		組題30首（2～3字 題）光格：早春鶯		毎朝毎朝とけ行こゑに春さ すのひかすしらるゝ園の鶯	顕孝	左兵衛督			有栖川宮本 「和歌当座御会ヲ行ハル、出御アラセラル」（光格天皇実 録）	
文政13年 2月22日	60		内裏		組題20首（3字題） 仁孝：水始解			建房	民部卿			国会本内裏 有栖川宮本 仁孝天皇御覧「山本の雪はさえなほ水無瀬河こほりを波 にかへすはる風」	
文政13年 2月22日	60		仙洞		組題20首（2字題） 光格：山霞		さほ姫の心とけたる春の色 にかすみかゝらぬ山崎もな し	顕孝	左衛門督			有栖川宮本 「小御所ニ於テ水無瀬宮御法楽和歌ノ讀上アリ」（光格天 皇実録）	
文政13年 2月23日	60		内裏				夜、別殿（呉服所）渡御。 修理権大夫、重徳朝臣等を 召す					光格天皇実録	
文政13年 2月24日	60		内裏		組題50首（1～2字 題）仁孝：霞、紅葉、 海			為全	飛鳥井中納言			国会本内裏 有栖川宮本 仁孝天皇御覧「霞：春なれや風なほ寒き朝戸出もかし が霞む山のの霞：紅葉：立田姫いかに染てかからにし きやまとにみする山の紅葉ゝ、海：さしのほる日影にみ ればわたの原かきりも波のはるゝ朝なぞ」	
文政13年 2月25日	60		内裏		組題50首（2～3字 題）仁孝：子日			光成	左衛門督			国会本内裏 有栖川宮本 仁孝天皇御覧「千早振北野ゝ野べに子日めてぐみさか ゆる小松をぞひく」	
文政13年 2月25日	60		仙洞		組題50首（2～4字 題）光格：梅花告春		消かての雪も匂ひて梅が香 にはるを告たる枝のはつ花	雅久	雅久			有栖川宮本 「小御所ニ於テ聖廟御法楽和歌ノ讀上アリ」（光格天皇実 録）	
文政13年 3月2日	60		内裏				禁裏に御幸					光格天皇実録	

年月日	年齢	御会名	場所	歌題	光格天皇御製および事項	題者	奉行	その他の諸役	出典	備考
文政13年 3月7日	60	当座御会	内裏	組題20首(3字題) 仁孝：春夕月(有栖川宮本では題は「春草蒔」)	光格天皇御製「ひばり鳴春の野はらを見わたせば花の小	雅久	雅久		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「ひばり鳴春の野はらを見わたせば花の小 草の錦がすめり」
文政13年 3月18日	60	神影供	内裏	花間春月	春の夜の木間もつぎの影 は花はなはけにぞかすみ あひぬる	飛鳥井中納言	雅久	読師：鷲尾前大納 言、講師：為知、発 声：左京大夫	有栖川宮本	「柿本社神影供ヲ行ハル、出御アラセラル」(光格天皇実 録)
文政13年 3月24日	60	月次御会	内裏	花霞、田蛙、風帆		民部卿	雅久		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「花霞：立こめしかすみみがくれはひとはしほ に瀧しのばるゝ花のおもかけ、田蛙：しつのみか苗代み づはわれもちもと蛙の声のすだく小山田、風帆：まほこ みえかたはほにみえて浦波にこぎつる舟やかぜのまにま に」
文政13年 3月28日	60		内裏		禁裏に御幸				光格天皇実録	
文政13年 後3月4日	60		仙洞		夜、別殿(呉服所)渡御。 東久世三位、有喜朝臣等を 召す				光格天皇実録	
文政13年 後3月5日	60		仙洞		宇多天皇の九百回聖忌によ り、仁和寺金堂において曼 陀羅供養を修す。御講経使 として院別当高松保右を遣 わす				光格天皇実録	
文政13年 後3月7日	60	当座御会	内裏	組題30首(かな題) 仁孝：みぬ人こふる		民部卿	俊明		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「それとのみきゝし思ひにいく月日みぬ人 こふる恋そよしなき」
文政13年 後3月16日	60	於修学院御 当座	修学 院	春日遅々	斧の柄の山路おもむし春の 日をけふの遊びにむべとし るしも	雅久	雅久		有栖川宮本	「修学院離宮二御幸アラセラル、先ず壽月観二於テ和歌 御会ヲ行ハル、尊イデ上離宮二渡御、庭苑、赤山邊ヲ御 遊覧、隣雲亭二少時御休憩、後、音羽瀧ヲ御覧アラセラ し、林丘寺二臨御、次ニ隣雲亭二還御ノ後、諸臣ト節ノ 合奏アラセラル、戌終刻、下離宮二還御、壽月観二於テ 管絃ノ御遊ヲ行ハル、笛、羯鼓、琵琶ノ御所作アラセラ ル」(光格天皇実録)
文政13年 後3月16日	60	於修学院御 当座(後 座)	修学 院	組題6首(3~4字 題)光格：湘月見花	いはねふみ浦波とめて山ざ くらくはゝる春のかひに見 るかな	雅久	雅久		有栖川宮本	「修学院離宮二御幸アラセラル、先ず壽月観二於テ和歌 御会ヲ行ハル、尊イデ上離宮二渡御、庭苑、赤山邊ヲ御 遊覧、隣雲亭二少時御休憩、後、音羽瀧ヲ御覧アラセラ し、林丘寺二臨御、次ニ隣雲亭二還御ノ後、諸臣ト節ノ 合奏アラセラル、戌終刻、下離宮二還御、壽月観二於テ 管絃ノ御遊ヲ行ハル、笛、羯鼓、琵琶ノ御所作アラセラ ル」(光格天皇実録)
文政13年 後3月24日	60	月次御会	内裏	組題5首(1字題) 仁孝：夏、秋、恋		左兵衛督	為全		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「夏：ほとゝぎす声をも洩せ夕月に光をか はす庭の卯花、秋：露かゝる萩の上風そよぐ雪のあきを しればやきなく初雁、恋：こがれつゝつれなき恋をする がなるふじの煙もむねのけふりと」
文政13年 後3月24日	60		内裏		舞楽御覧のため禁裏に御幸				光格天皇実録	



文政13年 後3月28 日	60		仙洞			去る二十日、伊勢内宮別宮 荒祭宮以下炎上の事、奏 聞。よって、この日より五 日間、物音を停む				光格天皇実録	
文政13年 4月17日	60		仙洞			夜、別殿（呉服所）渡御。 東久世三位、有容朝臣等を 召す				光格天皇実録	
文政13年 4月24日	60	月次御会	内裏			新樹露、郭公待五 月、遇不達恋	雅光	雅光		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「新樹露：わかみどりしりしげるわか葉のさゝ の夜にむすびてすゝし露のしら玉、郭公待五月：かたら ふは五月の空と思ふにも端またれつる山ほとゝぎす、遇 不達恋：あはぬまのつらさみしらみそへも今はつき 身にしたはれぞる」
文政13年 4月27日	60	当座御会	内裏			組題10首（3字題） 仁孝：卯花盛	飛鳥井中納言	為脩		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「青葉さへみえぬばかりに咲みちてたゝ白 妙の卯花のかけ」
文政13年 5月18日	60		仙洞							光格天皇実録	
文政13年 5月24日	60	月次御会	内裏			組題21首（3～5字 題）仁孝：郭公数声、 海郭公、郭公稀	左衛門督	為脩		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「郭公数声：雨になき月にかたらふほとゝ ぎすおのが時ぞと声しきるなり、海郭公：ほとゝぎすな れも影をやめでゝ晴月のあかしの波のよるよる、郭公 稀：郭公ころろすきぬとやさみだれのはれ行まゝに還さか る声」
文政13年 5月28日	60		仙洞			皇女倫宮、薨去。この日より三日間、物音を停む				光格天皇実録	
文政13年 6月2日	60		仙洞			夜、別殿（呉服所）に渡御。 大蔵卿、公恰朝臣等を召す				光格天皇実録	
文政13年 6月16日	60		仙洞			嘉祥の儀あり、出御				光格天皇実録	
文政13年 6月24日	60	月次御会	内裏			夏夜月庭、瀧上蟬、 霧旅	左兵衛督	俊明		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「夏夜月庭：月影のくまなくてらすよもす から涼しさあかぬ庭のまさごち、瀧上蟬：あひにあひて 涼しかりけりいはがねの瀧のひゝきにせみのよろこぶ、 霧旅：旅衣きのふは山路けふは野ち明日は舟路とたちか はり行」
文政13年 6月25日	60	聖廟御法楽	内裏			組題10首（3字題） 仁孝：霍妾露	飛鳥井中納言	顕孝	講師：正房	国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「いろいろにしける御の床夏を今一しほと 露やむすへる」
文政13年 6月25日	60	聖廟御法楽	仙洞			生ぞめし昔やいく世幾千年 しら雲かゝる瀧の松が枝	民部卿	為全	講師：為和	有栖川宮本	「小御所二於テ聖廟御法楽和歌ノ詠上アリ」（光格天皇実 録）
文政13年 6月29日	60		仙洞			六月祓・茅輪のため出御				光格天皇実録	
文政13年 7月2日	60		仙洞			禊露あり。院中鳴動し、常 御所東庭に御座を設け渡御				光格天皇実録	
文政13年 7月4日	60		仙洞			時々地震。常御所御修復に より、この日より小御所に 渡御				光格天皇実録	
文政13年 7月13日	60		仙洞			四五度、地震。夜、別殿に 渡御。男方、召さす				光格天皇実録	

年月日	年齢	御会名	場所	歌題	光格天皇御製および事項	題者	奉行	その他の諸役	出典	備考
文政13年 7月24日	60	月次御会	内裏	組題100首(2~4 字題)仁孝:萩露、 寄虫恋、浦舟		民部卿	顕孝		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「萩露:折とらばみだれやとをしめどもつゝやむべき萩の露かは、寄虫恋:おもひわかれもよすがらねになかん草のしけみの虫ならねども、浦舟:すまの浦や名におふ萩の月夜よしよゝしとつかぶあまのつり舟」
文政13年 7月25日	60		仙洞		將軍徳川家齊の女和姫の逝去を奏聞。この日より三日間、物音を停む				光格天皇実録	
文政13年 8月1日	60		仙洞		八朔の儀あり				光格天皇実録	
文政13年 8月24日	60	月次御会	内裏	雲収月明、塙屋月、 寄月統世		左兵衛督	俊明		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「雲収月明:心あれやさやき影をへだてじと月出る空にはるゝうき雲、塙屋月:けぶりさへかけにけたれてすまの浦しほやさき月のよなよな、寄月祝世:久かたの空すも月は秋つすのよもゆたかなる万代の影」
文政13年 8月27日	60		仙洞		夜、別殿(呉服所)に渡御。 刑部卿、有容朝臣等を召す				光格天皇実録	
文政13年 8月30日	60		仙洞		常御所、御修復により還御				光格天皇実録	
文政13年 9月9日	60	重陽御会	内裏	菊有延年色		左衛門督	顕孝		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「さゝれ石のいはほとならん秋幾世なほつさせめやきくのさかりは」。女房連:女御、大典侍、幸相のすけ、勾当内侍、侍従のないし、兵衛内侍、命婦いよ、命婦伯耆、女藏人相模、女藏人ゑちこ(巻末)。
文政13年 9月24日	60	月次御会	内裏	組題100首(2~4 字題)仁孝:庭紅葉、 寄秋雲恋、秋野		左衛門督	雅光		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「庭紅葉:染つくす山の千しほやいかならんみざりもふかき萩の紅葉さ、寄秋雲恋:つれなしや人の心の秋みせてあはれ白雲のへだてではてぬる。秋野:八千種の花もつらふ秋ふかみのを寒しとやつつら鳴こゑ」
文政13年 10月10日	60		仙洞		夜、別殿(呉服所)に渡御。 右衛門督、美徳朝臣等を召す				光格天皇実録	
文政13年 10月15日	60		仙洞		玄曜の儀				光格天皇実録	
文政13年 10月17日	60		仙洞		壽山亭で種稻を御覧				光格天皇実録	
文政13年 10月24日	60	月次御会	内裏	松霜深、水鳥多、相 思恋		飛鳥井中納言	雅久		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「松霜深:深みどしりしげるみざりの萩の葉にかねて白くおけるしもかな、水鳥多:かれあしもむすぶ氷も毛をひとつにしきの池のみつとり、相思恋:もろともにかゝるおもひの中ならば人をも身をも何つらむべき」
文政13年 11月22日	60		仙洞		夜、別殿(呉服所)に渡御。 左衛門督、重徳朝臣等を召す				光格天皇実録	
文政13年 11月23日	60		仙洞		聖護院宮室に親王、薨去。 この日より三日間、御傾。 物音を停む				光格天皇実録	

文政13年 11月28日	60	月次御会	内裏	組歌20首（2～4字 題）仁孝天皇：雪随 風、		左兵衛督	俊明		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「雪随風：おとたてゝ吹さそふ空に打ちら し降りける雪ぞ風のまゝなる、花洛雪：散かふも花の都 の名にあひてかをるばかりのけさの白ゆき、望雪：から さきの松も白妙につもれて雪をのせ行しかの浦ふね」
天保1年 12月19日	60		仙詞		弘御所前庭において御髪上 げ				光格天皇実録	
天保1年 12月23日	60		仙詞		夜、別殿（呉服所）に渡御。 六角前宰相、恭光を召す				光格天皇実録	
天保1年 12月24日	60	月次御会	内裏	早梅句、歳中黨、殿 上苔		為全	為全		国会本内裏 有栖川宮本	仁孝天皇御製「早梅句：年さむきまだ冬ながらこの朝け 春の立枝と匂ふ梅がゝ、歳中黨：けふたちし春をは声に 先づけて年の中にもきなく黨、殿上苔：千とせふるいは ほがうへの苔むしろ猶いく世々にしきかさぬらん」